読書科学

第6巻第1・2号（通巻 第19・20号）昭和37年4月10日発行（年4回発行）
昭和 31年12月27日 国鉄特別扱雑誌 第3373号

読書過程の分析的研究　岡本奎六
読書中における心理・生理反応に関する研究　原野広太郎
読書中におけるPGR　阪本敬彦
読書による態度変容の実験的研究　岡田明
カナ文字の識別に関する研究（I）　村石昭三・阪本敬彦・加賀秀夫
言葉の表現効果について　福沢周亮
文章の語彙比重の査定法　阪本一郎
こどもの生活環境と読書　河北憲夫
青少年の読書生活の実態調査　北島武彦
農村における児童の読書生活と心理　楮本良平
勤労青少年の生活と読書　第3分科会
新潟県の農村地帯における読書の実態調査　渡辺正亥
農村の生活費よりみた文化教養費支出の特質について　中野哲二
テレビ図書館の視聴と読書指導　渡辺正己

日本読書学会編集

19・20

牧書店発行

◇本　号　目　次◇

原　著

読書過程の分析的研究	岡本奎六	1
読書中における心理・生理反応に関する研究	原野広太郎	9
読書中におけるＰＧＲ	阪本敬彦	13
読書による態度変容の実験的研究	岡田明	17
カナ文字の識別に関する研究(Ｉ)	村石昭三 阪本敬彦 加賀秀夫	23
言葉の表現効果について	福沢周亮	28
文章の語彙比重の査定法	阪本一郎	37
こどもの生活環境と読書	河北憲夫	45
青少年の読書生活の実態調査	北島武彦	49
農村における児童の読書生活と心理	楮本良平	54
勤労青少年の生活と読書	読書科学総合研究第３分科会	59
新潟県の農村地帯における読書の実態調査	渡辺正亥	74
農村の生活費よりみた文化教養費支出の特質について	中野哲二	86
テレビ図書館の視聴と読書指導	渡辺正己	93

資　料

読書科学文献目録	北島武彦	112
読書時潮		104
会　報		109
会員名簿		

日本読書学会役員

会　長（理事長）　阪本　一郎

常任理事　大内　茂男　岡本　奎六　滑川　道夫　波多野完治　平沢　薫
深川　恒喜　松村　康平　村石　昭三　望月　久貴　渡辺　茂男

監　事　裏田　武夫　長島　貞夫

理　事　井口　忠司　石森　延男　伊東　正勝　大西誠一郎　尾原　淳夫
加賀　栄治　叶沢　清介　蒲地　正夫　菅　忠道　沓掛伊佐吉
久保田彦穂　黒沢　信男　桑原　善作　小針　孝哉　駒田　錦一
西藤寿太郎　佐藤宏之助　佐藤　泰正　佐藤　貢　島崎　敏樹
清水　正男　高細　功　竹内　実次　花田　哲幸　藤田　圭雄
松本　茂　嶺　光雄　三宅千代二　三輪　計雄　三輪　和敏
村上　俊亮　室伏　武　森田　宗一　弥吉　光長　渡辺　正亥

「読書科学」編集委員　裏田　武夫　大内　茂男　岡本　奎六　阪本　一郎
滑川　道夫　平沢　薫　深川　恒喜　松村　康平　村石　昭三
望月　久貴　渡辺　茂男

読書過程の分析的研究*

——モノログ法による——

日本読書学会読書心理部会
岡　本　奎　六**

1　研究の目的と方法

(1) 目　的

読書時に現われる心理作用として，たとえば叙述を関連づけて筋を捕えるためのまとめの作用がある。主要なる登場人場や場面をしっかり記銘するための，確認作用もある。ある出来事の叙述を手がかりに，その原因の推論作用やつぎの発展の予測作用もある。人物の行動に対しては，同情や反感などの感情をいだいたり，批判を行なったりもする。読書過程は，こうした多様な心理作用の連続といえよう。

このように，多様な心理作用の連続としての読書過程を，モノログ法によって明らかにするのがこの研究の目的である。

(2) 方　法

先ず読書素材であるが，これは芥川竜之介著「捨て児」を用いた。新潮文庫本に収録されており，約10ページの短篇である。この作品を実験の読書素材に選んだ理由は，つぎのとおりである。

① 筋に起伏があって，多種類の心理作用の表出が期待されること。

② この作品は有名ではないので，被験者が実験の時はじめて読む率が高いこと。（事実，全被験者が始めて読んだ。）

③ 文庫本で10ページほどであり，20分ぐらいで読み終えることができる。

これらの3点は読書実験の素材として適切な条件であるので，この作品を選んだ。

被験者は男女大学生・大学院学生13名である。東京教育大心理・東京学芸大国語・立正女子短大家政の各科がその所属である。

実験の仕方はモノログ法である。つまり，被験者は読書素材を微音読し，その際考えたこと感じたことはもれなく音声に発する。したがって，読書時におこる心理作用は，モノログとして時々刻々に表出されるわけである。このモノログを録音しておき，後で再生して一定の角度から分析した。

モノログ法は内省法とちがい，時々刻々の心理作用が音声に発せられ記録される。そのために，正確に時々刻々の心理作用をとらえることができる。しかし，被験者が思ったこと感じたことをもれなく音声に表出できるように，また音声に表出することによって被験者の心理作用が歪められないように，被験者にあらかじめ訓練を行なわねばならない。

実験の期日は1961年の正月を中心に，3カ月に渉っておこなった。テープレコーダーを備えた実験室に，被験者を一人一人呼び入れ，個人別に実験を行なった。

ここで読書素材として用いた「捨て児」の内容を示せば第1表の通りである。表のⅠⅡⅢなどは内容区分であり，全部で14区分されている。

---

* The Analytical Study of the Reading Process

** Keiroku Okamoto (J. S. S. R)

第1表　読書素材「捨て児」の内容

区分	内　　容
Ⅰ	浅草は信行寺の門前に，みすぼらしい捨て児があった。
Ⅱ	元は左官だったでんぽう肌の和尚が，この捨て児をさりげなく拾った。
Ⅲ	和尚は熱のある捨て児をだいて読経することもあったほど，苦労をして育てた。
Ⅳ	捨て児3歳の時，にせ親が現われたが，和尚はこれを見破って追い出した。
Ⅴ	ついで品のよい女が現われ，親と名のって養育の礼を述べた。
Ⅵ	女が捨て児をしたわけを語ったところによると先ず破産して捨て児をし，横浜に逃げた。
Ⅶ	苦労の末横浜では運送屋として一応成功し，幸福な家庭を営んだ。
Ⅷ	しかし良人は急死するし，生れた次男もその後死ぬ悲運にあった。
Ⅸ	悲嘆にくれたあげく，女は捨て児をたよりに再び上京した。
Ⅹ	たまたま寺で蓮華夫人の説教を聞き，説教後感動しながら和尚の後にしたがった。
Ⅺ	この女の話を聞き，和尚は女に捨て児と涙の対面を許し，捨て児を引きとらせた。
Ⅻ	以上の捨て児の話をある客が私に語った。客の話の続きによると，この捨て児こそ客であるがこの女は実は実母ではなかった。
XⅢ	つまりある機会に客が知ったところでは，女は死んだわが児の代りに，和尚の説教に感動してか捨て児であった客を育てた。
XⅣ	客を育てたこの女の秘密を知ってからというもの，客には女が実母以上に思えた。

2　研究結果その1—モノログの類型

読書時に考えたこと感じたことをことばで表出したモノログを分類したのが第2表である。この表にある12の型のモノログについて，つぎに説明を加えよう。

(1)　抵抗のモノログ

「この字は何と読むのかな」

「これは○○という意味のことばかな」

これらの例に示されたモノログは，文字の読みや語の意味理解に抵抗を感じた時に発せられる。そこでこれを抵抗の心理作用を示すモノログと呼ぶことにした。

読字の抵抗を示すモノログが多く現われたのは，つぎの語であった。

贔屓・庫裡・囲炉裡・河岸・彼岸・彼是

つぎに語意の抵抗を示すモノログには，つぎのものがある。

でんぽう肌・看経・朱骨の中啓・黄八丈の一つ身

抵抗のモノログは，第2表によると24件も現われてい

第2表　モノログの型

類　型	主なる機能		出現頻数	主な出現区分
(1)抵　抗	——		24件	(2)
(2)確　認	重要な叙述細部の記銘	文章の理解	31件	(1)(6・7)(12)(14)
(3)まとめ	筋の把握	文章の理解	14件	(6・7)(13)(14)
(4)文脈意識	叙述の位置付け	文章の理解	10件	(6・7)(12)
(5)予　測	叙述の関係付け	文章の理解	8件	(5)
(6)推　論	叙述の関係付け	文章の理解	20件	(8)(13)
(7)行動批判	思想の強化	文章の批評・鑑賞	19件	(9)(10)
(8)人物評価	思想の強化	文章の批評・鑑賞	16件	(2)(3)(4)
(9)文体批判	文体の美意識の強化	文章の批評・鑑賞	12件	(12)
(10)一般化	思想の強化	文章の批評・鑑賞	10件	(8)
(11)感　情	情操の強化	文章の批評・鑑賞	35件	(3)(4)(8)(9)(12)
(12)連　想	——		2件	——

て多い。また表にみられるように「捨て児」の第2区分にこの型のモノログが多く現われているが，これは第2区分に贔屓，でんぽう肌のような特殊な語が偶然多く集っていたためである。

(2)　確認のモノログ

「これは下町の話か」

「先ず捨て児があったのだな」

これらのモノログにみられるように，主なる登場人物，大切な場面などをはっきり記銘する手段として，確認のモノログがなされる。

第2表によると，確認のモノログは31件で，感情のモノログについで第2番目に多く現われている。このことは，多くの読み手は読書時に重要な事項を確認しつつ読書することを示す。

また，表によると，確認のモノログが多く現われている区分は第1，第6・7，第12，第14の各区分である。第1区分は登場人物や場面がはじめて紹介される部分であるから，これを確認してはっきり記銘しようとするのであろう。第6・7区分は女が事業の失敗に始まり，捨て児・逃避行を経て今日にいたるまでの半生を一気に語るところである。叙述のテンポは速いし筋の転換もいそがしいので，叙述の大切な部分をはっきり記銘するために，確認のモノログを行なうのであろう。第12区分は「女の話はある客が語ったが，その客がこの話の捨て児であり，女は実母ではなかった」という叙述のところである。したがってこの区分も筋の逆転，叙述のいそがしい展開のみられるところなので，確認のモノログが多く現れたものと考えられる。第14区分は女の身の上を知った後の客の心境の変化を述べたところである。「母以上の母に思えた」という表現がここにあり，その意味を理解するために，繰返し読んで確認する被験者が多かったようである。

(3) まとめのモノログ

「そうすると女は米やをしていたが破産した。捨て児をして横浜。運送や……子どもも生れて……」

このモノログにみられるように段落の要旨をまとめ，筋を把もうとするのがまとめのモノログである。

第2表によるとまとめのモノログは14件みられ，第6・7区分・第13区分・第14区分に多いことがわかる。第6・7区分は前にも述べたように，叙述のテンポがいそがしく筋も逆転するところである。したがって筋がつかみにくいので，これを正しくつかもうとしてまとめのモノログを多く行なうものと考えられる。第13・第14区分も簡潔に速いテンポで叙述を進めている他に，文章全体の結構を読み手は心の中でまとめ上げるべき結末部である。そういうわけでも，まとめのモノログが多いのであろう。

(4) 文脈意識のモノログ

「これは語り調の文だな」

「ここも客の身の上話の続きだな」

これらのモノログのように，叙述部分が文章全体の中のどんな文脈にあるかを位置づけようとするモノログである。

第2表によると，文脈意識のモノログは10件であり，第6・7区分と第12区分に多く現われている。第6・7区分と第12区分は前にも説明したように文脈の入り組んだ筋の把みにくいところなので，心の中で文脈を整理するためにこの種のモノログが多いのであろう。

(5) 予測のモノログ

「にせ親の後で品のよい女の出現——これが実母だろう」

このモノログにみられるように，予測のモノログは人物関係やでき事を直観的に予測するものであり，叙述相互の関係づけを正しく行なう上に大切な役割を果すものである。

第2表によると，予測のモノログは8件で，第5区分に多く現れている。第5区分には，捨て児の親と名乗るにせ親が現れてしばらくした後，品のよい女が現れたという叙述がある。この叙述のところで彼女は実母にちがいないという直観的な予測が多く現れている。

(6) 推論のモノログ

「良人と次男が死んだので，捨て児をつれ戻す気になったのだろう」

このモノログにみられるように，推論は叙述を手がかりにして行なわれ，叙述相互の関連づけを行なうものである。

第2表によると推論のモノログは20件とかなり多くなされており，第8区分と第13区分に集中して現われている。第8区分では，良人と次男の死の叙述のところで，これとすでにあった捨て児を連れ戻すという叙述とを関連づけ，後者（行動）の原因は前者（出来事）にあろうと推論している。第13区分では，実の親でない女が捨て児を実子として育てた原因を，実子が死んだという叙述のところで推論している。つまり，実子の死による淋しさをまぎらすためというのがその例である。予測のモノログの場合と同様，推論のモノログもその出現に適する

文脈のところで現われることがわかる。

(7) 行動批判のモノログ

「良人も次男も死んで，いまさらうろたえて捨て児を連れ戻そうとする気がわからない」

「いまさら蓮華夫人の話に感激する女の気がわからない」

これらの例のように，登場人物や，その行動に対して行なわれ，肯定的なものと否定的なものがある。これまで(1)から(6)までに述べたモノログは，いずれも文章の正しい理解に密接な関係のあるモノログであったが，この批判のモノログ以下は鑑賞・批評の面により密接に結びついている。

第2表によると，行動批判のモノログは19件と多く，とくに第9区分および第10区分に多く現われている。第9区分では捨て児を連れ戻す女の動機に，第10区分では蓮華夫人の話そのものおよびこれに対する女の反応に多くの批判が向けられている。

(8) 人物評価

「和尚はなかなかよくできた人物だな」

「捨て児を喰いものにしようとするなんて，にせ親は根生が先ず問題だ」

これらの例に見られるように，登場人物の価値評価がこのモノログである。行動批判のモノログにおいては，個々の行動の批判に重点が置かれているが，人物評価は個々の行動よりもその背後にある人格そのものの価値づけに重点を置いたモノログといってよかろう。なお行動批判も人物評価も，共に登場人物の行動ないし人格を，自己の行動傾向や人格思想などと対決させるところに生ずるもので，これによって自己の思想を繰り上げ，強化することができる。ここに人物評価や行動批判の読書における主なはたらきが考えられる。

第2表によると，人物評価は16件で，第2，第3，第4の各区分に多く現われている。これらの区分では，特異な人物である和尚の前身・人柄・捨て児に対する態度などが，つぎつぎに述べてある。したがって，人物評価はこの特異な和尚の人格に対して向けられている。

(9) 文体批判のモノログ

「劇中劇みたいな構成がおもしろいな」

これは第12区分で捨て児の話を，ある客人が語ったが，その客人こそ捨て児であったという文脈のところでなされた文体批判のモノログである。文体批判のモノログは単なる文体意識や文章構造の意識ではない。したがって文章の理解よりも鑑賞批評に密接な関係を持つモノログといえよう。

第2表によると文体批判のモノログは12件あり，とくに第12区分に多く現われている。これは第12区分が劇中劇式な文章構成をしており，筋の転換が読者の意表をつくものとなっている。そこに文体・文章構成に対する批判のモノログが集中している。

(10) 一般化のモノログ

「禍福はあざなう縄のごとしか」

このモノログは女が前半生を語った第8区分のところでなされたモノログである。できごとや人物の行動を一般化したものであるから，一般化のモノログと名付けた。

第2表によると一般化のモノログは10件あり，第8区分に多くみられる。いずれも登場人物の女の境遇に対してなされている。

(11) 感情のモノログ

読書時に感情の表出としてなされたモノログを一括し，ここでは感情のモノログと名付けた。このモノログは，感情の種類から分けるならば，つぎのようにさらにいくつかに分けられる。

① 同情のモノログ

たとえば第2区分で，和尚が乳児を男手で育てたという叙述のところで「わかるわ，その苦労」というモノログがある。

② 不安感ないしサスペンスのモノログ

たとえば第11区分で，せっかく幸福をつかみかけた女が良人にも子にも死に別れるという叙述のところに「かわいそうに。ついていないなあ」というモノログがある。

③　安心感のモノログ

第7区分の，女が横浜で苦労の末一応幸福になるという叙述のところで「やれやれ」というモノログがある。

④　ユーモア感のモノログ

たとえば第4区分で，にせ親を追い出す和尚がカンカンになっていたというところで，怒った和尚の図にユーモア感を感じた笑いが示されている。

⑤　驚きのモノログ

第12区分の「捨て児の話し手は私の客，この客は捨て児である」という叙述のところで，「えッ，何だって」というようなモノログがある。

これらのモノログはいずれも感情の表出であり，読書の知的側面よりも情意的側面に密接な関係がある。

第2表によると，感情のモノログは35件と最も多い。読書時には少なからず読み手の感情が誘発されることが，この高い件数に示されている。

⑿　連想のモノログ

たとえば第2区分の和尚が元左官やだったという叙述のところで「吉川英治も船大工だったっけ」というモノログがある。これは文章の理解鑑賞とは必ずしも関係のない，単なる連想である。この連想のモノログは第2表にみられるように，わずか2件にすぎない。

以上は被験者14人の現わしたモノログ202件を分類したものである。これらのモノログは，読書時にはいかに多種多様な心理作用がなされているかを示す。読書が叙述部分を併列的に結びつける単純な心理過程でないことは，これらのモノログによって明らかである。

3　研究結果その2—モノログと読書の流れ

モノログが第1区分から第14区分に渉る「捨て児」全体の流れの中でどのように現われるかを，ここで明らかにしよう。第3表はこの点を大雑把に示すものである。表は各区分毎に文章の内容（大意），全被験者の各区分毎のモノログ数，比較的多く現われた特徴的なモノログの型を表示している。以下表を中心にモノログと読書の流れとの関係を説明しよう。

第1区分では人物・場所の確認のモノログが多く現われ特徴的である。文章の初めの部分で，先ずそういうものを確認し，はっきり記銘しようとすることが，読書時に行なわれる。

第2区分から第4区分までは，和尚の特異な性格と行動の描写である。それゆえ，和尚の人物の価値づけを行なう人物評価が多くみられるのであろう。他方和尚の行動は特異なものであるが故に，ユーモア感を読み手に呼び起し，捨て児はあまりみじめなので同情を得る。これがこの区分において同情やユーモア感が特徴的な理由である。

第3表　　モノログと読書の流れ

区分	内　　容	モノログ数	特徴的なモノログの型
Ⅰ	門前に捨て児あり	16件	人物・場面の確認
Ⅱ	和尚これを拾う	19件	人物評価・抵抗
Ⅲ	苦心してこれを育てる	12件	人物評価・同情
Ⅳ	和尚にせ親を追い出す	13件	人物評価・ユーモア感
Ⅴ	品のよい女現わる	10件	人物の予測
Ⅵ Ⅶ	女，捨て児のいきさつを語る	20件	確認・文脈意識・行動批判
Ⅷ	女の再度に渉る不運	16件	同情・推論・一般化
Ⅸ	女，捨て児をつれ戻しに上京	11件	行動批判
Ⅹ	女，説教に感激する	11件	行動批判
Ⅺ	女・捨て児を連れ戻る	9件	安心感
Ⅻ	以上は客の話。客は捨て児で女は実母でない	21件	文脈意識・確認・驚き・文体批判
XⅢ	女が捨て児を拾い育てたいきさつ	19件	まとめ・確認・推論
XⅣ	女の身上を知った客の心境の変化	18件	まとめ・確認

第5区分は，にせ親の後で，品のよい女が親といって現われた場面であるが，にせ親の現われた後だけに，この女を実母と予測するモノログが特に多いのである。

第6・7区分は破産・捨て児・逃避行のところで，筋は急に転換するし，叙述はいそがしく展開している。それ故，文意を正しく理解するために，叙述細部の確認，文脈の意識などが盛んに行なわれる。行動批判は女の捨て児をした行為に対する批判である。

第8区分は女が良人と次男の死という再度の不幸に合

うところである。さすがに女に同情感が集まっている。

第9区分，第10区分は共に女の身の上話のところであり，共に女の行動に対する批判が主になっている。第9区分では，捨て児を連れ戻す気になった女の行動に対して，第10区分では蓮華夫人の話に感動した女の心的行動に対して，それぞれ行動批判が集中している。

第11区分はともあれ捨て児と共に女が横浜に戻るという筋で，多難な出来事の後だけに安心感のモノログが特徴的である。

第12区分は，捨て児と客の関係，女と捨て児との関係が明らかにされる。筋の逆転とテンポの速い叙述の部分であるだけに，ここでは文脈意識と確認という文章理解のためのモノログが特徴的である。加えて驚き，文体批判も，あざやかな筋の逆転に対してなされた特徴的なモノログといえよう。全体21件というモノログ件数も最大の頻数である。

第13区分，第14区分は，ストーリーの結末部分である。それだけに読み手はこれまでの筋をまとめ，全体の結構をとらえねばならない。まとめや確認のモノログが特徴的で多くみられるのはそのためである。

以上のように，モノログは読書の流れに沿って，その場その場に適するものが現われる。機械的に，文章構造に関係なく現われるものではない。

4　研究結果その3—モノログの個人差

読書過程に現われたモノログを，個人別に集計整理したのが第4表である。

表によると，モノログの出現頻数の最高は，第1被験者の27件であり，最低は第7被験者の8件である。一人当りのモノログ数は15.5件であり，出現頻数にも著しい個人差が伺がわれる。

つぎにモノログの類型から見ると，あるものは人物評価・文章内容の批判などが比較的多い。他のものは感情表出のモノログが多く，さらに別の被験者は，確認・まとめのような文章内容の受容・理解に関するモノログが多い。そこでモノログの類型別出現頻数を中心にすると，読み手の類型が考えられる。その主なるものは，(1)批評型　(2)感情型　(3)文章理解型　(5)文体批評型　(5)未熟型が挙げられる。いまこれらの型について，モノログの具体的内容を挙げながら考察することにしよう。

第4表　　モノログの個人差

モノログ＼被験者	(1)抵抗	(2)確認	(3)まとめ	(4)文脈意識	(5)予測	(6)推論	(7)内容批判	(8)人物評価	(9)文体批判	(10)一般化	(11)感情	(12)連想	計	読み手の型
1	0	2	1	0	4	4	7	3	1	2	3	0	27	批評
2	0	4	2	0	1	2	2	4	2	2	3	0	22	
3	3	3	1	1	1	3	2	1	1	1	4	0	21	
4	0	4	0	3	0	0	0	2	0	0	4	0	13	
5	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	8	0	13	感情
6	2	5	0	0	1	0	1	3	0	0	5	0	17	
7	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3	1	8	
8	0	0	0	0	0	1	2	0	5	0	1	0	9	文体批判
9	5	2	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	12	読書未熟
10	3	1	1	1	0	2	0	0	0	0	2	0	10	
11	6	1	2	0	0	0	0	0	0	3	1	1	14	
12	1	3	3	3	0	3	0	2	0	0	2	0	17	
13	3	6	3	2	0	3	1	0	1	0	0	0	19	文章理解
平均	1.8	2.4	1.1	1.5	0.6	0.8	2.7	0.8	1.4	0.9	1.2	0.2	15.5	

(1)　批評型の読み手

第4表の被験者1がその典型である。被験者1は表に見られるように文章内容の批評と人物評価とが10件もある。なおこの被験者の内容批判と人物評価のモノログを具体的に挙げるとつぎのとおりである。

① 第2区分　さりげなく捨て児を拾い，育てようとした和尚を評して「だいぶできた男だな」

② 第3区分　第2区分の終りの，和尚が元左官だったという叙述のところで「生ぐさかな」という直観的予測をしていたが，捨て児を苦心して育てる叙述のところで「生ぐさどころではない」という人物評価。

③ 第3区分　熱のある捨て児をだいたまま法事で看経する和尚の行動を批判して「これで壇家がよくだまっているな。」

④ 第4区分　にせ親を追い出す和尚の叙述のところで「まさに江戸っ子だね」

⑤ 第4区分　にせ親の行動に対し「捨て児を喰いものにするのはよくないね。」

⑥ 第6区分　株に失敗し，捨て児をして夜にげする女の行動に対し「こうまでしなくてもよいのに」

⑦ 第7区分　横浜で次第に運が開けてくる叙述のところで，女の行動を評して「早く捨て児をとり戻せばよいのに。」

⑧ 第7区分　同上の叙述の終りのところで，「捨て児のことをもっと考えてやればいいのに。」

⑨ 第9区分　良人と次男の死にあい，捨て児を引きとる気になったというところで，女の行動に対し「ここまで来なければつれ戻す気になれないのかなあ」

⑩ 第10区分　説教（蓮華夫人の話）を聞いて感激した女の心境に対し「説教を聞いてはじめて親の愛がわかるなんて。」

以上が被験者1の人物評価と内容批判(主に行動批判)である。

(2) 感情型の読み手

感情型は同情・不安・驚きなど，情緒表現と考えられるモノログの多い型である。批評型の読み手が第三者的な立場から人物や行動を眺めるのに対し，この感情型は作中人物の側にまわり，これに同一化を示している。この点感情型と批評型は，対象的な構えをとっているといえよう。

感情型の代表は表4の被験者5であり，その感情表出のモノログはつぎのとおりである。

① 第1区分　みすぼらしい捨て児があったという叙述のところで「かわいそうにね」と同情のモノログ。

② 第3区分　捨て児を女手のない寺で育てるという叙述のところで，「わかるわ，赤ん坊を育てる苦労」と共鳴。

③ 第5区分。捨て児の親と名乗る品のよい女が現われたところで「どうしてそういう人が捨て児をしたのでしょう。早く知り度いわ。」と期待。

④ 第8区分　横浜で女が良人と次男に死なれたというところで，「何て運がわるいんでしょう」と同情。

⑤ 第8区分　同上の場面で女の将来について「これからどうなるのかしら」と不安感情のモノログ。

⑥ 第12区分　女が捨て児の実母ではなかったという人間関係の逆転に驚いて「おや。一体どういうことでしょう。」

⑦ 第13区分　女が捨て児を実子といつわって和尚からもらいうけた説明の叙述のところで「あら。女はうそをついたのね。」

⑧ 第14区分　女の秘密を知ってからの客（捨て児）の心境に共鳴して「ほんとにそうよねえ。母以上の母に思える気持」

(3) 文章理解型の読み手

文章理解型の特色は重要な叙述細部の確認，筋のまとめ，文脈意識を中心に文章内容の客観的な受容・正確な理解をねらった読みの構えにある。同じく語の抵抗でも，ただ「わからない」とあっさりかぶとをぬぐのでなく，文脈からつとめてその意味を把握しようとつとめている。

この型の代表は被験者13であり，文章理解型の特徴を示すそのモノログはつぎのとおりである。

① 第1区分　「場所は浅草の信行寺。捨て児か。」と重要な叙述細部の確認。

② 第3区分　「看経。……お経を読むことかな」と語意抵抗。

③ 第3区分　和尚が壇家の法事に，熱のある捨て児をだいたまま経を読んだという叙述のところで「連れていったわけね。」と確認。

④ 第7区分　女が語った捨て児のいきさつのところで「次男が生れたのね」と確認。

⑤ 第7区分　捨て児ということばのところで一寸休み「捨て児。――ああ勇之助だったな。」と確認。

⑥ 第8区分　「捨て児を引きとるのは良人が死んだからだろう」と捨て児を引きとる原因の推論。

⑦ 第8区分　「ああ次男も死んだからだな」と推論。

⑧ 第9区分　女が捨て児を連れもどすために上京するという叙述のところで，第6区分以降を「先ず浅

草の米屋をしていて……」と，筋のまとめ。

⑨ 第12区分 「そうすると，話し手の客が身の上話をしたところね」という文脈意識のモノログ。

⑩ 第12区分 「女は実母ではないのだな」と確認。

⑪ 第13区分 女が死んだわが子の代りに捨て児をわが子といつわってもらい受けたという叙述のところで「さびしいから，子を求めたのだな」と推論。

⑫ 第14区分 「客が私に話しているところね。」という文脈意識。

⑬ 第14区分。再読して第14区分の筋のまとめ。

以上のモノログが被験者13に特徴的である。なおこの被験者の読後感のモノログでは，文章理解が正確で客観的であった。なお，主題を把握したり，芥川の他の作品と比較しながらこの作品の批評を行なうことは，読後に行なっている。

(4) 未熟型の読み手

未熟型の読み手のモノログは，つぎの諸点が特徴的である。

① 「この字読めない。」「○○の意味がわからない」といったような，単純な抵抗のモノログが多く，文脈から推読したり意味を考えようとするような抵抗のモノログが少ない。

② 無言で再読したり，読みの速度が一定しなかったり，「わからないわ」と口ばしったりすることが多い。

③ モノログ数が一般に少ない。ただし「わからないわ」というモノログは除外してある。

④ 読後感にまとまったものがなく，大意・主題などたずねても明確に答えられない。

⑤ 第4表でいえば，(4)の文脈意識から(9)の文体批評までのモノログが全くないか，あっても少ない。

(5) 文体批判型の読み手

文体に特別の関心を示し，構えがそこに向いている型である。この実験ではたまたま一事例だけ，そのような被験者が現われている。被験者8がこれである。なおこの被験者は読後感のモノログにおいては，主題を正確にとらえており，文章理解力もかなりすぐれているように思える。いまこの被験者の特徴的なモノログを拾って列挙してみよう。

① 第1区分 「この語り口はうまいな。」

② 第2区分 「目の前にあるような書きっぷりがいいな。」

③ 第7区分 「回想形式のやり方はうまいやり方だ。」

④ 第8区分 「筋に山をつくる，つくり方がうまいな。」

⑤ 第12区分 「どんでん返し。うまいな。」

以上の例にみられるように，同じ文章でも，その読み取り方には著しい個人差がある。しかもこの個人差は，前記のようにいくつかの読みの型に分れるようである。この点をさらに掘りさげるなら，①読書の正しい構えの指導，②読みの型と人格の理解という2つの問題に接近することができそうである。

読書中における心理・生理反応に関する研究 (2)*

——読書材料と心搏，脈波，呼吸，ＰＧＲとの関係について——

日本読書学会読書心理研究部会
原　野　広　太　郎**

数年前，“チャタレー夫人の恋人”“サド全集”などいくつかの文学作品が，“エロ”か，“純文学”かということで，裁判沙汰になったが，このような問題を裁判官等数人の主観的判断によらずより客観的，科学的方法によって解明できるのではなかろうかとの意図から，一連の研究を行なった。

昨年度は，随筆，スリラー物など，種々の材料の読書過程中における心理・生理的反応の結果を報告した。ＥＥＧ，呼吸，心搏およびプレティスモグラフィを index として，どんな変化が起こるかを見た。その結果，安静時に比べると，読書中においてこれら種々の index にある変動が起こることがわかった。しかし，種々の読書材料による変化の差はあまり明確には現われなかった。

今報告は，上記の点に留意して，読書過程中に起こる情動の変化をさぐるために，内容の著しく異なる２種の読書材料を選んで，それぞれの読書過程中において，ＰＧＲ，呼吸，心搏，プレティスモグラフィに現われた反射に差異が有るかどうかをみようとした。今回ＥＥＧをはぶいたのは，前年度の結果，ＥＥＧにおいては，読書材料の差異は勿論，読書，数よみ，計算等の精神作業における差異も明確に表われなかったためである。

実験手続きおよび方法

１）測　定

ａ）ＰＧＲ……ＰＧＲは電位法により，右手掌および前搏部から誘導。

ｂ）呼吸……呼吸は被験者が腹式呼吸のため，上腹部の周囲に硫酸亜鉛電解溶液の入ったチューブをまきつけて，1.5 Ｖの電圧をかけ，呼吸の変化によるチューブの伸縮を電気抵抗の変化に置換えさせる。

ｃ）心搏……心搏は左前搏部——右前搏部の第一誘導によるＥＣＧ。

ｄ）プレティスモグラフィ……左手指先部位の血流量の変化を上部から直流の光源によって照明し，下の光電管にて受ける透過式光電管にて記録した。

上記の４つの index は，いずれも脳波計にて増巾され，インク書きされた。

２）方　法

被験者を防音，暗室に入れ，肘掛け椅子に坐らせて，閉眼させ安静を保たせる，—(I)約10分後に開眼させ，感情・情緒状態が安定するのを待って，第１材料を読ませる。—(II)読み終えたら再び閉眼させる。感情を安定させてから，開眼させて，第２材料を読ませる。—(III)（材料の部分はライトで照射されている。）この間，上記４つの index はすべて連続的に記録された。

材料

第１材料……かなり露骨な性的描写を内容とするもので，情緒的興奮を惹起すると考えられるもの。10ページ。

第２材料……雑誌に掲載された広告で，電気洗濯機の

---

* A Study of Psycho-physical Responses in Reading Process. (II)

** Hirotaro Harano (J. S. S. R)

性能および使用法を書いたもの。4ページ。

上記の読書材料は，画用紙にインク書きしておいた。

読書所要時間は，第1材料　約12分

第2材料　約3分

被験者

読書材料の関係上，男子大学生（19～24歳）8名。なお，PGR，プレティスモグラフィの各測定において，記録不備のため1名を除外。また，1名の資料は，PGR，プレティスモグラフィにおける(Ⅲ)の資料から除外した。

結果の処理

Ⅰ）読書開始前の安静時1分間

Ⅱ）第1材料の読書開始20秒後の1分間

Ⅲ）第2材料の読書開始20秒後の1分間

上記の3つの段階を各 index について，分析した。

a）PGR……各段階における(1) Spontane Response の数と(2)その面積値

b）呼吸……各段階における呼吸比（呼気時間Ⅰ）に対する吸気時間（E）の比）の平均値

c）心搏……各段階における1分間の心搏数

d）プレティスモグラフィ……各段階における振巾面積値。ここで，振巾によらず，振巾面積を測かるのは，振巾の大きさより差異がより明確に現わすためである。

なお，面積は planimeter にて測定した。

表1　PGRの出現数

Subject	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
NA	2	10	0
IW	0	5	0
SU	6	9	5
HI	0	6	——
SE	1	6	1
BA	4	9	2
HA	3	10	6
平　均	2.3	7.9	2.3

表2　PGRの面積値

Subject	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
NA	0.6	17.6	0
IW	0	8.6	0
SU	5.7	19.9	6.6
HI	0	12.4	——
SE	0.3	22.0	0.5
BA	6.5	18.2	2.7
HA	4.5	27.7	12.3
平　均	2.5	21.1	3.7

表3　呼吸比

Subject	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
NA	1.08	0.94	0.99
IW	1.47	1.02	1.19
SU	1.06	0.88	0.85
HI	0.94	0.86	0.77
SE	0.93	0.82	0.86
BA	1.15	0.86	1.61
HO	1.18	1.18	1.19
HA	0.96	0.87	0.96
平　均	1.10	0.93	1.05

表4　心　搏　数

Subject	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
NA	65	70	67
IW	67	71	69
SU	71	82	72
HI	67	81	66
SE	45	48	46
BA	82	96	79
HO	70	69	69
HA	74	75	75
平　均	67.6	74.4	67.9

表5　プレティスモグラムの振巾面積値

Subject	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
NA	4.4	1.9	3.5
IW	6.9	3.0	2.2
SU	8.2	7.9	5.8
HI	7.1	5.7	—
BA	2.9	2.3	2.5
HO	7.5	8.0	7.1
HA	8.7	3.5	6.9
平　均	6.5	4.6	4.7

結　果

PGR……(1)：精神電流反射における Spontane Response の出現数は表1に示した如く，材料1の読書過程中において最も多く，その数は，安静時および材料2の読書中に比して倍余もあり，材料1は，著しく情動的変化を惹起するものであると推測できる。これに比して材料2は安静時との差異はなく，情動面には殆ど影響しないことが考えられる。

(2)：表1においては，反射の出現数を見たが，表2においては，その強さ，大きさを面積にて捕えてみた。これによると，表1における以上に，安静時，材料1，材料2の差異が現われている。すなわち，安静時に比して材料2の読書過程中の値は1.5倍，材料1の値は8.5倍である。さらに，細かくみると，上の平均値の結果に反しているのは，2例であり，表1，3，5等の平均値結果に反するものより少ない。

呼吸比……人は興奮すると，呼吸が速くなると同時に吸気（E）に対する呼気（I）の比は小さくなる。表3において，段階Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの差異はあまり明確ではないが，一応，安静時，材料2，材料1の順に興奮の度合が高まっていることを示している。呼吸比において，差異が顕著でない理由としては，呼吸が意識的にcontrolできるということが考えられる。

心搏……心搏数は情動的興奮が高まると増加する。表4に示したごとく，興奮傾向は，材料1，材料2，安静時の順であり，これは仮定した通りである。しかし，安静時と，材料2の読書過程中との差異が殆どなかったが，読書材料による差異はかなりはっきりと認められた。

プレティスモグラム……情動的緊張が生じると血管は収縮し振巾は減少する。プレティモグラムの振巾面積値による血量変化を表5に示した。これによると，安静時と2種の読書過程中との差異はかなりはっきりと現われたが，材料1と材料2との差はあまり明確でない。

以上を綜合的に眺めると，プレティスモグラムを除いて，PGRの出現数および面積値，呼吸比，心搏数において，異なった材料の読書過程中における情動の心理・生理的変化をある程度捉えることができたようである。

考　察

この実験は情緒反応をとくに誘発させる読書材料と，ほとんど起させないと思われる材料とを用いて，両者がPGR，プレティスモグラフィ，呼吸，心搏にどんな効果をもつかを明らかにしようとした。したがって，情緒反応の中間過程を示すような読書材料を用いて将来検討する必要がある。また，PGRの出現頻数，反射面積値，呼吸比，心搏などには，明らかに，読書材料1の効果が現われている。その上，PGRの出現頻数，心搏などでは，安静時と読書材料2の読書時とにはほとんど差異が認められない。他方，プレティスモグラフィでは読書時と安静時とには大きな差異が認められるが，読書材料ⅠとⅡの読書時間にはまったく差異が認められなかった。PGRの面積値と呼吸比では，安静時と材料2には差異が僅かあったが顕著な変化ではなかった。これらを総合して考察すれば，読書時の情緒的興奮はPGRの出現頻数，反射面積値と心搏がもっとも鋭敏なindexとなることが明らかにされた。これについで，呼吸比にやや変化があった。他方，プレティスモグラフィに読書材料1と2の識別力が見出せなかったのは，プレティスモグラフィの振巾変動の特質によるものと考えられる。すなわち，振巾変動は主に大脳皮質活動が反映すると思われている。したがって読書することによって大脳皮質に興奮が起こるのは，材料が情緒的興奮を誘起するかどうかにはあまり影響されない。それゆえ，材料2は情緒的興奮を誘起しなくても，大脳皮質の興奮をもたらすため，プレティスモグラフィの振巾が減少したものと考えられる。

この実験は，情緒的な変化がきわめて，敏感に被験者に影響する。したがって，実験経過中にそのような要目を厳密に統制しなければならなかった。この条件の統制に失敗した例が数多かった。この理由により，被験者の数が少なかったが，今後はもっと多くの被験者を選んで検討する必要があろう。つぎに，この実験に用いた被験者はすべて男子のみであった。それは，読書材料がきわめて露骨な性的描写をもっていたので，女子を被験者に選ぶことは避けた。被験者の選択においてこのように男子のみを選んだという点に問題が残されている。さらに，男女，年令などを考慮した実験計画を立て，検討しなければならないだろう。

つぎに，この実験結果から，文学作品の評価を科学的に分析することが予想され得るかという大きな問題が提出される。一般に文学作品は価値の体系に属するものであって，この研究のような心理学的（科学性をもったという意味で）方法でその評価を決定することはできないという見解がある。しかし，文学作品であれ，あるいは他の芸術作品であれ，それらの対象によって誘起される生体の心理的反応はその反応自身として心理学的方法による分析が加えられないということにはならない。ただし，この心理学的方法はあくまで，感情あるいは情緒反応，被験者の反省報告にとどまり，それらの結果が直接

文学，芸術作品の評価に導くものではない。したがってこのような心理学的方法は，あくまで，対象となる作品を離れた研究対象と見なされなければならない。また，現在の研究段階では，作品全体から受ける被験者の反応を検出することはこの研究に用いた生理学的検査法では困難である。そのため，作品の個々の部分に対する心理的反応のみに限定されなければならない短所がある。

読書材料，被験者をさらに検討するほかに，読書経過中に起こるいろいろな情緒・感情反応を分析しなければならないがこれも将来の課題として残されている。

この実験結果を総合的に考察したとき，つぎの点が明らかにされた。まず，本実験で用いたＰＧＲ，呼吸，プレティスモグラフィ，心搏などの index を用いるならば，読書過程の感情・情緒興奮をかなり鋭敏に捉えることができる。なお，プレティスモグラフィは情緒的興奮を反映するといわれる基線動揺の分析が必要である。つぎに，文学的作品のうち，各 index を総合的に用い，被験者を適当に選べば，純文学作品とせん情的作品との識別の可能性がこの結果から明らかになった。とくに，プレティスモグラフィの振巾変動は大脳皮質活動を反映することがこの結果からも明らかになり，また他の研究もそれを支持する結果を示しているので，さらに検討を加えれば，人の情緒的興奮と大脳皮質活動との関係から読書過程を詳細に分析することができる。

この研究は岡本奎六が中心になり，佐藤泰正，村石昭三，伊藤弘多加，岡田明，原野広太郎，加賀秀夫，阪本敬彦各氏が対論を重ねて実験計画を立てた。実験は原野広太郎が担当した。なお，この実験に対し，橋本晴行，永村寧一，会津　力，本田時雄各氏から多大のご援助を受けた。

読書中におけるPGR*

日本読書学会読書心理研究部会

阪　本　敬　彦**

(1) はじめに

日本読書学会読書心理研究部会は，総合研究「読書過程の分析的研究」の一部門として，1958 年から，「読書中の情緒反応の測定」をテーマとする共同研究を続けてきた。その結果は，同学会第2回研究大会（1958年）以来4回にわたって発表し，また本誌にも報告をつづけている。（註1，2，3，4）

初年度には，読みものと他のマス・メディア（この場合スライド）とでは，情緒反応がどのように異なるかをＰＧＲ，アナライザー，質問紙，作文などの方法を併用し，集団実験によって測定した。実験に用いた材料は，“山椒大夫”と“ひとふさのぶどう”の本とスライドであった。

第二年度には，問題を読書だけにしぼって，個人実験により読書中のＰＧＲを記録した。実験に用いた材料は“山椒大夫”で，読後には面接法と討議法により被験者の報告を記録した。

第三年度には，個人実験をさらに精密に行なうため，成人男子２名の被験者の読書中におけるＥＥＧ，ＥＣＧ，呼吸，ＰＧＲ，Plethysmography を記録した。

以上昨年度までの実験結果のうち，ＰＧＲ関係の主要なものと，あとに残された問題とを整理すれば次のようになる。

Ａ）映画における観客反応調査の場合と同様に，ＰＧＲの集団測定によって読者の情緒反応をとらえることができる。読みもののちがいによる反応の差を比較するには，単位時間（例えば15秒）内のＰＧＲ出現頻数によるのが有効であり，また一つの文章を読み通していく際の情緒の流れをみるには，抵抗値の変化をみるのがよい。

Ｂ）集団測定では，情緒反応の量をとらえることはできるが，質をとらえることはむつかしい。それには，内省法を併用した個人実験によるほかない。しかし山椒大夫や次郎物語を材料とした個人実験では，ＰＧＲに関して，あまり多くの結果を得たとはいえない。そこで得られたことは，文章全体を通じての読書中の情緒の流れ，被験者の反応のタイプの類別などであった。

Ｃ）いずれの実験にあっても，ＰＧＲ反応が多くあらわれるのは次のような時である。

イ．悲しい場面，死，別れなど

ロ．残酷な場面

ハ．会話体の部分

ニ．人称語，擬声語，擬態語，感情価の高い語

ホ．読みためらい

ヘ．段落のおわりの部分

(2) 実験の目的

以上，前年度までに得られた諸結果をひきつぎ，今回は文章のおもしろさ，おかしさ，ユーモアなどが，読み手にどの程度の反応をもたらすかを実験的に求めようとした。また，一般に情緒的反応とは認めがたい反応，たとえば段落のきれめ，読みためらいなどの反応のあらわれ方にもあわせて注意した。

(3) 実験の方法

Ａ　被験者

---

* Psychogalvanic Responses in Reading

** Takahiko Sakamoto (J. S. S. R.)

練馬区立中村中学校　2年生女子　10名

B　実験材料

材料は中学一・二年用国語教科書のうち実験校で採用していないものから次の4編をえらんだ。

イ．笑話Ⅰ　「肉代五ドルなり」

ワシントンの町で名高いK判事が肉屋の主人に呼びとめられる。主人は判事に，肉を犬に盗まれたのだがどうすればよいかをたずねる。判事は，飼い主から弁償させるのだという。ところが盗んだ犬は判事の飼い犬で，主人は判事からまんまと五ドルをせしめる。ところが二三日すると判事から牛肉盗難事件鑑定料五ドルの支払い請求書が送られてきた。という話。

ロ．笑話Ⅱ　「命令法」

アメリカのウッド将軍が小学生の頃，文法の時間に教師が，何でもいいから短い文句を一つ言わせて，それを命令法に言いかえることを教えていた。少年はまず「馬が車をひいています」と言った。教師が「それを命令法に言いかえると？」と問うと未来の将軍は大きな声で「前へーおい」と答えたというお話。

ハ．彫刻家とへそ　（朝倉文夫）

筆者が長年見つづけてきた“へそ”について，うんちくをかたむけた随筆，ユーモアたっぷりに書きつづられている。

“へそにもずいぶんいろいろなのがあります。まるいへそ，たてに長いへそ，横にひらたいの，下を向いたの，上を向いたの，とび出たの，大きいの，小さいの，そのほかたくさんありますが，いいへそというのは，正面からみて，ちょうど，くだもののなしのへこんだところのようなのがいいですね。なぜそういうへそがいいのかというと，何千というへそを見ているうちに，しぜんと目で統計をとっていて，その結果そう思うのです。……”

といった内容である。

ニ．くわの実　（幸田　文）

ア子ちゃんが，親に禁じられているくわの実を二階の窓からやっとの思いで取って食べる。しかしそれがばれてしまって恥じるという話。ア子ちゃんの行動や感情がよく描かれている随筆で，前の三つの材料とは性質のちがうものとして採用した。

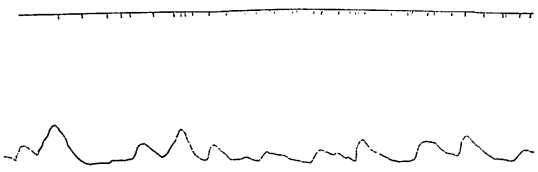
(3)　手つづき

竹井機器製ＰＧＲ測定器を被験者の左手の指2本にとりつけ，左手を固定する。実験材料を黙読させ，右手第二指で今読んでいるところをたどらせる。実験者は，その指の位置によって被験者の読んでいる位置を判定し，ＰＧＲ曲線が描かれていく記録用紙にチェックする。また被験者の特別行動，例えば読み返し，ページめくり，体の大きな動きなど，および外的刺激条件，例えば大きな音がしたなどもあわせてチェックした。読後には被験者に面接して，内省報告をとった。

(4)　結果の整理

第1図は，6番目の被験者が，笑話Ⅰを読んだ際のＰＧＲ曲線である。上部の直線の下についている点は，読書中に行をかえたときのしるしである。第一年度には，このような図の整理に際しては，ＰＧＲの出現頻数（図の上では，山の数）をかぞえた。第1図では 10 こである。初年度と同じく 15 秒ごとの平均を求めると 2.13 こということになる。

第1図　ＰＧＲ曲線の例（被験者6番　笑話1の場合）



ところで今回は，山が高いほど情緒反応が大きいと仮定して，一つ一つの山の高さを，記録用紙の方眼目もりの上ではかることにした。この場合，個人差があって一般に高い山が出る傾向のものと，出ないものとがある。そこでこの値を被験者間の反応量の比較に用いることは危険であるが，同一被験者内における作品間の比較に用

いることはできる。

第一図にみられるように，山の高さは大変はかりにくいが，通常，便宜的に，一番はじめの谷のところから横に直線をひき，その線から頂上までの高さをはかる。このようにすると第１図の結果は，山の高さが 8，5.5，7.5，4.5，3.5，6，5，5.5，3，17 となり，平均は 6.55 となる。同様にして他の材料，他の被験者についても集計して表にまとめると第一表のようになる。ただし被験者２番と９番は，ほとんどＰＧＲが出現しなかったので集計から除外してある。

第一表　反応量の平均

被験者番号	笑話Ⅰ	笑話Ⅱ	へ　そ	くわの実
1	14.6	**18.5**	3.8	8.0
3	3.5	**7.0**	4.8	4.0
4	6.9	6.1	**9.5**	8.9
5	4.3	**5.0**	3.1	4.2
6	6.6	6.9	**8.9**	8.1
7	5.6	**6.2**	**6.2**	5.4
8	4.8	5.0	**5.7**	**4.1**
10	7.6	**10.8**	6.6	6.0

また，表中のゴチック体の数値は各被験者において最も高い平均を示した作品であることを示している。すなわち被験者１番は笑話Ⅱに最も高い山を示し，へその山が最も低い。

(5)　考　察

第一表からうかがえるように，ＰＧＲの山の高低の絶対量には個人差がみられるが，総じて高い反応をもたらした作品と，そうでないものとを区別することは可能なようである。８名のうち４名は笑話Ⅱに，３名はへそに最高の山を描き，１名は両作品に同点で一位となっている。笑話Ⅰとくわの実に最高の山を描いたものは皆無である。逆に最低の山を描いたものはくわの実に３名，笑話Ⅰとへそに各２名，笑話Ⅰに１名となって，おおむね逆の順位となっている。

この結果は，文章のおもしろさ，おかしさなど笑いに関する情緒反応もＰＧＲにある程度敏感にあらわれることを示していると言ってよいだろう。へそについてはどの被験者も，おもしろかったと内省報告しているが，くわの実については受けとり方が多様であって，あまり感心しなかったと報告している者もあった。また，くわの実のような作品から得られる感動は，笑い，怒りなどのような第一次的な，その限りにおいて強力なものとは質が異なるのであって，そのような深い内面的な感動体験は，本実験のような生理的反応の記録からは，なかなか接近できないものであろう。笑話は，Ⅱに反応が高く，Ⅰには低かった。このことは，この年令の生徒にはⅡの方がおもしろかったということと，Ⅱの笑話は，Ⅰにくらべて短く簡潔であったことから，より高い反応が導き出されたのではないかと思われる。

以上のように各被験者が四つの作品を読んだとき，作品内容によってＰＧＲの山の高さに差が生ずることが明らかとなったが，それをさらにわかりやすくするために，第一表を順位点に書きあらためると第二表のようになる。

第二表　反応量の順位点

被験者	笑話Ⅰ	笑話Ⅱ	へ　そ	くわの実
1	2	1	4	3
3	4	1	2	3
4	3	4	1	2
5	2	1	4	3
6	4	3	1	2
7	3	1	1	4
8	3	2	1	4
10	2	1	3	4
合計点	23	14	17	25

第二表によれば，被験者１は笑話Ⅱに最高の山を示し，２位が笑話Ⅱ，以下くわの実，へその順になっているので各々 1，2，3，4 点を与えてある。従って最下欄の合計点が少いほどその作品に反応が多かったと考えてよい。

(6)　以上のように今回の研究では，おもしろさ，おかしさ，に関する情緒反応を中心として考えてきた。このほか，文章内における反応の起こりやすい部分の検討，より精密な反応量の計算，被験者の個人差について（特に

被験者2番と9番について）など，再検討を要する問題があとに残ってしまったのだが，今回は予算の関係もあって整理が完了しなかった。本研究は心理部会員のうち村石昭三，加賀秀夫，阪本敬彦の3名が分担したもので，実験に当っては中村中学教諭増田信一氏の御協力を得た。

註1　読書とマスコミュニケーション，牧書店，1959
註2　読書科学，第4巻第2号，牧書店，1959
註3　読書科学，第5巻第1号，牧書店，1960
註4　読書科学，第5巻第3号，牧書店，1961

読書による態度変容の実験的研究*

——ノン・フィクション「動物となかよしになるには」の場合——

東京都大田区立田園調布小学校
岡　田　　明**

はじめに

読み物を，児童・生徒に読ませた時に，いかなる態度の変容がみられるか。さらに，いかなる生活条件・性格などが，態度変容と関係があるか，を実証的に解明しようとした。

I　研究方法

a　読書材料

林寿郎著「動物となかよしになるには」牧書店発行

b　態度調査用紙

上記の本を読むことによって，どのような態度変容があらわれるかを想定し，つぎのような態度調査のための用紙を作製した。

（巻末資料欄参照）

第一部は，動物一般に対する知識テストである。多肢選択法によった。知識・理解が，問題の中心をしめているが，態度の変容にはそれらが，前提条件となると考えたので，そのような問題をならべた。ノンフィクションの場合には，知っていたことが，読書の影響で変容されたり，新しく知識を獲得する過程を考察することも意味のあることだろう。

変容点は次のようにして算出する。各問題で正答がはっきりわかっているので，それは読前と読後の正答数の変化を目やすにした。つまり，

変容点＝（読後の正答数）－（読前の正答数）

第二部は個々の動物，つまり，ライオン・サル・イヌに対する態度テストと知識テストである。態度をとう問題は，それぞれの好嫌と，飼ったり，芸をしこんでみたいかという問題である。

態度の変容点は，各項目毎の読前と読後のチェックした位置の動き，つまり移動の方向と巾をメルクマールにした。望ましい反応又は正答は，本の内容によって一定であるので，例えば，5が望ましい反応で，読む前が2にチェックし，よんだあとで4になれば，変容点は＋2である。逆の場合は－2となる。問題数は29あるから，その各々について，＋－の動きの総和が各人の第二部の変容点になる。

第三部は，問題場面テストで，心理学的には，いちばん態度テストらしい部門である。つまり具体的場合に出合ったとき，どんな態度をとるか，さらになぜそうするのかを問うた問題からなっている。

これは第一部とおなじように読前・読後の正答数を目やすにして変容点をとらえることが出来る。5題あるが態度とその理由をそれぞれについてたずねるから，10点が満点となる。

変容点＝（読後の正答数）－（読前の正答数）

c　手続き

実験群については，第一回態度テストを行ない，その

---

* An Experimental Study for Attitude Changing by Reading,

** Akira Okada (Denenchōfu Primary School, Tokyo)

後，課題読書のために，それぞれ一冊ずつ本をわたし，一週間，自由によませた。その後，第2回目の態度テストを実施した。第一回と第二回のテストは，同じものである。

対照群は，態度テストを2回行なうだけである。

どんな地域にわたってしたか，次にまとめてみる。これは，第5回大会に報告するまでに整理の終わった分であり，その後も，調査は継続する予定である。

	大都市		地方	
	実験群	対照群	実験群	対照群
小5	2校（T小とH小）	1校（T小）	1校（H小）	なし
中2	1校（Y中）	なし	1校（I中）	なし

Ⅱ 結果と考察

① 大都市の場合の変容点について，

表1 変容点の平均と標準偏差（大都市の場合）

		1部	2部	3部
実験群	M	+1.25	+0.12	+1.29
N=144	S.D.	1.8	0.81	1.93
対照群	M	+0.35	0	+0.05
N=51	S.D.	1.25	0.6	1.35
	**			**

注 **は1%の危険率で有意差あり。

表1によって，実験群と対照群の変容点の全体的な比較をしてみると，1部・2部・3部とも実験群の方が変容点が高い。特に1部と3部は，統計的に有意な差をみいだしている。即ち，1部と3部については，読書の効果があらわれたといえる。

表2 小・中学校別の変容点（大都市の場合）

		1部	2部	3部
小学校	実験群	+1.7	+0.15	+1.4
	対照群	+0.35	0	+0.05
中学校	実験群	+0.5	+0.05	+1.2

表2は，小学校と中学校の変容点の比較である。2部・3部では，小・中間に差はないが，1部では小学校の方が変容がいちじるしい。

表3 変容点の男女別の比較（大都市の場合）

		1部	2部	3部
実験群	男	+1.4	+0.23	+1.23
	女	+1.5	0	+1.3
対照群	男	+0.4	+0.1	0
	女	+0.3	−0.1	+0.1

表3は，男女別の比較であるが，差はない。

② 地方の場合の変容点について，

表4 変容点の平均（地方の場合）

	1部	2部	3部
実験群	+1.58	+3.97	+1.64

表4は地方の実験群の変容点の平均を示したものである。地方の対照群の結果が未整理なので，表4のデーターを大都市の対照群と比較すると，いずれも変容が大きい。大都市の場合よりも大きく変容していそうである。

表5 小中学校別の変容点（地方）

	1部	2部	3部
小学校 N=40	+0.76	+0.13	+1.19
中学校 N=42	+2.39	+7.81	+2.09

表5は，小中の比較であるが，中学の方が1部・2部・3部との変容点が大である。これは読解力と関連がありはしまいか。

表6 変容点の男女別の比較（地方の場合）

	1部	2部	3部
男	+1.48	+2.81	+1.71
女	+1.67	+5.07	+1.57

表6は，男女別の比較であるが，1・3部は差がないが，2部では女子の方が大きく変容している。

③ 各項目ごとの変容について

表7は各問題別の誤答率を示したものである。これは，大都市の実験群29人（男），対照群の26人（男）をえらんで，誤答率を算出したものである。

表7　問題別の誤答率

第1部	N＝29男 実験群		N＝26男 対照群	
問題	1回	2回	1回	2回
1	3.4%	6.9%	0%	6.9%
2	34.4	17.2	44.8	13.8
3	65.5	13.8	58.6	38.1
4	31.1	31.1	20.6	20.6
5	93.1	65.5	86.2	80.9
6	38.8	41.4	24.1	27.6
7	85.9	34.4	62.1	72.2
8	69.1	38.1	44.8	38.1
9	69.1	65.5	69.1	58.6
10	58.5	34.4	44.8	41.4

第2部 ライオン	N＝29男 実験群		N＝26男 対照群	
問題	1回	2回	1回	2回
1	72.4%	85.9%	72.2%	76.1%
2	27.6	58.5	44.8	38.1
3	85.9	79.2	66.5	76.1
4	69.1	82.9	79.2	55.1
5	58.5	58.5	86.2	79.2
6	31.1	20.6	62.1	76.1
7	76.1	89.9	55.1	51.7
8	41.4	20.6	72.2	72.2
9	79.2	89.9	79.2	79.2

これでみると第一部の項目のなかで，対照群とくらべて，実験群がのぞましい方向に変化したのは，5・7・8・10であり，2・3・9も変化をしているが，対照群

第2部 サル	N＝29男 実験群		N＝26男 対照群	
問題	1回	2回	1回	2回
1	93.4%	93.4%	69.1%	69.1%
2	69.1	69.1	69.1	69.1
3	27.6	27.6	17.2	35.4
4	41.4	58.5	55.1	55.1
5	24.1	17.3	35.4	35.4
6	72.4	72.4	58.6	66.5
7	62.1	82.9	76.1	80.9
8	41.4	41.4	38.1	35.4
9	72.4	89.9	82.6	79.2
10	79.2	85.9	69.1	76.1

第4部 イヌ	N＝29男 実験群		N＝26男 対照群	
問題	1回	2回	1回	2回
1	93.4%	93.4%	80.9%	80.9%
2	85.9	82.9	79.2	69.1
3	27.6	20.6	20.6	13.8
4	62.1	72.4	76.1	76.1
5	63.5	25.4	41.4	38.1
6	72.4	93.4	66.5	72.2
7	89.9	89.9	80.9	86.2
8	89.9	89.9	80.9	80.9
9	79.2	72.4	17.2	13.8
10	94.5	89.9	86.2	86.2

も変化がいちじるしい。

第二部では，誤答又は，のぞましくない反応の2段階をとって，そこにチェックした者の数を全体の人数で割って百分比を求めたものである。

ライオンの部では3・6・8が，サルの部では5，イヌの部では5・10が対照群とくらべて変化の大きかった項目である。

第3部	N＝29男 実験群		N＝26男 対照群	
	1 回	2 回	1 回	2 回
1	72.4	89.9	44.8	66.5
1′	51.3	69.1	51.7	76.1
2	43.8	51.3	62.1	62.1
2′	20.6	17.2	62.1	45.2
3	93.1	93.1	86.2	86.2
3′	93.1	89.9	79.2	80.9
4	93.1	89.6	82.6	76.1
4′	56.6	56.6	82.6	72.2
5	76.1	72.4	72.2	72.2
5′	85.9	62.1	66.5	69.1

第3部では5番の理由をきく問で，大きな変化がみられる。

④ ケース・スタディについて

これは，大都市の一実験学級の中で，一部・二部・三部の綜合の変容点のいちじるしく大なるもの6人，全然変容を示さなかった6人をとって，両群の差の大きいものを見出し，あわせて，態度の変容を規定する要因をさぐろうとした。

表8 変容の大・小群の比較 矢田部・ギルホード性格検査による

		変容小群	変容大群	差
協調性のなさ	Co	2.7	2.5	0.2
愛想のわるいこと又は攻撃性	Ag	3.7	3.5	0.2
客観性のなさ	O	2.5	2.8	0.3
神経質	N	2.5	2.8	0.3
劣等感	I	2.3	2.5	0.2
支配的でないこと	A	2.3	1.5	0.8
一般的活動性	G	3.3	3.3	0
のんきさ	R	2.5	4	1.5
回帰性傾向	C	2.7	3.5	0.8
抑うつ性	D	2.7	2.8	0.1
思考的内向	T	3.0	2.8	0.2
社会的内向	S	2.3	1.3	1.0

表8は，そこに示した，人格的特性を測定する矢田部・ギルホード性格検査によって両群を比較したものである。数値は標準点（1～5点）の平均で示してある。標準点で1以上の差がみられたのは，のんきさ（R）と社会的内向（S）のみであるが，変化大群は小群に比べて，のんきであり，社会的内向の程度が低い，つまり外向的であるといえよう。

表9 水かめ・テストによる比較 (Water-jar Test)

変化小群	5.0
変化大群	7.75

表9は，水かめテストによる比較である。これは人格性における硬さ（rigidity）を測定するテストで，3つのかめで，所求量の水のかさを出すのに，最初使った数式をどこまで固執して使用するかをみるものである。全体は8題あり最初の3題は，一つの形式でしか解けないが，4題目からは，それ以外に，他の形式でもとけるようになっている。表9の数値は，最初の形式を施行した回数の平均を示したものである。故に，大きい数値はそれだけ硬さがつよいし，固執傾向もつよくなることを示す。

これでみると，変化大群の方が硬さがつよい。これはわれわれの当初の作業仮説をくつがえすものである。つまり，われわれは，変容の大きい群は，それだけ，硬さがよわく，固執傾向が低いと考えていた。この結果をわれわれはどのように解釈したらよいだろうか。

下に示す表10～表12の関連から考えてみると，変化の大きい群は，知能も学力も，学校の成績もよい。つまり

表10 知能偏差値による比較

変化小群	49.5
変化大群	69.8

表11 教研式標準学力検査偏差値

変化小群	45.2
変化大群	64.8

表12 教師の4教科評価による比較

	国語	算数	理科	社会	総合
変化小群	4.4	4.6	4.6	4.6	17.8
変化大群	2.8	2.7	2.5	2.5	10.5

あたまがいいのだ。知能の高いところから，変化大群の成員は，あまりいろいろなやり方をやらずに，はじめのやり方で終始したものが多いのだろう。他方知能の低い変化小群は，なかなかとけないので，何回も試行錯誤をくりかえしてやっている中に，より簡単なやり方を見つけ出したのではないかと推定される。勿論，この解釈は，この水かめテスト・プロパーに即したものではないが，表

表13　環境その他による比較

			変化小群 N＝6	変化大群 N＝6
家庭での環境	犬ごやの有無	あり	0	2
		なし	6	4
	動物標本の有無	あり	1	1
		なし	5	5
	動物の本の有無	あり	1	4
		なし	5	2
	動物園	あり	0	0
		なし	6	6
	となりに犬がいるか	あり	0	3
		なし	6	3
	家に動物がいるか	あり	3	2
		なし	3	4
経験	犬をかった経験	あり	3	2
		なし	3	4
	動物となかよしになるにはのような本をよんだことがあるか	あり	5	3
		なし	1	3
行動	動物物語（本）をかうか		17	17
	動物番組（ラジオテレビ）をみるか		19	27
	動物の世話をするか		26	26
	学校で飼育がかりになりたいか		23	24
	動物についての研究をまとめるか		11	11
	動物の本を図書館でみるか		20	18
	動物園にいくか		19	20
	メモをとって見学するか（動物園で）		14	14
好嫌	理科学習がすきか		23	25
興味	この本はおもしろかった		5	5
	ふつう		1	1
	つまらない		0	0

10～12表の関連から，そのように解釈できそうである。

表13で両群に差のあるのは，動物の本の有無と動物番組への接近についてである。動物の本のあるなしは，かならずしも主体とのかかわりがあるとは言えない，いわば物理的環境であるが，動物番組への接近は，主体的な行動であり，このような具体的な行動をとることが，変化を大きくした一つの要因として考えられはしまいか，変化の大きかったグループは，小さいグループにくらべ積極的にそれらをみたりきいたりしている。

表14　感想文の分析による比較

	変化大群 N＝6		変化小群 N＝6	
	頻数	一人あたりの頻数	頻数	一人あたりの頻数
叙述に即した感想	0	0	0	0
場面についての感想	45	7.5	14	2.3
すじについての感想	8	1.3	2	0.3
主題に即した感想	5	0.83	3	0.5
その他	5	0.83	4	0.67
感想なし	0	0	1	0.17
計	63	10.5	24	4.0
種類	2.5		1.67	

表14によると，変化大群は小群に比べて，場面，すじ，主題，項目数及び種類についてより多くの感想を述べている。特に場面と項目数（計のところ参照）で差が大きい。変化大群の読解の深さと，鑑賞又は批評の深さを物語るものと言えよう。なおここで種類といったのは，場面のみならば一種類であるが，場面とすじについて感想が述べられているならば，二種類として考えたのである。

Ⅲ　まとめ

① すべての場合についてではないが，読書による態度の変容がみられた。特に地方において顕著であった。地方では，中学の方が小学校より大きく変容した。

② 性格テストの結果は，変化大群と変化小群の間にはっきりした結果が得られなかった。しかし，矢田部・ギルボード性格検査によると，変化大群はのんきで，社会的外向性が高かった。

③ 変化大群は，変化小群にくらべ，知能・学力がすぐれていた。

④ 日ごろの動物番組への接近が変容を規定する一つの要因と考えられた。

⑤ 変化大群の感想文は，変化小群に比べて，よりたくさんの場面をとりあげて感想を述べ，より多くのすじ・主題について感想を述べていた。

カナ文字の識別に関する研究*(1)

国立国語研究所　村石昭三**
東京教育大学　阪本敬彦
東京教育大学　加賀秀夫

〔研究目的〕

本研究は上記項目「カナ文字の識別に関する研究」のうち，カナ文字の配列における最適な文字間隔（以下字間とよぶ）と行間隔（以下行間とよぶ）の所在について実験的に考察したものである。

その際，最適性をきめる要因は，識別の速度の問題を中心にあつかった。

〔研究期間〕（昭和35.6.28—昭和36.2.28）

〔研究方法〕

本研究はつぎの4実験からなる。

第1実験　瞬間露出器を用いた字間研究

第2実験　オフサルモグラフを用いた字間研究

第3実験　瞬間露出器を用いた行間研究

第4実験　ペーパーテストによる字間×行間研究

このうち，第1，第2，第3実験は個別実験であり，第4実験は集団調査の形式をとった。

なお，上記4実験における被験者は，中央電報局員，中央電通学園生徒，教育大学心理学科学生，東洋女子短大英文科学生，四ツ谷第六小学校児童から選出した。

〔第1実験〕瞬間露出器を用いた字間研究

Ⅰ　実験条件

行間を一定（4.5mm）にし，10種の字間×10種の無意味綴文，計100種の材料を用意し，20名の被験者について，瞬間露出器を用いて実験した。

字間の種類はつぎのとおり。（別表第1表）

2.0mm　2.25mm　2.5mm　2.75mm　3.0mm
3.20mm　3.5mm　3.75mm　4.0mm　4.25mm

Ⅱ　結　果

1)　3秒間の音読字数からみると；（第1図）

①　字間3.0mm，3.25mmが他の字間よりも多く読めた。したがって最も読みやすい字間配列である。

②　2.75mm以下の狭い字間のときは，3.75mm以上の広い字間よりも多く読めない傾向がある。

③　中央電報局員は学生にくらべ，字間2.5mmが比較的速く読めた。これはナレによるものである。しかし，3.0mm，3.25mmよりは多くなかった。

2)　無意味5字綴字中はじめて4字正しく読めた露出時間からみると；（第2図）

①　字間3.25mm，3.5mmが最も短時間で読むことができた。したがって最も読みやすい字間配列である。

②　狭い字間は広い字間よりも短時間で読むことができない。

3)　200シグマ～500シグマで読めた字数の合計からみると；

---

* A Study for Letter (katakana)-Discrimination (First Report)

** Shōzō Muraishi (National Language Research Inst.)
Takahiko Sakamoto (Tokyo University of Education)
Hideo Kaga (Tokyo University of Educationa)

（第3図）

① 字間3.25mm，3.5mmあたりが最も多く読めた。

② 狭い字間は広い時間よりも多く読むことができない。

〔第2実験〕オフサルモグラフを用いた字間研究

Ⅰ 実験条件

行間を一定（4.5mm）にし，10種の字間×10種のやさしい有意味文，計100種を用意し，10名の被験者について，オフサルモグラフを用い，読みにおける眼球運動を測定した。

字間の種類は第1実験に同じ。

Ⅱ 結 果

1) 読書時間からみると；（第4図）

① 字間3.0mm，3.25mmおよび2.25mmあたりの狭い字間が他の字間よりも速く読むことができた。

② 字間が広くなると，速さは急速におそくなっていく。

2) 逆行数からみると，字間3.0mm，3.25mmが最も少ない。（第5図）

3) 停留先からみると，2.25mmの狭い字間および3.0mm，3.25mmが停留数は少ない。したがって，一時に比較的多くの文字群を読むことができる。（第6図）

4) 不適応凝視数は2.0mm，2.25mmが非常に多い。したがって，字間が狭いと，行間運動が円滑に行なわれない。（第7図）

5) 停留時間には，どの字間にも差はほとんどない。

〔第3実験〕瞬間露出器を用いた行間研究

第1，第2実験で最適と認められた字間3.25mmを一定の字間とし，9種の行間×9種の無意味綴文，計18種を用意し，瞬間露出器を用いて実験した。

行間の種類はつぎの通り。（第2表）

4.0mm　4.25mm　4.75mm　5.0mm　5.5mm

6.0mm　7.0mm　8.0mm　9.0mm

Ⅱ 結 果（第3表および第8図）

3秒間音読字数，300シグマ～500シグマで読めた字数，30秒間音読字数についてみると，

① 行間7.0mm，8.0mmが最も多く読めた。

② 行間が狭い4.0mm，4.5mmあたりは他の行間にくらべて読みにくい。しかし，有意な差はみられない。

③ 概して，行間は狭いものよりも，広い方が読みやすい傾向がある。

④ 行間の効果は字間の効果ほど顕著でない。

〔第4実験〕ペーパーテストによる字間×行間研究

Ⅰ 実験条件

第1，第2，第3実験の結果により，次の9種の配列の文章を用意し，被験者延べ489名について，ペーパー・テストにより集団的に調査した。

形式：字間×行間		
A：2.5mm×3.5mm	D：3.25 ×4.5	G：4.0 ×5.5
B：2.5 ×4.5	E：3.25 ×5.5	H：4.0 ×7.0
C：2.5 ×7.0	F：32.5 ×9.0	I：4.0 ×11.0

そして，9グループともテスト終了後，共通の文章（J）を読み，共通の文章を読んだ速度を単位にして読書速度の指数とした。

$$\text{読書速度の指数} = \frac{A, \cdots\cdots I}{J}$$

Ⅱ 結果（第9図a，b，c）

① A……Iの9種の配列の文章では，E（字間3.25mm×行間5.5mm）が最も多く速く読めた。

② 字間のみについてみると，ABC（2.5mm）および，DEF（3.25mm）はGHI（4.0mm），より読みやすい。

③ 行間のみについてみると，BEH（4.5mm～7.0mm）は他の行間より読みやすい。しかし字間効果にみられるほどの効果はない。

④ A……Iの各文章にくらべて共通の文章Jが比較的速く読めているのは，A……Iを先に読んだ

テスト効果によるものである。

〔結　論〕

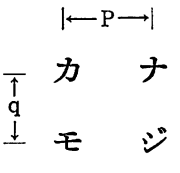
① 上記，実験条件に関するかぎりにおいては，字間 3.25mm，行間 5.5mm 程度の配列が最も読みやすい。

② 4種の実験結果の間では大まかな点では一致点をみいだしたが，詳細な点では結果に若干のズレがでている。

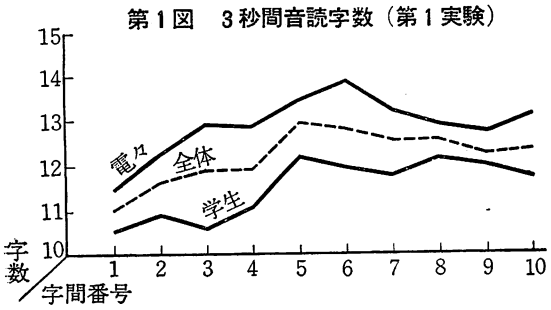
③ 本研究は最適性の要因について，速度のみを問題にしたが，さらに理解，疲労，印象のよさの要因について調べる必要がある。そこで，36年度の「カナ文字の識別に関する研究」は疲労の問題を中心に実験を進めていくことにする。

第 1 表

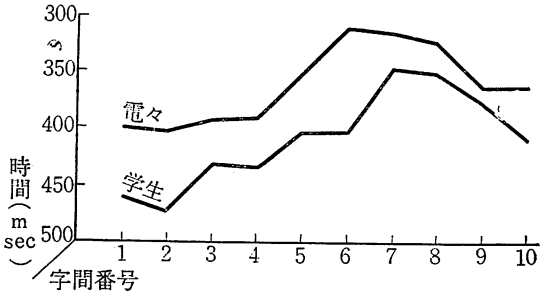
字間番号	P (mm)	一字行数	q
①	2.0	40	4.5mm
②	2.25	35	
③	2.5	32	
④	2.75	29	
⑤	3.0	27	
⑥	3.25	25	
⑦	3.5	23	
⑧	3.75	22	
⑨	4.0	20	
⑩	4.25	19	



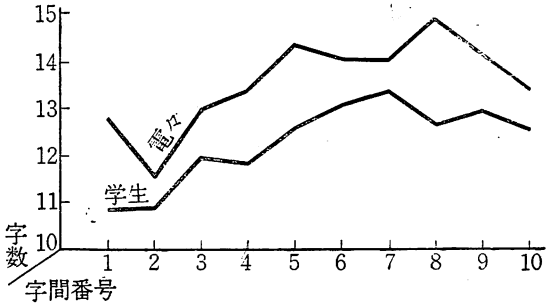
第 1 図　3 秒間音読字数（第 1 実験）



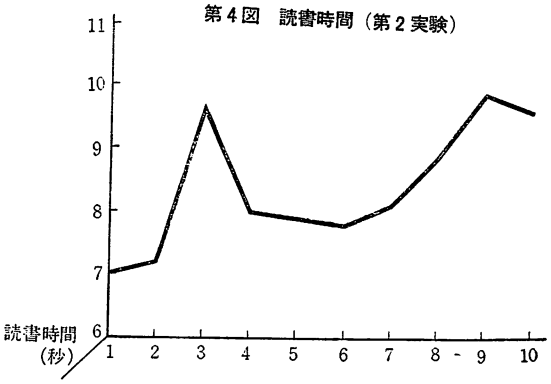
第 2 図 無意味 5 字綴中はじめて 4 字正しく読めた露出時間（第 1 実験）



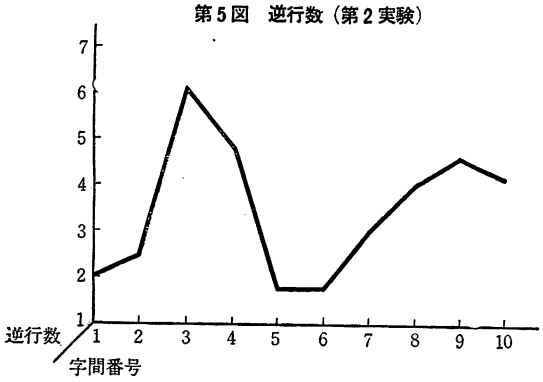
第 3 図 200～500シグマで読めた字数の合計（第 1 実験）



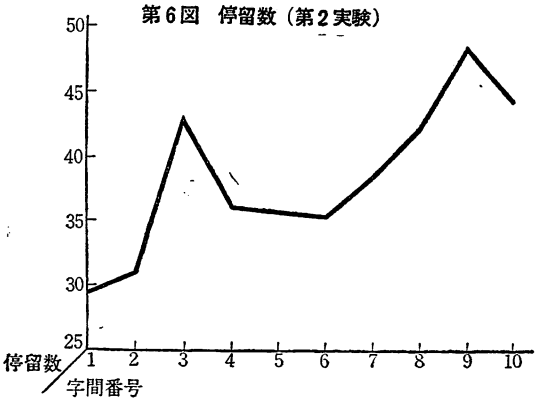
第 4 図　読書時間（第 2 実験）



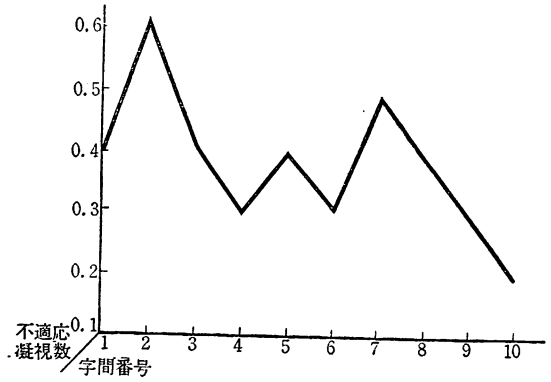
第5図　逆行数（第2実験）



第6図　停留数（第2実験）



第7図　不適応凝視数（第2実験）



第2表　瞬間露出器による行間実験の条件

行間番号	行間距離
1	4.0mm
2	4.25mm
3	4.75mm
4	5.0mm
5	5.5mm
6	6.0mm
7	7.0mm
8	8.0mm
9	9.0mm

第3表　行間実験の結果

行間番号	3秒音読，300～500シグマで読めた字数，30秒間音読，評定判断の結果の綜合による利点（順位点）平均
1	7
2	7.3
3	5.9
4	4.4
5	4.6
6	4.5
7	2.5
8	3.1
9	5.4

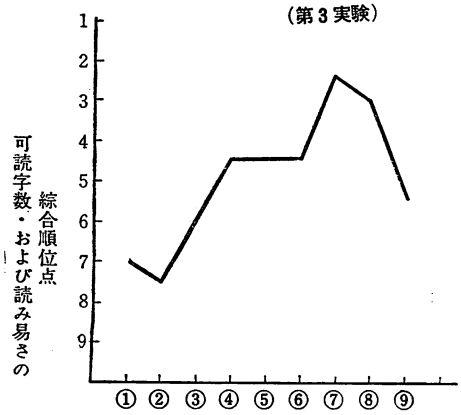
第4表　第4表実験のための印刷条件

字間行間比（P＝字間 q＝行間）

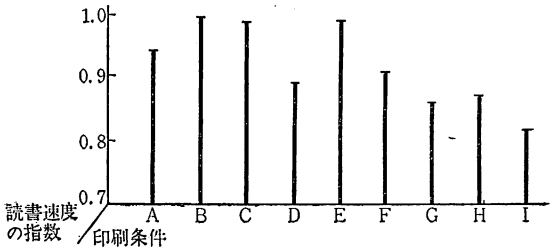
$\frac{q}{P}$ ≒1.4	A {P＝2.5mm, q＝3.5mm}	D {P＝3.25mm, q＝4.5mm}	G {P＝4.0mm, q＝5.5mm}
$\frac{q}{P}$ ≒1.7	B {P＝2.5mm, q＝4.5mm}	E {P＝3.25mm, q＝5.5mm}	H {P＝4.0mm, q＝7.0mm}
$\frac{q}{P}$ ≒2.8	C {P＝2.5mm, q＝7.0mm}	F {P＝3.25mm, q＝9.0mm}	I {P＝4.0mm, q＝11.0mm}

ＡＢＣはＰが共通

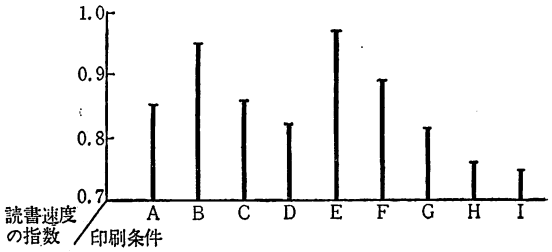
第8図　行間実験の結果（第3表を図示すると）
（第3実験）



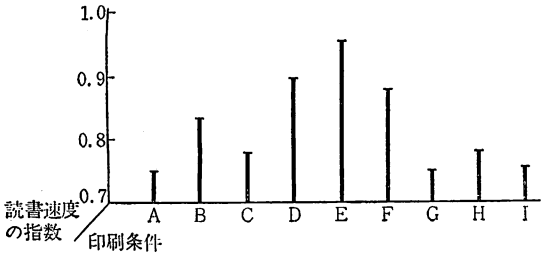
第9図(c)　集団テストの結果（四ツ谷第6小）
（第4実験）



第9図(b)　集団テストの結果（東洋女子短大1年）
（第4実験）



第9図(a)　集団テストの結果（東洋女子短大2年）第4実験



言葉の表現効果について*

——語音象徴と情緒値に関する実験的研究——

東京教育大学　福沢周亮

言葉は，すでに指摘されているように，いくつもの機能をもっている（9）。そのため，言葉は，時に，つかい手の意図とは全く異なる方向に受けとり手をもっていってしまうことがある。語音象徴とか情緒値とかは，そういった場合に大きく働く要因の一つと考えられるものである。

以下，ここでは，これらを実験的に検討してみよう。

A　語音象徴について—清音と濁音の比較—

Ⅰ　目　的

語音象徴の問題については，すでにいくつかの研究がなされている。すなわち，外国では Sapir（3），Newmann（2），Bentley と Varon（1）等による研究がそれであり（19），わが国では佐久間鼎（15），井原正男と岩原光春（11），築島謙三（17）（18），田桐大澄（16）松岡武（12）（13），深田博紀（8）等の諸氏の研究が指摘されるのである。しかしながら，これらの研究はいろいろな角度からとりあげられており，必ずしも一貫したものをもっているわけではない。本稿で問題にしようとしている「清音と濁音の比較」についても，実験的に明確な線が出されてはいない。そこでここでは，「清音と濁音の差異が，表現効果のうえでどのような違いを表わすかを実験的に検討しようとする」ものである。

Ⅱ　手　続

1．被験者：

男子——東京教育大学大学院学生　6名。

高校教師　1名。

女子——東洋女子短期大学学生　7名。

計　14名。

2．実験日：1957.10.29～11.2 及び 1959.4.20

3．材料：声喩，それもとくに“たたみ語”と言われる言葉を使用。「清濁」いずれをとっても文意の変らない声喩を選んだ。声喩はそれを単独で出すのでなく，一つの文として提示するのである。その際，明瞭に擬態語・擬音語であることも考慮し，文はそれを具体的にしすぎてあらかじめ内容を限定しないようにした。以下に示すのが選んだ10対であるが，1対ずつ提示するため，1対ごとに異なった紙を用いた。

1．車がカラカラ（ガラガラ）まわる。
2．鐘がカンカン（ガンガン）なる。
3．車がカタカタ（ガタガタ）ゆれる。
4．布がハタハタ（バタバタ）はためく。
5．木がサワサワ（ザワザワ）ゆれる。
6．人がトントン（ドンドン）たたく。
7．車がクルクル（グルグル）まわる。
8．砂がサラサラ（ザラザラ）している。
9．液がタラタラ（ダラダラ）ながれる。
10．石がコロコロ（ゴロゴロ）ころがる。

次に実例を示す。

車が　カラカラ　まわる

---

* Experimental Studies on the Phonetic Symbolism and the Emotional Tone of Words

** Shūsuke Fukuzawa (Tōkyō University of Education)

車が　ガラガラ　まわる　　1

4．提示方法：面接法を用いた。前記の刺激カードを提示し，各対について，大小・軽重・明暗・美醜・清濁・粗滑の点から比較してもらった。たとえば，「車がカラカラまわる」と「車がガラガラまわる」とでは，どちらの車が大きいと感じられるかのようである。なお判断にあたっては“三件法”を用いた。

Ⅲ　結　果

以下，表1・1，表1・2，表1・3に清音の結果（いずれも実数）を示す。濁音の結果はこれに対立するわけである。表中，不定欄のカッコ内は反対の反応を示した数である。

表1. 1　男　子　の　結　果

	大小		軽重		明暗		美醜		鋭鈍		清濁		粗滑	
	小	不定	軽	不定	明	不定	美	不定	鋭	不定	清	不定	滑	不定
カラカラ	5	1(1)	7	0	7	0	6	1	4	3	7	0	6	1
カンカン	5	2	7	0	6	1	6	1	4	3	5	2	2	5
カタカタ	2	5	7	0	4	3	5	2	4	3	4	3	5	2
ハタハタ	6	1	7	0	5	2	6	1	4	3	4	3	2	5
サワサワ	5	2	7	0	6	1	2	5	3	4	4	3	2	5
トントン	6	1	7	0	5	2	3	4	4	3	5	2	3	4
クルクル	5	2	6	1	4	3	4	3	5	1(1)	3	4	4	3
サラサラ	7	0	7	0	5	2	7	0	5	2	3	4	5	2
タラタラ	3	4	7	0	5	2	5	2	3	4	5	2	2	5
コロコロ	7	0	7	0	4	3	4	3	5	2	4	3	4	3

表1. 2　女　子　の　結　果

	大小		軽重		明暗		美醜		鋭鈍		清濁		粗滑	
	小	不定	軽	不定	明	不定	美	不定	鋭	不定	清	不定	滑	不定
カラカラ	7	0	6	0(1)	4	3	4	3	4	2(1)	7	0	6	1
カンカン	7	0	7	0	5	2	3	4	4	2(1)	7	0	1	6
カタカタ	5	2	7	0	5	2	3	4	3	3(1)	7	0	6	1
ハタハタ	5	2	7	0	4	3	4	3	4	3	3	4	4	3
サワサワ	7	0	5	2	5	1(1)	3	4	3	4	5	2	4	3
トントン	6	1	7	0	6	1	2	5	2	4(1)	7	0	3	4
クルクル	5	2	6	1	4	3	4	3	3	3(1)	4	3	6	1
サラサラ	7	0	5	2	2	5	7	0	3	4	6	1	6	1
タラタラ	3	4	6	1	4	3	6	1	4	2(1)	6	1	4	3
コロコロ	7	0	7	0	4	3	6	1	4	1(2)	5	2	6	1

表1. 3　全　体　を　ま　と　め　て

	大小		軽重		明暗		美醜		鋭鈍		清濁		粗滑	
	小	不定	軽	不定	明	不定	美	不定	鋭	不定	清	不定	滑	不定
カラカラ	12	1(1)	13	0(1)	11	3	10	4	8	5(1)	14	0	12	2
カンカン	12	2	14	0	11	3	9	5	8	5(1)	12	2	3	11
カタカタ	7	7	14	0	9	5	8	6	7	6(1)	11	3	11	3
ハタハタ	11	3	14	0	9	5	10	4	8	6	7	7	6	8
サワサワ	12	2	12	2	11	2(1)	5	9	6	8	9	5	6	8
トントン	12	2	14	0	11	3	5	9	6	7(1)	12	2	6	8
クルクル	10	4	12	2	8	6	8	6	8	4(2)	7	7	10	4
サラサラ	14	0	12	2	7	7	14	0	8	6	9	5	11	3
タラタラ	6	8	13	1	9	5	11	3	7	6(1)	11	3	6	8
コロコロ	14	0	14	0	8	6	10	4	9	3(2)	9	5	10	4

Ⅳ　考　察

考察にあたって，まず前出の表を次の表2のようにまとめてみた。被験者の半数以上（男女別の場合には4名以上，全体の場合には8名以上）が，その反応をした声喩の数である。

表2

	小	軽	明	美	鋭	清	滑
男　子	8	10	10	8	8	8	5
女　子	9	10	9	6	5	9	8
全　体	8	10	9	8	6	8	5

表2をもとに「清音」を中心にして考察していくと――

(1)　男子では，「軽い」「明るい」が一番よく感じとられ，「小さい」「美しい」「鋭い」「清い」がそれらにつぎ，「なめらか」は感じとられかたが弱い。

(2) 女子では，「軽い」が一番よく感じとられ，ついで「小さい」「明るい」「清い」がならび，「なめらか」「美しい」「鋭い」の順で感じとられかたが弱くなる。

(3) 全体としてみると，「軽い」は特にはっきり感じとられると言ってよく，「明るい」がそれにつぎ，「小さい」「美しい」「清い」はその次にならぶ。ついで，「鋭い」「なめらか」はこの順で感じとられかたが弱くなる。

従って，「濁音」は，「重い」「暗い」「大きい」「醜い」「濁っている」「鈍い」「粗雑」が感じとられるわけである。

——男女差について——表1．1，表1．2についてサインテスト（22）をした結果が表3である。いずれも差が認められなかった。

表3

	小	軽	明	美	鋭	清	滑
m＋½k	3.5	3	3	4	3	1.5	2

＊対の数は10

B　情緒値について

Ⅰ　目　的

Watts によれば，語の情緒値（感情価）には次の3つがある (4) (14)。

(1) ゼロの情緒値——なんの情緒もおこさない，方向のない単語である。

(2) プラスの情緒値——快の方向において感情や情緒を巧みに伝える単語である。

(3) マイナスの情緒値——不快な方向において，感情や情緒を伝える単語である。

ここでは，この情緒値をなんらかの形で実験的に検討しようとするものである。

なおこの種の研究については，日本ではいずれもＧＳＲを用いた研究 (7) (6) が認められる。

Ⅱ　手　続

1．被験者：東京教育大学学生（男子）——77名。
東洋女子短期大学学生——193名（及び167名）*1

2．実験期間：1960.11～1961.1

3．材料：次の言葉を提示語とした。*2——父，おやじ，母，おふくろ，主人，夫，ハズ，ハズバンド，亭主，旦那，妻，家内，フラウ，ワイフ，女房(にょうぼ)，恋人，リーベ，愛人，情人，スプーン，さじ，水，おひや，デイト，ランデヴー，密会，あいびき，お手洗い，トイレット，WC，便所，コミュニスト，共産主義者，あか，ベーゼ，接吻，くちづけ，キッス，キュッセン，おくさん，おかみさん，おとうさん，パパ，おとうちゃん，おかあさん，ママ，おかあちゃん，フィアンセ，いいなずけ，ビジネスガール，ＢＧ，デモクラシー，民主主義，民主的，封建的——以上55語。同一対象に対する異なる言葉を選んだ。ただし，「民主的」と「封建的」は，明確な対象の違いを問題にしたものである。

4．方法：評定尺度法(5)を用いた。すなわち，上記の言葉を聞いた場合，それらが次の5段階（とても感じがよい(5)・感じがよい(4)・どちらでもない(3)・感じがわるい(2)・とても感じがわるい(1)）のどこにあてはまるか，被験者にチェックしてもらったのである。言葉は無作為に提示した。一応板書したが，聞いた感じに重点をおくよう指示した。

Ⅲ　結　果

以下に結果を示す。反応した人数（N）と割合（%）である。1～5の番号は，「とても感じがわるい(1)」～「とても感じがよい(5)」のそれぞれの段階を示している。男子の場合，人数の計は全て77名であるので計を記さなかったが，女子の場合は異なる為それぞれ記した。

表4．1　男子の結果

	N					%					
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	計
父	2	5	28	35	7	2.6	6.5	36.4	45.5	9.1	100.1
おやじ	4	23	32	14	4	5.2	29.9	41.6	18.2	5.2	100.1
母	0	1	23	39	14	0	1.3	29.9	50.6	18.2	100
おふくろ	8	15	37	10	7	10.4	19.5	48.1	13.0	9.1	100.1

主　人	2	6	32	34	3	2.6	7.8	41.6	44.2	3.9	100.1
夫	4	17	41	15	0	5.2	22.1	53.2	19.5	0	100
ハ　ズ	29	30	14	3	1	37.7	39	18.2	3.9	1.3	100.1
ハズバンド	17	31	27	2	0	22.1	40.3	35.1	2.6	0	100.1
亭　主	17	42	16	1	1	22.1	54.5	20.8	1.3	1.3	100
旦　那	14	38	19	5	1	18.2	49.4	24.7	6.5	1.3	100.1
妻	1	5	32	35	4	1.3	6.5	41.6	45.5	5.2	100.1
家　内	2	14	40	17	4	2.6	18.2	51.9	22.1	5.2	100
フラウ	7	17	28	17	8	9.1	22.1	36.4	22.1	10.4	100.1
ワイフ	5	29	25	16	2	6.5	37.7	32.5	20.8	2.6	100.1
女　房	8	41	22	3	3	10.4	53.2	28.6	3.9	3.9	100
水	0	1	57	10	9	0	1.3	74	13.0	11.7	100
おひや	2	28	20	26	1	2.6	36.4	26	33.8	1.3	100.1
お手洗い	2	4	32	33	6	2.6	5.2	41.6	42.9	7.8	100.1
トイレット	0	10	39	24	4	0	13.0	50.6	31.2	5.2	100
W　C	9	23	42	2	1	11.7	29.9	54.5	2.6	1.3	100
便　所	10	39	25	3	0	13.0	50.6	32.5	3.9	0	100
コミュニスト	3	8	42	21	3	3.9	10.4	54.5	27.3	3.9	100
共産主義者	12	33	27	4	1	15.6	42.9	35.1	5.2	1.3	100.1
あ　か	47	24	3	2	1	61.0	31.2	3.9	2.6	1.3	100
おくさん	4	17	35	19	2	5.2	22.1	45.5	24.7	2.6	100.1
おかみさん	15	37	23	1	1	19.5	48.1	29.9	1.3	1.3	100.1
おとうさん	1	2	20	37	17	1.3	2.6	2.6	48.1	22.1	100.1
パ　パ	10	19	21	22	5	13.0	24.7	27.3	28.6	6.5	100.1
おかあさん	1	1	16	37	22	1.3	1.3	20.8	48.1	28.6	100.1
マ　マ	10	20	25	18	4	13.0	26	32.5	23.4	5.2	100.1
デモクラシー	0	5	37	27	8	0	6.5	48.1	35.1	10.4	100.1
民主主義	0	2	30	38	7	0	2.6	39	49.4	9.1	100.1
民主的	2	5	28	34	8	2.6	6.5	36.4	44.2	10.4	100.1
封建的	13	24	35	5	0	16.9	31.2	45.5	6.5	0	100.1

表4・2　女子の結果

	N						%					
	1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5	計
父	0	8	33	89	63	193	0	4.1	17.1	46.1	32.6	99.9
おやじ	35	83	55	16	4	193	18.1	43	28.5	8.3	2.1	100
母	2	3	21	83	84	193	1.0	1.6	10.9	43	43.5	100
おふくろ	14	70	67	35	7	193	7.3	36.3	34.7	18.1	3.6	100
主　人	2	2	23	100	40	167	1.2	1.2	13.8	59.9	24.0	100.1
夫	1	13	72	67	14	167	0.6	7.8	43.1	40.1	8.4	100
ハ　ズ	15	66	50	27	9	167	9.0	39.5	29.9	16.2	5.4	100
ハズバンド	15	50	78	24	0	167	9.0	29.9	46.7	14.4	0	100
亭　主	39	109	16	1	2	167	23.4	65.3	9.6	0.6	1.2	100.1
旦　那	59	83	24	1	0	167	35.3	49.7	14.4	0.6	0	100
妻	0	6	80	97	10	193	0	3.1	41.5	50.3	5.2	100.1
家　内	1	31	85	46	4	167	0.6	18.6	50.9	27.5	2.4	100
フラウ	11	29	88	32	7	167	6.6	17.4	52.7	19.2	4.2	100.1
ワイフ	16	83	69	20	5	193	8.3	4.3	35.8	10.4	2.6	100.1
女　房	27	105	31	4	0	167	16.2	62.9	18.6	2.4	0	100.1
恋　人	1	5	63	81	17	167	0.6	3.0	37.7	48.5	10.2	100
リーベ	4	15	65	65	18	167	2.4	9.0	38.9	38.9	10.8	100
愛　人	8	93	50	14	2	167	4.8	55.7	29.9	8.4	1.2	100
情　人	60	73	27	7	0	167	35.9	43.7	16.2	4.2	0	100
スプーン	0	1	89	91	12	193	0	0.5	46.1	47.2	6.2	100
さ　じ	8	76	105	3	1	193	4.1	39.4	54.4	1.6	0.5	100
水	0	2	115	57	19	193	0	1.0	59.6	29.5	9.8	99.9
おひや	1	26	91	63	12	193	0.5	13.5	47.2	32.6	6.2	100
デイト	2	10	46	98	11	167	1.2	6.0	27.5	58.6	6.6	99.9
ランデヴー	17	85	42	20	3	167	10.2	50.9	25.1	12	1.8	100
密　会	66	67	28	5	1	167	39.5	40.1	16.8	3.0	0.6	100
あいびき	75	71	12	8	1	167	44.9	42.5	7.2	4.8	0.6	100
お手洗い	0	15	67	102	9	193	0	7.8	34.7	52.8	4.7	100
トイレット	2	24	121	45	1	193	1.0	12.4	62.7	23.3	0.5	99.9

W C	37	96	58	2	0	193	19.2	49.7	30.1	1.0	0	100
便 所	46	103	44	0	0	193	23.8	53.4	22.8	0	0	100
コミュニスト	7	35	80	40	5	167	4.2	21	47.9	24.0	3.0	100.1
共産主義者	38	75	48	6	0	167	22.8	44.9	28.7	3.6	0	100
あ か	107	46	12	2	0	167	64.1	27.5	7.2	1.2	0	100
ベ ー ゼ	11	38	85	27	6	167	6.6	22.8	50.9	16.2	3.6	100.1
接 吻	9	46	114	24	0	193	4.7	23.8	59.1	12.4	0	100
くちづけ	28	50	66	37	12	193	14.5	25.9	34.2	19.2	6.2	100
キ ッ ス	22	55	86	29	1	193	11.4	28.5	44.6	15.0	0.5	99.9
キュッセン	12	63	81	11	0	167	7.2	37.7	48.5	6.6	0	100
おくさん	0	18	101	68	6	193	0	9.3	52.3	35.2	3.1	99.9
おかみさん	52	102	30	9	0	193	26.9	52.8	15.5	4.7	0	99.9
おとうさん	0	3	28	119	43	193	0	1.6	14.5	61.7	22.3	100.1
パ パ	4	39	101	44	5	193	2.1	20.2	52.3	22.8	2.6	100
おとうちゃん	9	51	73	32	2	167	5.4	30.5	43.7	19.2	1.2	100
おかあさん	0	0	17	109	67	193	0	0	8.8	56.5	34.7	100
マ マ	3	35	97	53	5	193	1.6	18.1	50.3	27.5	2.6	100.1
おかあちゃん	7	47	81	28	4	167	4.2	28.1	48.5	16,8	2.4	100
フィアンセ	1	8	36	121	27	193	0.5	4.1	18.7	62.7	14	100
いいなずけ	7	50	95	39	2	193	3.6	25.9	49.2	20.2	1.0	99.9
ビジネスガール	7	18	88	48	6	167	4.2	10.8	52.7	28.7	3.6	100
B G	7	40	63	52	5	167	4.2	24.0	37.7	31.1	3.0	100
デモクラシー	0	3	50	80	34	167	0	1.8	29.9	47.9	20.4	100
民主主義	0	3	55	89	20	167	0	1.8	32.9	53.3	12	100
民 主 的	0	7	53	86	21	167	0	4.2	31.7	51.5	12.6	100
封 建 的	29	69	54	14	1	167	17.4	41.3	32.3	8.4	0.6	100

Ⅳ 考 察

先の表に基づいて，各語の中央値（Mdn），平均（M），標準偏差（S D）を出したのが表５・１，表５・２である。平均は，各段階につけた１から５までの番号を点数として，各語の合計点（各段階の点数と人数をかけ，それらの得点をたしたもの）を出し，それを人数でわったものである。ここで中央値を出したのは，評定尺度法は，元来順序尺度と考えられ，平均のみによる解釈に疑義なしとは必ずしも言えないからである（23）（24）。

表５・１　男子のMdn・M・SD

言 葉	Mdn	M	S D	言 葉	Mdn	M	S D
おかあさん	4	4.01	0.81	おふくろ	3	2.91	1.04
おとうさん	4	3.87	0.83	パ パ	3	2.91	1.14
母	4	3.86	0.71	おやじ	3	2.88	0.94
民主主義	4	3.65	0.68	夫	3	2.87	0.78
民主的	4	3.53	0.86	マ マ	3	2.82	1.09
父	4	3.52	0.85	ワイフ	3	2.75	0.94
デモクラシー	3	3.49	0.77	W C	3	2.52	0.84
お手洗い	4	3.48	0.82	封建的	3	2.42	0.84
妻	4	3.47	0.75	女 房	2	2.38	0.87
主 人	3	3.39	0.79	共産主義者	2	2.34	0.85
水	3	3.35	0.70	便 所	2	2.27	0.64
トイレット	3	3.29	0.75	旦 那	2	2.23	0.87
コミュニスト	3	3.17	0.81	ハズバンド	2	2.18	0.80
家 内	3	3.09	0.84	おかみさん	2	2.17	0.79
フラウ	3	3.03	0.22	亭 主	2	2.05	0.77
おくさん	3	2.97	0.88	ハ ズ	2	1.92	0.91
おひや	3	2.95	0.92	あ か	1	1.52	0.80

表５・２　女子のMdn・M・SD

言 葉	Mdn	M	S D	言 葉	Mdn	M	S D
母	4	4.26	0.80	ベーゼ	3	2.87	0.88
おかあさん	4	4.26	0.61	おかあちゃん	3	2.85	0.83
父	4	4.07	0.81	おとうちゃん	3	2.80	0.86
おとうさん	4	4.04	0.65	接 吻	3	2.79	0.71
主 人	4	4.04	0.73	くちづけ	3	2.77	1.11
デモクラシー	4	3.87	0.74	おふくろ	3	2.75	0.96
フィアンセ	4	3.85	0.72	ハ ズ	3	2.69	1.02
民主主義	4	3.75	0.68	ハズバンド	3	2.66	0.83
民主的	4	3.72	0.73	キッス	3	2.65	0.89

恋　人	4	3.65	0.73	ワイフ	3	2.56	0.88
デイト	4	3.63	0.74	さ　じ	3	2.55	0.63
スプーン	4	3.59	0.61	キュッセン	3	2.54	0.72
妻	4	3.58	0.64	愛　人	2	2.46	0.76
お手洗い	4	3.54	0.70	ランデヴー	2	2.44	0.89
水	3	3.48	0.69	封建的	2	2.34	0.88
夫	3	3.48	0.78	おやじ		2.33	0.93
リーベ	3	3.47	0.89	共産主義者	2	2.13	0.80
おくさん	3	3.32	0.68	W　C	2	2.13	0.72
おひや	3	3.31	0.80	女　房	2	2.07	0.65
ビジネスガール	3	3.17	0.83	便　所	2	1.99	0.69
家　内	3	3.13	0.75	おかみさん	2	1.98	0.78
マ　マ	3	3.11	0.78	亭　主	2	1.91	0.67
トイレット	3	3.10	0.64	情　人	2	1.89	0.82
B　G	3	3.05	0.92	密　会	2	1.85	0.85
パ　パ	3	3.01	0.79	旦　那	2	1.80	0.71
コミュニスト	3	3.01	0.86	あいびき	2	1.74	0.84
フラウ	3	2.97	0.89	あ　か	1	1.46	0.68
いいなずけ	3	2.89	0.80				

表6　男女別・対象別によるMdn・Mの比較

言葉	男子		女子		言葉	男子		女子	
	Mdn	M	Mdn	M		Mdn	M	Mdn	M
父	4	3.52	4	4.07	妻	4	3.47	4	3.58
おやじ	3	2.88	2	2.33	家　内	3	3.09	3	3.13
母	4	3.86	4	4.26	フラウ	3	3.03	3	2.97
おふくろ	3	2.91	3	2.75	ワイフ	3	2.75	3	2.56
主　人	3	3.39	4	4.04	女　房	2	2.38	2	2.07
夫	3	2.87	3	3.48	お手洗い	4	3.48	4	3.54
ハ　ズ	2	1.92	3	2.69	トイレット	3	3.29	3	3.10
ハズバンド	2	2.18	3	2.66	W　C	3	2.52	2	2.13
亭　主	2	2.05	2	1.91	便　所	2	2.27	2	1.99
旦　那	2	2.23	2	1.80	コミュニスト	3	3.17	3	3.01
共産主義者	2	2.34	2	2.13	愛　人			2	2.46
あ　か	1	1.52	1	1.46	情　人			2	1.89
デモクラシー	3	3.49	4	3.87	デイト			4	3.63
民主主義	4	3.65	4	3.75	ランデヴー			2	2.44
おくさん	3	2.97	3	3.32	密　会			2	1.85
おかみさん	2	2.17	2	1.98	あいびき			2	1.74
水	3	3.35	3	3.48	ベーゼ			3	2.87
おひや	3	2.95	3	3.31	接　吻			3	2.79
おとうさん	4	3.87	4	4.04	くちづけ			3	2.77
パ　パ	3	2.91	3	3.01	キッス			3	2.65
おとうちゃん			3	2.80	キュッセン			3	2.54
おかあさん	4	4.01	4	4.26	フィアンセ			4	3.85
マ　マ	3	2.82	3	3.11	いいなずけ			3	2.89
おかあちゃん			3	2.85	スプーン			4	3.59
民主的	4	3.58	4	3.72	さ　じ			3	2.55
封建的	3	2.42	2	2.34	ビジネスガール			3	3.17
恋　人			4	3.65	B　G			3	3.05
リーベ			3	3.47					

さて細かな検討にはいる前に表5.1，表5.2に基づいて，プラスの情緒値の語とマイナスの情緒値の語をみてみると，一応，表7のようにまとめられる。ここで，A・Cは両条件を満たす語であり，Bはどちらかの条件をそなえている語である。

表7

グループ(情緒値)	条件		男子	女子
A(+)	Mdn	4	妻　以上*	お手洗い　以上
	M	3.45以上		
B(0)	Mdn	3	主　人〜封建的	水〜愛　人
	M	3.44〜2.45		
C(−)	Mdn	2・1	女房　以下	ランデヴー　以下
	M	2.44以下		

＊「デモクラシー」はBへいれる。

① 男女差について

(1)――両者ともだいたい同じ方向に感じとっている――男女とも反応した語の平均をもとにして相関をとってみると，$\rho=0.915$ で非常に高い相関が認められた。従って，特別の語を除いて，全体として，男女だいたい同じ方向に感じとっていると言ってよい。

(2)――感ずる程度は女子の方がつよいようである――男女ともに反応した語を男子について平均の大きい順にならべ，同時に対応する女子の平均をならべて，上位10対・下位10対（及び12対）をとってサインテストを試みる（表8）。

表8

上位群				下位群			
言葉	男子	大小	女子	言葉	男子	大小	女子
おかあさん	4.01	<	4.26	あか	1.52	>	1.46
おとうさん	3.87	<	4.04	ハズ	1.92	<	2.69
母	3.86	<	4.26	亭主	2.05	>	1.91
民主主義	3.65	<	3.75	おかみさん	2.17	>	1.98
民主的	3.53	<	3.72	ハズバンド	2.18	<	2.66
父	3.52	<	4.07	旦那	2.23	>	1.80
デモクラシー	3.49	<	3.87	便所	2.27	>	1.99
お手洗い	3.48	<	3.54	共産主義者	2.34	>	2.13
妻	3.47	<	3.58	女房	2.38	>	2.07
主人	3.39	<	4.04	封建的	2.42	>	2.34
				WC	2.52	>	2.13
				ワイフ	2.75	>	2.56

上位10対は5％で有意（$m+\frac{1}{2}k=0$）。下位10対は10％でも有意と言えない。しかし，この中には「ハズ」「ハズバンド」という特に男子にわるく評定された言葉がはいっているので，12対にしてみると，5％で有意と認められる（$m+\frac{1}{2}k=2$）。すなわち，女子は男子よりも“よりよく”・“よりわるく”反応していると認められるのである。

(3)――男女差が明確に出ている言葉「ハズ」「ハズバンド」――Mdn・M の両方において男女間に差のある語をみると，次のようである（表9）。前記(2)の「女子の方がつよく感ずる」ことを考慮して考察してみると，

表9

言葉	男子		大小	女子	
	Mdn	M		Mdn	M
主人	3	3.39	<	4	4.04
おやじ	3	2.88	>	2	2.33
WC	3	2.52	>	2	2.13
ハズ	2	1.92	<	3	2.69
ハズバンド	2	2.18	<	3	2.66

「主人」「おやじ」「WC」はその方向にそっており，特にそれがつよく出たと認められる程度であるが，「ハズ」「ハズバンド」は逆向して男子が極端にわるく評定している。これについてはなお検討の余地があり以下に述べることは類推の域を出ないが，――これらの語音からくる感じに“軽薄な感じ”がはいっていないだろうか。多くの外来語についてまわる“きざな感じ”もあるように思われる。加えてこの語の意味するところが，男子の権威の座と思われる“主人”・“夫”であるため，それらとのギャップが大きくてこうなったのではないかと考えられる。

全体としては，主として自分達が使っている語（または，使うであろうと認められる語）は，異性よりもよく感じとっていると認められる。

②――外来語（本稿ではカタカナ及びローマ字で書いた語で狭義の外来語(10)である。従って，たとえば「旦那」「さじ」は梵語・中国語からの外来語(20)(21)であるがいれていない）は，あまり悪い感じを与えない――

表5.1，表5.2，表7において，Cグループにはいっている外来語は，男子では2語（「ハズ」「ハズバンド」）で，これは男子で用いた全外来語の2割にあたる。女子の方では20語中2語（「ランデヴー」「WC」）で1割である。一方，外来語以外の語については，男子の場合24語中7語で約3割，女子の場合は35語中12語で約3割5

分である。

また表6に基づいて，男女別・対象別に外来語を含むグループ（外来語のみのを除く）を検討してみると，——全部で19グループあるが，そのうち外来語が最低にきているのは次の5グループである。男子——ハズ・男子——デモクラシー・男子——パパ・男子——ママ・女子——キュッセン。しかしこれとても「パパ」「ママ」は，「おとうちゃん」「おかあちゃん」を省いてのことであって，全体としては，よい方に感じとられていると認められる。

④——婉曲語がよい方向に感じとられている——

これはその発生を考えてみれば頷けるところであろう。「お手洗い〉トイレット〉WC〉便所」の例はその典型と認められる。もちろんその対象によるのであるが，婉曲な表現は情緒値を高める一つの大きな要因になっていると考えられる。

④——語音からくる感じが，その語の意味するところと一致する方向にある場合，よく感じとられるようである——

例えば「トイレット〉WC」において，「WC」がd，bという“粗野”“汚濁”を感じさせる音で構成されているのに対して，「トイレット」は“軽快”を感じさせるtの音で多く構成されている(8)。また「WC」の「C」は，尿の意味の「しい」(20)に通じよう。いずれにせよ，全体として「WC」は「トイレット」よりきたない感じを与えると言える。「スプーン〉さじ」「フィアンセ〉いいなずけ」もこの例と認められる。なお蛇足ながらここであげた3対の下位語が，いずれも濁音をもっていることは注意すべきことであろう。

⑤——言葉の意味するところが自分にとって価値のある言葉は，よい方に感じとられるようである。

「民主的〉封建的」という結果は民主主義の社会では当然と言えるかもしれないが，封建社会であったらあるいは逆になったかもしれない。ということは，自分が現在価値を認めているものの語に対しては，よい方に感じる傾向があるのではないかということである。「父」「母」「おとうさん」「おかあさん」の評定が高いのも，この点から解釈できると考えられる。もちろん，その語の語音・語からの連想等に難点がないことが条件である。

○——「おくさん〉おかみさん」の結果は，尊敬語がよい方に感じとられることを示しているようであるが，「おくさん」は Mdn＝3・M＝2.97 で必ずしも高い情緒値をもっているわけではなく，また，尊敬語についてはこれ以外に資料がないので，ここではそういった傾向があるのではないかという程度にとどめておく。

以上，言葉の情緒値を検討したのであるが，実際には言葉が単語として単独で存在する場合は少なく，その意味でもっと大きなまとまりで検討されることが必要と考えられる。また，同じ言葉でも使い手によりその感じが異なってくることも，言葉によっては認められるわけでそういった面からの検討も必要であろう。

◆要　約◆

1．本稿は，言葉の表現効果に影響すると考えられる要因の中から，語音象徴と情緒値をとりあげ，実験的に検討を試みたものである。

2．語音象徴に関しては，材料として声喩10対(20語)を用い，男女学生各7名を被験者として，清音と濁音の比較を行なった。

結果は，全体としてみると，清音は「軽い」「明るい」「小さい」「美しい」「清い」「鋭い」「なめらか」が，濁音は「重い」「暗い」「大きい」「醜い」「濁っている」「鈍い」「粗雑」が感じとられた。

3．情緒値に関しては，評定尺度法（5段階）を用い，男女大学生を被験者として行なった。使用した語の数は34語（男子）・55語（女子）である。結果は次のとおり。

1）男女差について——差異は感じとる方向においてはなく，程度において認められた。特に男子において，「ハズ」「ハズバンド」が悪い感じを強く与えたのが注目される。

2）外来語はあまり悪い感じを与えない。

3) 婉曲語がよい方向に感じとられている。

4) 語音からくる感じが，その語の意味するところと一致する方向にある場合，よく感じとられるようである。

5) 言葉の意味するところが自分にとって価値のある言葉は，よい方に感じとられるようである。

〔付記〕本稿の一部は先に日本応用心理学会第26回大会で発表している。

〔注〕＊1——東洋女子短大の場合，2回にわけて行なっており，第1回は193名であるが，第2回は167名である。

＊2——教育大の方ではこの全てを使わなかった。34語を用いたのであるが詳細は結果に示されている。

参考文献

(1) Bentley, M. and Varon, E.: An Accessory Study of "Phonetic Symbolism." Amer. J. Psychol, 1933, 45, 76—86.

(2) Newmann, S. S.: Further Experiments in Phonetic Symbolism. Amer. J. Psychol 1933, 45, 53—75.

(3) Sapir, E.: A Study in Phonetic Symbolism. J. exp. Psychol, 1929, 12, 223—239.

(4) Watts, A. F.: The Language and Mental Development of Children 1955.

(5) Guilford, J. P.（秋重義治監訳）：精神測定法，培風館，1959.

(6) 青木牧子：言語の感情価に関する研究. 東京教育大学昭和34年度卒業論文（未発表）

(7) 藤野 武：言語の情緒刺戟価値と想起検査. 日本心理学会第16回大会講演抄録，1952.

(8) 深田博紀：語音韻の意味象徴. 日本応用心理学会第26回大会研究発表論文抄録集，1959.

(9) 波多野完治：言語（心理学講座，第12巻所載）. 中山書店，1954.

(10) 林 大：日本語の語彙（講座日本語Ⅱ（日本語の構造）所載）大月書店，1955.

(11) 井原正男・岩原光春：国語象徴音の表現性について——表現の心理学（Ⅴ）——. 心研. 13, 1938, 411—428.

(12) 松岡 武：文芸表現における語音象徴の問題. 山梨大学学芸学部研究報告. No. 7.

(13) 松岡 武：コトバと象徴（コトバの科学3（コトバの心理）所載）. 中山書店. 1958.

(14) 村石昭三：コトバと感情（コトバの科学3（コトバの心理）所載）. 中山書店. 1958.

(15) 佐久間鼎：日本語の言語理論，恒星社厚生閣. 1959.

(16) 田桐大澄：音象徴について. 立教大学研究報告——一般教育部——No. 1.

(17) 築島謙三：語音象徴に関する一考察. 心研，16, 1941, 232—253.

(18) 築島謙三：邦語に於ける擬声語擬態語の象徴性について. 心研，16, 1941, 176—180.

(19) 矢田部達郎：思考心理学Ⅰ. 培風館，1948.

(20) 新村出（編）：広辞苑. 岩波書店，1955.

(21) あらかわ・そおべい（編）：外来語辞典. 弘文堂，1955.

(22) 岩原信九郎：ノンパラメトリック法. 日本文化科学社，1955.

(23) 岩原信九郎：教育と心理のための推計学. 日本文化科学社，1957.

(24) 続有恒：質問紙調査法. 同学社，1954.

文章の語彙比重の査定法*

——Readability の研究の一つの試み——

東京学芸大学
阪本一郎**

(1) 語彙比重の査定の必要性

文章をもって通信する場合，その文章の象徴する意味が相手に理解されなければ，通信は成立しない。しかして文章通信を成立せしめる条件には種々あるが，その基本的なものの一つとして語彙の問題があげられる。発信者は自分の所有する語彙をもって文章を書くが，受信者がもしその語彙を所有していなければ，通信は成立しないのである。ここに発信者と受信者との間に，現に通信される文章に関する限り，語彙を共有していなければならないという原則が立てられる。

近代における社会生活の発達は，人間関係の密度を高め，そのために精神的交流の必要を増してきているのにつけても，無効通信はできる限り回避しなければならない。近来 Readability の研究がさかんになってきたのも，その努力の現われと解される。文章を読みやすくするとは結局，文章通信における抵抗を排除し，通信の成立を容易ならしめることにほかならない。

児童における語彙の能力は年齢に伴って急速に発達する。したがって例えば中学3年生にとって Readable な語彙で書かれた文章であっても，小学6年生には無効通信になるおそれがある。日本人の読み書き能力の調査の結果によると，国民の成人の語彙力の平均はほぼ中学3年生に等しいという。高校生はもっと高い。この基準からいえば，国民全体に通信する文章は中学3年程度の語彙をもって書かれるべきで，それ以上の語彙を用いると無効になるおそれが多分にあることになる。そこで年齢に応じた readable な語彙の基準がほしい。それが設定されれば，

a．発信者は通信する相手の語彙水準に応じた語彙構成の文章を書くことができる。

b．指導者は，受信者の語彙水準に応じた文章を選択して与えることができる。

c．語彙教育の担当者は，語彙教育の要求水準を子どもの発達に応じて立てることができる。

など文章通信のみならず語彙教育をも合理的に有効ならしめることができよう。

さてこのような語彙の発達的基準に照らして，個々の文章がいかなる水準に該当するかを査定する index をわたくしは語彙比重 Vocabulary Weight と名付けよう。

(2) 語彙比重の査定法の構想

文章の readability の研究は 1920 年ごろからアメリカでも行なわれており，その中で語彙の難易度を査定するくふうも種々試みられている。それらの検討と批判はここでは省略して，わたくしの試みの構想を述べよう。

a．語彙の難易度の基準となる基本語彙表を新たに作る。なるべく多量で，しかもそれを難易の段階に区切ったものにする。

b．査定しようとする文章の各語を，この基本語彙表に

---

* Assessing the Vocabulary Weight of Sentences.
——An Attempt to Approach the Readability.

** Itiro Sakamoto (Tokyō Gakugei Univ.)

対照して，どの段階の語がそれぞれ何%用いられているかを算出する。

c．この操作を経て，文章の語彙比重を数量的に表わすようにする。

d．語彙比重を子どもの発達基準に照らして査定できるようにする。

(3) 基本語彙表の構造

このために作った語彙表は，すでに「教育基本語彙」として発表してある（注1）ので，その概要だけをしるそう。

a．台本としては新村出編「言林」昭和24年初版を用いた。

b．これを10名の国語教育の実践的研究者に配布して，各語に教育上の重要度をチェックしてもらった。

c．かくて選ばれた語に，他の語彙調査に拾われている語を加え，これを5名の国語教育関係の大学教官にふたたびチェックしてもらった。

d．その結果は，つぎの段階に処理された。

A段階　小学校1～3年において学習されるべき語，5,000語。

B段階　小学校4～6年において学習されるべき語，7,500語。

C段階　中学校1～3年において学習されるべき語，10,000語。

計22,500語で，これによって義務教育修了程度までの読み物の約98%を占めることが推計された。

(4) 語単位の採り方

文章中の各語の比重を査定するには，まずその文章を語単位に切る切り方を約束しておかなければならない。それにはおよそのつぎの規定を設けた。

a．他の語と結合しないで，単独の意味を持って用いられている品詞論上の単語は一単位とする。ただし固有名詞・擬声語・擬音語は採らない。（擬態語は採る）。

b．他の単語として結合して，緊密に意味を限定し合っている単語は，合わせて一単位とする。

(a)合成語――松並木，受験勉強，生命保険会社など

(b)同じ単語を並列したもの――毎日毎日，別かれ別かれなど

(c)似た単語を並列したもの――左右，衣食住，右往左往など

(d)並列された数詞――三百六十五，ひとつふたつ，五分の一など

(e)数詞もしくは「何」「幾」「数」などに付く助数詞――二三人，何十人，数個など

(f)助詞「の」などを介して結合しているものでも，一つの成語としての意味を持つもの――菜の花，茶の間，このごろなど。ただし「的」で結合したものは切る。

――積極的／行動，美的／感覚

(g)体言などに付く「する」「なさる」「できる」など――用意する，遊びなさい。ただし助詞「を」「に」などを介したものは切る。話を／する，飯に／するなど。

(h)陳述の意を表わす動詞「ある」「ござる」および同じ用法の形容詞「ない」――行ったのである，私ではありませんなど。

(i)固有名詞の末尾に付く「山」「川」「駅」「会社」など――ただし固有名詞と普通名詞との結合の必然が弱いものは切る。――池田／首相，東大／教授／井上／博士

c．他の独立して用いられない詞と結合している単語は，合わせて一単位とする。

(a)助詞　(b)助動詞　(c)接頭詞　(d)接尾詞　(e)形式名詞（私のものの意の「私の」，このようになど）　(f)補助用言――教えるという／事，読みはじめる，見ている

d．上記により，すでに一単位とみなされる単語が結合されているものは，切ってそれぞれを単位とする。――世界／早まわり，礼儀／正しい，昭和／25年／3月／25日。

e．以上のほか，判断に苦しむ場合は，「言林」の見出

し語の扱いに従う。

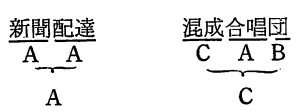
(5) 語彙比重の与え方

つぎに語単位ごとに，基本語彙表に照合して，比重記号A，B，C，およびE（表外語）を与える。（固有名詞を別の目的で処理する必要のある場合は，これにDを与える。）比重は，A〈B〈C〈Eである。

この際つぎの約束に従う。

a．語単位が活用形になっているものは語彙表の原形による。

b．語彙表に独立して掲げられている語が結合して1単位となっているものは，それぞれの比重の重い方による。



c．語単位に与えられた比重記号ごとにその総数を数え，%値に換算する（Dは除外）。小数以下第2位を4捨5入する。

d．全文の語彙比重（VW）点をつぎの公式で算出する。

$$VW = \%_B + 2\%_C + 3\%_E$$

つまりA段階の語ばかりで書かれている文章のVWは0となり，これにB，C，E段階の語が混入する度が高い文章ほどVWは高くなり，表外語のみで書かれた文章があるとすればVWは300となり，もっともunreadableな文章ということになるのである。

(6) 標本語数の問題

いま語彙比重を査定しようとする文章が比較的短い場合，B以上の段階の語の使用が%の上に大きくひびきすぎるおそれがある。したがって短文の語彙比重点はあまり信頼できないことがある。さりとてあまり長文の場合は，全文を査定することは無意義で，ある程度の標本語数を抽出すればよいわけである。ではかかる標本語数の限界はどの程度であるか。

結論としてはつぎのように定めた。

a．短文の場合，延べ語数が100語以上でなければならない。これは1語の比重差が全文の語彙比重点の1～3点の変動に止まらせるためである。

b．長文の場合，最少限500語に止めてよい。実例によって，信頼度95%における必要標本数をつぎの式によって計算した。

$$n = \frac{N}{\left(\frac{F}{K}\right)^2 \cdot \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

n…必要な標本数　F…絶対誤差

K…信頼度95%に対するtの値

N…母集団の総数　P…母集団の比率

これによるとA段階の語彙の%は，100語を採っただけで0.2の相対誤差ですむのであるが，B，C段階ではそれにはとどまらず，語彙比重点にもっとも大きく影響するE段階では約500語を採ってようやく相対誤差0.4に食いとどめることが知られた。

そこで長文の標本語の抽出には，つぎの方式を定めた。

(a) 全文の行数もしくはページ数を数え，これをおよそ5等分する。

(b) サイコロの定めた数の行またはページから，(a)で得た数によって5区間に切る。

(c) 各区間の最初から100語ずつを査定し，計500語をもって全文を代表する標本語群とする。

(7) 語彙比重点の学年基準

語彙比重点の学年的基準を定めるために，わたくしは現行教科書の文章をいちおうの標準として利用した。すなわち昭和36年度の教科書からつぎのように標本文を抽出した。

国語教科書　小・中学校各5種，高等学校3種（総合編），各学年6章ずつ，計324章。

社会科教科書　小・中学校各2種，各学年3章ずつ，計42章。

理科教科書　小・中学校各2種，各学年2章ずつ，計

34章。

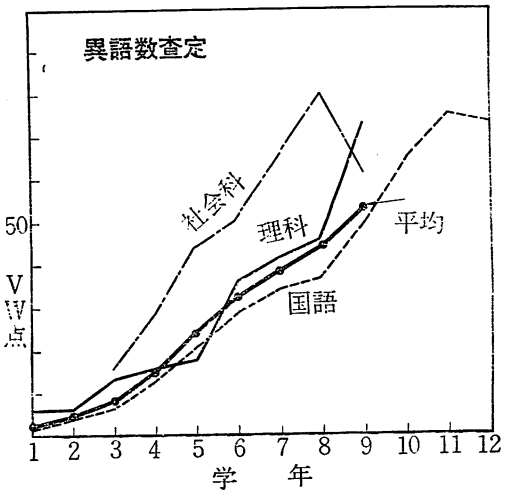
総計400章である。抽出には，各学年の中間（2学期）に扱われると思われるもので，なるべく異質の内容を持った500語を越える章を選ぶというようにした。

さてここに2種の査定法が考えられる。その1は異語数査定法で，同文中に使用されている同一語はそれが何度くり返して使用されていても1語と数える方法。その2は延べ語数査定法で，同一語でも使用される度にそれを1語ずつに計上する方法である。両者の信頼度を比較するために，わたくしは両者を並行して実施した。

その結果は第1表のようであった。

まず異語数査定法による結果は，全体において小学校1年から高校2年までほぼ一直線的に上昇している（第1図）。（高3が上昇していないのは抽出標本の特性によるもので，その考察は省く。）隣接学年間の語彙比重点の差は，1年から6年まではいずれも1％の危険率で有意である。6年と7年，7年と8年との間には有意差がないが，6年と8年との間にはやはり1％レベルの有意

第1図



第1表　現行教科書の語彙比重の学年別平均とSD

学年		小学校 1	2	3	4	5	6	中学校 7	8	9	高等学校 10	11	12
異語数査定	国語	1.5 (1.9)	3.5 (3.3)	5.6 (3.9)	12.1 (6.2)	20.5 (8.7)	28.4 (12.7)	33.1 (12.4)	36.7 (11.4)	49.1 (13.3)	64.5 (20.2)	75.0 (17.0)	72.3 (25.7)
	社会			15.0 (4.7)	28.7 (7.7)	44.3 (6.5)	50.9 (8.7)	65.8 (15.9)	80.2 (8.3)	61.4 (14.8)			
	理科	7.6 (1.6)	6.9 (1.5)	13.1 (3.8)	16.1 (2.2)	18.8 (2.7)	35.3 (4.4)	41.7 (9.6)	46.1 (11.5)	73.0 (20.7)			
	全体	1.9 (2.4)	3.9 (3.3)	7.7 (5.6)	15.0 (8.4)	23.9 (10.7)	32.5 (13.9)	38.9 (17.2)	44.1 (18.9)	53.4 (17.2)	64.5 (20.2)	75.0 (17.0)	72.3 (25.7)
		**	**	**	**	**		**	*	*	**		
延べ語数査定	国語	1.2 (1.8)	3.6 (4.0)	5.8 (4.5)	10.8 (6.0)	18.2 (8.8)	24.3 (11.3)	25.5 (12.4)	26.7 (8.0)	36.4 (11.4)	47.7 (20.0)	58.3 (16.1)	57.4 (24.2)
	社会			11.4 (3.3)	26.8 (7.1)	38.5 (6.6)	44.8 (6.5)	61.6 (14.4)	74.5 (7.1)	60.0 (13.2)			
	理科	6.0 (0.4)	4.6 (1.7)	10.1 (2.2)	16.6 (7.0)	18.8 (6.2)	35.3 (8.9)	37.9 (10.2)	36.3 (13.2)	63.1 (13.4)			
	全体	1.5 (2.1)	3.7 (3.8)	7.1 (4.7)	13.8 (8.5)	21.3 (11.0)	28.5 (12.9)	32.1 (18.0)	34.9 (18.9)	42.6 (16.1)	47.7 (20.0)	58.3 (16.1)	57.4 (24.2)
		**	**	**	**	**		**			**		

注．*…5％，**…1％の有意差。――…コクランコックス法による。

差がある。さらに8年と9年，9年と10年との差は5％に下るが有意で，高校の学年の間には有意差がない。ただし9年と11年との差は1％レベルで有意である。

かくて小学校では，学年間の差はほとんど完全に信頼できるが，中学年ではすこし信頼度が落ち，高校あたりでは学年による語彙比重点の差はあまり有意義ではないと言える。

つぎに延べ語数査定法の結果は，第1表下段のようで，一般的傾向としては異語数査定法の場合と大差は見られない。ただし学年による上昇線の傾斜は，このほうがやや緩徐である。隣接学年間の差の信頼度は，小学校ではすべて1％の危険率で有意であることは前と同じであるが，6年から上になると有意差がなくなるけれども，2～3学年を隔てるとなお有意差があるから，平均点の上昇は認められてよい。

以上からつぎのことが言える。

a．低学年の文章はいずれも同程度の語彙比重をもって書かれているが，高学年になるにつれて難易の差の大きい文章が混っている。

b．査定法からいえば異語数法のほうが信頼できる。ただし異語数法は査定の途中で同一語を重ね合わせる操作が必要なので，実用的にはややめんどうである。

c．延べ語数法はその点で比較的簡便であるし，小学校程度ではじゅうぶん信頼できる。

第2表　教科書の語彙平均使用率とSD

学年	小学校						中学校			高等学校		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
国語	1.8 (0.8)	1.7 (0.2)	1.8 (0.2)	1.8 (0.3)	1.7 (0.3)	1.8 (0.3)	2.0 (0.3)	2.0 (0.4)	1.9 (0.3)	2.1 (0.4)	1.9 (0.4)	2.1 (0.7)
社会			2.1 (0.3)	1.9 (0.1)	2.1 (0.2)	1.8 (0.3)	1.7 (0.1)	1.6 (0.1)	2.0 (0.2)			
理科	1.8 (0.2)	1.9 (0.0)	2.3 (0.1)	3.2 (0.5)	2.7 (0.2)	2.7 (0.3)	2.3 (0.2)	2.3 (0.2)	2.0 (0.2)			
全体	1.8 (0.8)	1.7 (0.2)	1.9 (0.3)	1.9 (0.5)	1.9 (0.4)	1.9 (0.4)	2.0 (0.3)	2.0 (0.4)	1.9 (0.3)	2.1 (0.4)	1.9 (0.4)	2.1 (0.7)

(8)　語彙平均使用率

語彙平均使用率（VFm）とは，延べ語数を異語数で除した商であって，その文章中の各語が平均何回使用されているかを表わす。外国では，この値が高い文章ほど同一語がくり返し使用されてあるから，その文章は readable であるとして，readability の index として提唱しているものもある。

ところで，わが国の教科書についてこれを算出してみると，第2表のようになる。

このように小学校教科書は平均1.9，中高校では平均2.0の程度でいずれも1語が平均2回程度用いられていることになり，学年による差はない。ただ理科教科書は比較的高い傾向が認められるが，これをもってただちに readability の index とするのはむりだと思われる。

(9)　語彙比重点の学年別標準

さてわたくしは現行教科書の語彙比重の体系をいちおうの標準と見なして，与えられた文章の学年的適応を査定することを考えた。すなわち第1表によって，標準尺度を作れば第3表のようになる。いずれも1SDの間隔で，非常にやさしい (Very Easy)，やさしい (Easy) 適当 (Suitable)，むずかしい (Difficult)，非常にむずかしい (Very Difficult) の5段階に切ったのである。なおこの限界以外にはみ出すものは，極端にやさしい (Very Very Easy) もしくは，極端にむずかしい (Very Very Difficult) と評価される。高校段階は標本数が少かったので尺度化しなかった。

第3表(A)　学年別語彙比重尺度（異語数法）

学年	VE	E	S	D	VD
1		0～ 0.4	0.5～ 3.3	3.4～ 6.2	6.3～ 9.1
2		0～ 2.2	2.3～ 5.5	5.6～ 8.8	8.9～12.1
3		0～ 4.8	4.9～10.5	10.6～16.1	16.2～21.7
4	0～ 2.3	0～10.7	10.8～19.2	19.3～27.6	27.7～35.0

5	0～ 7.8	7.9～18.5	18.6～29.2	29.3～39.9	40.0～50.6
6	0～11.6	11.7～25.5	25.6～39.4	39.5～53.3	53.4～67.2
7	0～13.0	13.1～30.2	30.3～47.5	47.6～64.7	64.8～81.9
8	0～15.5	15.6～34.4	34.5～53.5	53.6～72.4	72.5～91.3
9	10.4～27.5	27.6～44.7	44.8～62.0	62.1～79.2	79.3～96.4

第3表(B) 学年別語彙比重尺度（延べ語数法）

学年	VE	E	S	D	VD
1		0～ 0.2	0.3～ 2.7	2.8～ 5.1	5.2～ 7.5
2		0～ 1.7	1.8～ 5.6	5.7～ 9.4	9.5～13.2
3		0～ 4.7	4.8～ 9.4	9.5～14.1	14.2～18.8
4	0～ 1.0	1.1～ 9.5	9.6～18.0	18.1～26.5	26.6～35.0
5	0～ 4.7	4.8～15.7	15.8～26.8	26.9～37.8	37.9～48.8
6	0～ 9.1	9.2～22.0	22.1～34.9	35.0～47.8	47.9～60.7
7	0～ 5.0	5.1～23.0	23.1～41.1	41.2～59.1	59.2～77.1
8	0～ 6.5	6.6～25.4	25.5～44.3	44.4～63.2	63.3～82.1
9	2.4～18.4	18.5～34.5	34.6～50.6	50.7～66.7	66.8～82.8

また相対的に検討する場合，これをつぎの公式で語彙比重偏差値に換算してもよい。

$$\text{語彙比重偏差値} = \frac{\text{その文章の比重点} - \text{学年平均点}}{\text{標準偏差}} \times 10 + 50$$

⑩ 語彙比重査定法の適用例

このようにして設定した語彙比重査定法を具体的な文章に当てはめてみよう。

〔例1〕村岡花子「白鳥の王子」

とおいとおい(A)ある(A)国に(A)，しあわせな(A)毎日を(A)おくっている(A)王さまと(A)，十一人の(A)王子さまと(A)たった(A)ひとりの(A)かわいらしい(A)王女さまが(A)いらっしゃいました(A)。……ところが(A)ある(A)とき(A)王さまは(A)あたらしい(A)おきさきさまを(B)おむかえに(A)なりました(A)。……

この文章は，延べ語数においてA段階語彙91.8%，B5.4%，C1.0%，E1.8%で書かれているので，VW＝5.4＋1.0×2＋1.8×3＝12.8 となる。そこで第3表(B)によって，Sの欄で，12.8の値を求めると，4年の9.6～18.0の中にはいるから，この作品は小学校4年生に適当な語彙をもって書かれていると査定される。

もし3年生に与えるとすればDの段階にはいり「むずかしい」と査定され，2年生に与えるとすればVDの段階にはいり「非常にむずかしい」と査定され，1年生には「極端にむずかしい」ということになる。

5年生以上にとっては，5～8年にとっては「やさしい」9年生にとっては「非常にやさしい」語彙で書かれていることになる。

語彙比重偏差値で表わせば，3年生にとって68，4年生にとって51，5年生にとって42となる。

〔例2〕芥川竜之介「杜子春」

……何しろ(B)そのころ(A)洛陽と(D)いえば(A)，天下に(B)並ぶ(A)ものの(A)ない(A)繁昌を(B)極めた(B)都ですから(A)，往来には(B)まだ(A)しっきりなく(A)人や(A)車が(A)通ってました(A)。……老人の(A)かぶった(A)紗の(E)帽子や(A)，トルコの(D)女の(A)金の(A)耳環や(A)……

この文章は，A段階83.7%，B9.8%，C3.4%，E3.1%となって，前例よりも高比重の語の比率が多くなっている。VW＝9.8＋3.4×2＋3.1×3＝25.9 となる。すなわちこの値は5年生，6年生，7年生，および8年生のSの段階にふくまれている。よってこの作品は小学校5年生から中学2年生までにわたる学年の間に適当な語彙比重で書かれていると査定される。

4年生にとっては「むずかしく」，3年生にとっては「極端にむずかしい」。また中学3年生にとっては「やさしい」と査定される。

適当と査定される学年の間にも，偏差値で表わすと，つぎのような差が見られる。

5年生に54　　6年生に48

7年生に47　　8年生に45

〔例3〕亀井勝一郎「太宰治覚書」

日本の(D)文学者に(B)宿命のように(C)つきまとっているのは(B)家の(A)重圧である(C)。没落してゆく(C)旧家の(C)最後の(A)人(A)，あるいは(B)旧家の(C)伝統に(C)抵抗してゆく(C)人(A)，あらわれ方は(A)様々だが(A)，家との(A)対決は(C)明治(D)以来の(B)作家の(B)重要な(B)課題であった(C)。……

この文章では，A段階45%，B32.6%，C19.7%，E

2.6%の構成になっているから，語彙比重は 32.6+19.7×2+2.6×3=79.8 となる。79.8 は中学3年までの「適当」の欄にはふくまれない。ただし8年生と9年生のVD段階にははいるので，中学2～3年生にとっては「非常にむずかしい」1年生にとっては「極端にむずかしい」語彙比重と査定される。高等学校の評定尺度は作られていないのだが，第1表から推測すると高校3年でも「むずかしい」と査定される程度と思われる。語彙比重偏差値は，8年生で74，9年生で73である。

〔例4〕現行教科書

この研究の基準の標本に抽出した国語教科書の各章を語彙比重尺度（A表）で査定すると第4表のような分布になる。

第4表　国語教科書の語彙比重段階（数字は章数）

学　年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	%
VVE											
VE					2	2			2	6	2
E	13	12	14	14	11	13	16	14	8	115	43
S	12	14	14	12	11	8	8	13	14	106	39
D	4	1	1	3	6	7	6	3	6	37	14
VD	1	2	1	1						5	2
VVD		1								1	
計	30	30	30	30	30	30	30	30	30	270	100

すなわち他の教科書にくらべて一般に「やさしい」語彙構成の章が多く，「むずかしい」ものもわずかではあるが混っているようである。

理科教科書は，標本章数がすくないが，第5表のようで，第1図で見たように，国語教科書よりはややむずかしくなっている。それも低学年では比較的むずかしい文章が多いが，学年が上になると，適当な程度に集中する傾向があるようである。

第5表　理科教科書の語彙比重段階

学　年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	%
VVE											
VE											
E								1	1	2	6
S			1	3	4	4	2	2		16	47
D	1	3	2	1			2	1	2	12	35
VD	1	1	1							3	9
VVD									1	1	3
計	2	4	4	4	4	4	4	4	4	34	100

第6表　社会科教科書の語彙比重段階

学　年	3	4	5	6	7	8	9	計	%
VVE									
VE									
E							1	1	2
S	1	1		1	1		3	7	17
D	3	2	2	2	2	2	1	14	33
VD	1	1	3	3	2	3	1	14	33
VVD	1	2	1		1	1		6	15
計	6	6	6	6	6	6	6	42	100

これにくらべると，社会科の教科書の文章は一般に語彙比重が重い。各学年に適当なものは2割足らずで，他はみなむずかしい語彙が用いられている。（第6表）

(11)　語彙比重構成の標準

以上によって児童を対象とする文章の語彙比重のおよその標準が決められたのであるが，では文章を書く者がおよそこの標準に合うように語彙の選択に注意するとすれば，どの段階の語をどの程度に用いればよいかを分析してみよう。第7表は，この研究に用いた資料の段階別語彙数の平均である。したがって大体この比率によって語彙を選んでいけば，各学年に適当な語彙比重構成の文が形成されるわけである。

この表を見るに，A段階の語彙は学年が進むにつれて比率が低下するが，9学年においてもなお約63%はこれを使用せざるを得ないものであることが知られる。さきに引用した亀井勝一郎の評論文では45%となっているから，この段階の語彙は，もっと高次の文章ではもっと減少することが察せられる。

これに反して，B，C，およびEの段階の語彙は，それぞれ学年とともに増加していくが，低学年においてもCやEを全く欠くことはできないようである。この資料

第7表　学年別語彙比重構成の標準

学年	A段階	B段階	C段階	E段階	VW点
1	93.8	1.1	0.1	0.2	1.9
2	97.9	2.8	0.1	0.3	3.9
3	94.3	6.2	0.3	0.3	7.7
4	87.6	10.6	1.0	0.8	15.0
5	79.6	15.3	2.2	1.4	23.9
6	74.5	18.4	3.9	2.1	32.5
7	71.6	20.3	5.1	2.8	38.9
8	68.1	22.5	6.6	2.8	44.1
9	62.8	24.7	8.8	3.7	53.4

中，A段階だけで書かれた文章は，1年に13章，年に3章（各34章中）あっただけである。

A段階は小学校3年までに習得させるべきだと思われる語彙であるから，小学3年までを対象する文章ではA段階の語彙を97%前後使用することが望ましい。同様に小学4～6年を対象とする文章では，AおよびB段階の語彙を95%前後に，そして中学生を対象とする文章ではABC3段階の語彙を97%前後に，使用することが望ましいことになる。要するにこの3段階の基本語彙表に対照して，読者対象の該当する段階の語彙よりもむずかしい語は3%から5%程度を混入するのに止どめることが望ましいのである。

（注）(1) 阪本一郎　教育基本語彙　牧書店　1958

こどもの生活環境と読書*

東販出版科学研究所
河　北　憲　夫**

はじめに

当研究所では35年6月に東京都の，小・中・高校生徒とその家庭を対象として読書世論調査を行いました。今日はその調査結果の中から，小学生の読書に色々な意味で影響を与えている生活環境を取り上げて，それと読書との関係をお話ししてみたいと思います。最初にちょっと調査の概要に触れておきましょう。調査サンプルの抽出は次の通りです。まず全国学校名鑑によって都内及び都下の小学校60校を無作意に抽出，そして3年生以下の各学年から1クラスを選び，そのクラス名簿から生徒10名を等間隔で抽きました。

サンプル総数4,200人，回答率は80.9%でした。回答を得たサンプルの内訳は性別では男1,681人，女1,668人，学年別では3年生443人，4年生482人，5年生462人，6年生466人です。

1．問　題

この報告で問題となるのは子供の生活環境と読書との関係であります。ところでこどもの生活環境といえば，その最も根本的なものは父兄の職業でありましょう。父兄の職業は経済的或は文化的な条件でこどもの生活環境に大きな制約を与えます。然しここでは職業を直接取り上げないで，職業と云うものから派生している若干の具体的な生活環境を対象として考えてみたいと思います。

さて，その具体的な生活環境ですが，私たちの調査で取り上げたのは次のようなものです。

1．こどもの読書に対する父兄の関心
2．課外の補習を受けているか，いないか
3．こどものこづかいの額
4．家庭の書籍，雑誌に対する1カ月の購入額
5．家庭の蔵書冊数
6．こどもの貸本屋に対する利用度
7．テレビのある，なし
8．こどもの本箱があるか，ないか

こどもの生活環境は以上の8つですが，これらの，云わば読書に多かれ少なかれ影響を与える条件によって，こどもの読書時間がどのように変化しているかと云うことを，個々の条件別に述べてみましょう。

2．こどもの読書に対する父兄の関心度合と読書時間

こどもの読書に対する父兄の関心度合を見る尺度として次のような区分を設けました。

A ○特に良い本や雑誌を選んで買う
　○こどもの意見をできるだけ聞いて，特に悪いと思ったもの以外は自由に買わせる
B ○全く自由に買わせている
C ○学校の教科書だけで十分なので殆んど買わない
　○学習のための参考書だけは買う

A，B，Cこれらと云う父兄の関心度合別にこどもの1日平均の読書時間を見ると次のような結果でした。なお調査では読書時間の段階を「全く読書しない」「30分以下」「30分～1時間」「1時間～1時間30分」「1時間30

* Children's Environment and their Reading.
** Norio Kawakita (Institute for the Study of Publication, Tohan).

分～2時間」「2時間以上」の6段階にしましたが，ここでは「全く読書しない」こどもと「1時間以上」読書するこどもに分けて見ることにしました。

「全く読書しない」こども

Aの家庭のこどもでは「全く読書しない」こどもが全体の4％，Bのこどもは5％あったのに対して，Cのこどもでは12％に及んでいます。

読書時間「1時間以上」のこども

Aのこどもでは1日「1時間以上」読書するこどもが全体の28％，Bの場合は26％，Cでは21％でした。

このように，こどもの読書に対する父兄の関心が，一番強いと考えられるAの家庭のこどもには，読書意欲のないこどもが少ないと同時に，比較的読書時間の長いこどもが多い結果となっています。これに対して教科書だけしか買わないか，せいぜい買って参考書と云うCの家庭のこどもには「読書しない」こどもが多く，「1時間以上読書する」こどもが，A，B，Cの中で一番少なくなっています。やはりこどもの読書に対する父兄の関心度合が，こどもの読書時間に或る程度の影響を及ぼしていることが示されていると思います。

3．課外の補習の状況と読書時間との関係

補習の内容は「勉強」「絵」「習字」「そろばん」「音楽」「おどり」「そのほか」と云うように分けて調べましたがここでは大きく「補習を受けている」こどもと「受けていない」こどもに分けました。

「読書しない」こども

「補習を受けている」こどもでは「読書をしない」こどもが全体の5％，これに対して「補習を受けていない」こどもでは8％でした。

読書時間「1時間以上」のこども

「補習を受けている」こどもは「1時間以上」読書するこどもが全体の28％ですが，「補習を受けていない」こどもでは25％でした。

従って補習を受けているか，いないかは読書時間にそれ程大きな差を現わしてはおりません。然し，もし補習がこどもの生活感覚を活発にするものとすれば，上に示された比率の差は或る程度，意味を持ってくると考えられます。

4．こづかいの額と読書時間

こづかいの金額段階を次のように区分しました。「もらっていない」「300円以下」「301円～499円」及び「500円以上」

「読書をしない」こども

「もらっていない」こどもでは全体の		8％
「300円以下」の	〃	5％
「301円～499円」の	〃	5％
「500円以上」の	〃	7％

「もらっていない」こどもの8％が僅かに目立っていますが，大きな差のないことは事実です。

「1時間以上読書する」こども

「もらっていない」こどもでは全体の		29％
「300円以下」の	〃	24％
「301円～499円」の	〃	27％
「500円以上」の	〃	28％

以上のような結果で，この場合もそれ程はっきりした差は見られません。唯，こづかいを「もらっていない」こどもには，もし本や雑誌が欲しいときは随時買ってもらえるケースが多いのではないでしょうか。そのようなことから読書との接触率が高くなると云うことも考えられる訳です。又，こづかいが「300円以下」では，他の支出もあって本や雑誌までは手が廻らない，然し，金額が上ればその面の余裕もできてくる，この関係が「300円以下」の24％から「500円以上」の28％に至る上昇として現わされているとも考えられます。然し，全体として，こづかいの額と読書時間との間に一概に強い相関を考えることは上に述べたような点を除いて無理だと思います

5．家庭の書籍，雑誌購入額と読書時間

家庭で1カ月に購入する金額を「200円以下」「201円～500円」「500円以上」の三つの段階に分けました。

「読書をしない」こども

1カ月に200円に満たない額しか，本や雑誌を買わない家庭のこどもでは「読書しない」こどもが全体の7％，「201円～500円」の家庭のこどもは6％，「500円以上」になると4％と云う状況です。大した差ではありませんが，本や雑誌の購入額の多い家庭のこども程「読書しない」こどもが少ない傾向にあります。

「1時間以上の読書する」こども

「200円以下」の家庭のこどもでは「1時間以上読書する」こどもが全体の21％，「201円～500円」27％，更に「500円以上」になると33％と飛躍的に多くなっています。

家庭の出版物購入額と云うものは，やはりその家庭の読書に対する雰囲気が高いか，低いかを示す一つの尺度であって，こどもたちはその雰囲気をかなりはっきりとその読書時間の上に現わしていると云ってよいでしょう。

6．家庭の蔵書冊数と読書時間

本や雑誌の1カ月平均購入額を動的な読書的雰囲気とすれば，蔵書冊数の状況は静的な読書的雰囲気と云えましょう。

蔵書の段階を「蔵書がない」「10冊以下」「11～20冊」「21冊～40冊」「41冊以上」の5段階としました。

「読書しない」こども

「蔵書のない」家庭のこどもでは「読書しない」こどもが全体の20％，「10冊以下」の家庭のこどもは10％，「11冊～20冊」及び「21冊～40冊」の場合は共に6％，「40冊以上」では4％で，蔵書冊数が多い程，「読書しない」こどもは減っています。殊に蔵書のないこどもの$\frac{1}{5}$が「読書しない」こどもであることは，蔵書と読書との関係を端的に示していると思います。

7．貸本屋の利用度と読書時間

こどもがどのように貸本屋を利用しているかを，「よく利用している」「時々利用している」「利用していない」の3つに分けました。なお，この項目だけは読書時間の段階を「30分以下」と「1時間以上」にしましたのでご諒承下さい。

読書時間「30分以下」のこども

貸本屋を「よく利用している」こどもでは，読書時間が30分以下と云う読書との接触の比較的少ないこどもが全体の22％，「時々利用している」こどもで25％，「利用していない」こどもでは26％で，貸本屋の利用度の低いこどもになる程，読書と疎縁なこどもが多いようです。

「1時間以上読書する」こども

貸本屋を「よく利用している」こどもは読書時間「1時間以上」と云うこどもが全体の29％，「時々利用している」こどもで27％，「利用していない」こどもでは26％でした。このように貸本屋の利用は，こどもの読書に対する接触を多くする傾向を持っています。

8．テレビのある，なしと読書時間

家庭にテレビがあるか，ないかによってこどもの読書時間に変化があるか，と云うことです。

「読書をしない」こども

テレビのある家庭のこどもで「読書しない」こどもは6％弱，これに対してテレビのない家庭のこどもは6％強，両者の間には殆んど差がありません。

「1時間以上読書する」こども

テレビのある家庭のこどもで25％，反対にない家庭のこどもでは31％でした。明らかに，テレビのない家庭に，比較的よく読書するこどもが多いようです。唯，テレビと読書の関係は，テレビがあるか，ないかだけではなくテレビを設置してからの期間なども関係要素として見逃せないものであり，従って単にテレビがあるということによって，そのこどもの読書時間が，短かくなるとは云い切れないと思います。

9．本箱のある，なしと読書時間

本箱は読書的調度品です。その意味で本箱と読書との関係を調べました。基準を「自分の本箱がある」「大人と一緒に使っている」及び「ない」に分けました。

「読書しない」こども

「自分の本箱がある」こども，「大人と一緒に使っている」こども共に「読書をしない」こどもが全体の6％ですが，家に本箱が「ない」こどもは11％でした。

「1時間以上読書する」こども

「自分の本箱がある」こどもでは「1時間以上読書する」こどもが全体の27％，「大人と一緒に使っている」こどもでは同様に27％ですが，本箱の「ない」こどもでは21％でした。このように，自分の本箱，大人と共有の本箱と云うのではなく，ともかく家に本箱があると云うことは，蔵書との関係もあって，そのこどもの読書を進める点で，或る程度の効果を持っていることが分ります。

む す び

こどもの時代は色々な嗜好が開き，慣習が形づくられて行く時代です。それだけに，こどもの身辺をとりまく有形，無形の環境要素は，個別に，或いは綜合されて影響を与えます。読書の嗜好や読書の慣習も同様であって，例えば，先に述べたような諸条件が，具体的にこどもの読書時間数として現われています。然し，だからと云ってそれらの諸条件がこどもの読書を伸ばすために必要であるとは云えません。以上の結果は，こどもの生活環境とその読書時間との綜合的な関係であって，そのような傾向があると云う一つのデーターです。むしろ必要なものは，こどもの読書が色々な生活環境から影響を受けると云うことに対する認識であり，その認識の上に立って読書に対する指導がなされることであると思います。

青少年の読書生活の実態調査*

——公共図書館における——

文部省図書館職員養成所
北　島　武　彦**

Ⅰ．調査目的

この「公共図書館における青少年の読書生活の実態調査」は，読書科学総合研究第3分科会が昭和34年度に実施した「青少年の読書生活の実態調査」の一環としておこなわれたものでありとくに公共図書館の窓からみた青少年の読書生活を

1．公共図書館利用
2．読書
3．新聞，ラジオ，テレビ等マス・メディアに対する接触度

の諸相において断面的にとらえようとしたものである。またこの調査は昭和35年度以降引続いておこなわれる勤労青少年の読書生活の実態調査の予備調査としての意味も含めておこなわれた。

Ⅱ．調査日時

昭和35年3月4日（金），5日（土），6日（日）の3日間にわたっておこなわれた。すなわち平日，土曜日，日曜日の各1日をとり，曜日のちがいによる図書館利用の差をも調査しようとした。

Ⅲ．調査対象

都内には現在公共図書館が約45館あるが，その中から

東京都立日比谷図書館（都心部の大公共図書館）
中野区立図書館（山手住宅地区の中公共図書館）
江東区立深川図書館（下町商工業地区の中公共図書館）
北区立王子図書館（同上）

の4館を選び，調査日当日入館した青少年のうち，中学2年，小学5，6年の各学年に属する児童，生徒426名を調査対象とした。

調査図書館として上の4館を選んだ理由は，都内においてそれぞれ地域社会として性格の異なる4地域において規模の異なる図書館を選び，地域差による図書館利用，読書生活，マス・コミ接触度の差をみると共に，昭和33年に実施した日比谷，中野，深川3館における成人利用者の公共図書館利用者調査の結果（「図書館学会年報」6巻2号　昭和34年10月参照）と比較，対照しようとしたものである。

また調査対象として中学2年，小学5，6年の3学年を選んだ理由は，第3分科会の他の調査グループが都内北区，および埼玉県秩父の小・中学校においておこなった調査対象である中学2年，小学5年の読書生活の実態と比較，対照に便ならしめると共に，とくに中学受験といういわば不安定な時期にある小学6年生の読書生活および図書館利用，マス・コミ接触度の特長をあきらかにしようとしたものである。

Ⅳ．調査方法

調査日当日つぎの区分により各図書館受付において，調査対象に調査票を手交し，各自記入の上，退館時に受付で回収した。

3月4日（金）　日比谷，深川……午後

---

* The Present Reading Activities of the Youth in the Public Libraries.

** Takehiko Kitazima (monbusho)

中野，王子……午前，午後

3月5日（土）　日比谷，深川……午後

中野，王子……午前，午後

3月6日（日）　各館とも午前，午後

この結果回収率は100％であるが，非該当サンプルが混入した結果，有効サンプルは415名（97.4％）で次表のとおりである。

館名＼サンプル	サンプル総数	有効サンプル	非該当サンプル	有効サンプルの比
日比谷	198	196	2	99.0
中　野	22	19	3	86.4
深　川	174	170	4	97.7
王　子	32	30	2	93.8
計	426	415	11	97.4

Ⅴ　調査項目

フェイス・シートのほか総計14項目から成るが，大きくつぎの5グループに集約することができる。

1．図書館利用について　　問1，4～5　　計3項目

2．読書について　　問2, 3, 10, 11, 13　計5項目

3．新聞接触について　　問6，7，8，9　計4項目

4．新聞以外のマス・コミ接触について

問12, 14　計2項目

5．サンプルの属性について　　性，学年，居住地

計3項目

なおこの調査の企画，実施は第3分科会に属する主としてつぎの人々がこれに当った。

平沢　薫（東京教育大学教授，第3分科会主任）

伊東正勝（文部省図書館職員養成所長）

服部金太郎（同　教官）

北島武彦　（同　教官）

Ⅵ．調査結果の概要

1．図書館利用者について

調査日3日間に入館した中学2年，小学5，6年の総数は415名で，その内訳はつぎのとおりである。

館名＼学年	小学5年男	小学5年女	小学6年男	小学6年女	中学2年男	中学2年女	計
日比谷	38	23	86	36	4	9	196 (47.2)
中　野	—	—	—	1	9	9	19 (4.6)
深　川	38	6	41	13	24	48	170 (41.0)
王　子	—	2	—	—	9	19	30 (7.2)
計	76 (18.3)	31 (7.5)	127 (30.6)	50 (12.0)	46 (11.1)	85 (20.5)	415 (100.0)

すなわち，館別にみると日比谷図書館がもっとも多く（47.2％），以下深川（41.0％），王子（7.2％），中野（4.6％）の順になっている。

日比谷，深川図書館ともに都内公共図書館の中では図書館活動が活発であり，とくに児童，青少年サービスにおいて資料，職員，施設ともに充実した図書館であることを考える時，このように日比谷，深川の両館に利用者が多いことは当然であるが，中野，深川では受験期シーズンのため，小・中学生の入館をかなり制限したことを考慮に入れなければならない。

また利用者を学年別にみると小学6年がもっとも多く（42.6％），以下中学2年（31.6％），小学5年（25.8％）の順となって居り，受験期にある小学6年が予想に反して意外に多い。これを「図書館の利用目的」（問4）で「受験勉強のため」と答えたものが，6年生には皆無であることと考え合す時，受験勉強の影響をうけず，かなり余裕ある態度で公共図書館を利用していることがわかる。

つぎに利用者を性別にみると男（60.5％），女（39.5％）で，大体6：4の割合となっており，成人の公共図書館利用者にみるような著しい男女差はない。（たとえば一昨年7月，日比谷，中野，深川3館の成人利用者の男女比をみると，大体 8.5：1.5 となっている）

さらにこれら利用者を居住地区別にみると，中野，深川，王子の3館がそれぞれの区，すなわち中野，江東，北区の居住者が圧倒的に多いのに対し，日比谷では都内各区に分散しており，遠くは北多摩郡，鎌倉市からの利用者もみられ，都立図書館と区立図書館とのちがい，大

公共図書館と中・小公共図書館との差をみることができる。すなわち日比谷に比べて中野，深川，王子3館のほうが，より地域社会との結びつきが強いということができる。

2．公共図書館の利用について

各館を通じて43.4%の児童，生徒が「週1回の利用者」であり，ついで「たいてい毎日くる」が21.4%となっており，両者合わせると全体の65%までが「週1回」以上利用する，いわゆる常連利用者であり，図書館利用という行為がきわめて固定的，習慣的なものであることがわかる。

つぎに図書館の利用目的をみると，

勉強以外の読書	23.1%
勉強とそれ以外の読書	21.9%
自分で調べるため	17.6%

の順に多く，学校の勉強以外の目的で利用する場合が多くなっており，学校図書館とはちがった目的で利用している。この辺に子どもなりに公共図書館と学校図書館をはっきり使いわけていることがうかがえる。

図書館で図書や雑誌を借りたか否かについては

借りた	43.1%
借りない	56.1%

で「借りない」ほうが多く，とくに中学2年にもっとも多いことは注目すべきであり，公共図書館ではいわゆる場所だけを利用する不閲者に学生，生徒が多いことが問題となることが多いが，上のデーターはこのことをある程度裏書しているといえよう。

図書館で借りた資料の種類をみると

小説	37.2%
歴史・伝記・地誌	22.2%
理科	10.8%
文学	6.4%
社会科	6.0%
工業	6.0%
雑誌	5.2%
美術	3.2%
まんが	3.2%
総記	2.0%
産業	1.2%
語学	0.4%

の順になっており，やはり小説がもっとも多いことと，小学校高学年以上のためか「まんが」が案外すくないことが目立つ。

3．読書について

さいきん1カ月間の読書量についてみると

1冊読んだ	23.1%	計 70.8%
2冊読んだ	47.7%	
読まない	28.2%	

となっており，読書率はかなり高い。とくに学年別では小学6年がもっとも多く読み，女子よりは男子のほうがよく読んでいる。

読み通した本の種類をみると

小説	52.4%
歴史・伝記・地誌	16.4%
雑誌	11.1%
理科	8.3%
工業	4.0%
社会科	3.3%
文学	1.2%
総記	0.7%
産業	0.7%
美術	0.7%
まんが	0.7%
思想	0.2%

の順で，やはり小説が圧倒的に多く，だいたい図書館で借り出された図書の種類の順位とほぼ同様な傾向を示しており，児童，生徒たちの読書の関心がどこにあるかを知ることができる。

つぎに読む本の選択契機をみると

自分で手にして	30.0%
人にすすめられて	22.4%
同級生	6.9%

父 母	3.7%
先 生	3.5%
兄 弟	3.3%
その他	1.7%
上級生	1.3%
本屋の人	1.1%
図書係	0.9%
他の本で知って	8.5%
友人が読んでいるので	7.7%

の順となっており「自ら選ぶ」という自主的態度のものがもっとも多いのは，小学校高学年以上のものが対象となっている点からうなずけることであるが，また同級生肉親，先生などの影響力が強いことも見逃すことができない。

つぎに読書の場所としての学校図書館，自宅，公共図書館の3つを考えた場合

公共図書館	50.1%
自 宅	39.8%
学校図書館	6.3%

の順にあげており，半数のものが公共図書館を読書に好適な場所としてあげ，学校図書館をあげているものがすくないことは，たとえこの調査が公共図書館における調査とはいえ，注目すべきことであろう。

好適な理由としてもっとも多くあげられている理由は

おちついて本がよめる	47.0%
よみたい本が沢山ある	27.0%

であるが，おちついて本を読める点では多くのものが自宅を，よみたい本が沢山ある点では公共図書館をあげており，とくに女子には自宅をあげているものが多く，男子には図書館をあげているものが多い。

毎月，月極めで図書や雑誌を購入しているものは，全体の38.6%であり，とくに日比谷，深川では小学5年が多い。（中野，王子はサンプル数がすくないので断定できない）

これら購入されている図書，雑誌の種類をみると

雑誌	84.1%
工作	5.6%
小説	4.1%
文学	3.1%
まんが	1.5%
歴史・伝記・地誌	1.0%
総記	0.5%

の順で，圧倒的に雑誌が多く，図書館から借りた本，さいきん1カ月間に読み通した本とかなり異なった傾向を示しており，月極めで購入するのはせいぜい雑誌程度にとどまっていることがわかる。なお購入雑誌の中では

少年
少女
小学6年生
少女クラブ

が目立っている。

4．マス・メデイアへの接触度について

新聞への接触率は

いつもみる	44.1%	計 85.5%
時々みる	41.4%	

となっており，かなり高率であり，とくに日比谷，深川では小学6年の男子がもっとも接触率が高い。（中野，王子はサンプル数がすくないので，断定できない）

新聞でおもに注目されている欄は

スポーツ	11.9%
ラジオ・テレビ	11.3%
まんが	9.5%
社会記事	8.1%
科学記事	6.9%

となっており，スポーツ，ラジオ・テレビ，まんがなどいわゆるマス・コミ関係のものが目立つ一方，社会記事科学記事などが案外読まれているのは注目してよい。

新聞のラジオ・テレビ欄の注目率は上述のように11.3%であるが，これを頻度別にみると

いつもみる	59.0%	計 87.2%
時々みる	28.2%	

で，かなり頻度が高い。

また，このようなラジオ・テレビ欄への注目率と聴取番組決定との関係をみると

いつも番組をみてきめる　47.2%
時々番組をみてきめる　37.8%　計 85.0%

となっており，大部分の子どもが新聞のラジオ・テレビ欄をみて，ラジオ・テレビの聴取番組をきめていることがわかり，新聞の影響力の大きいことがうかがえる。

つぎにラジオ・テレビ，映画，図書，まんがなどの各種メディアを通じて放送，上映または発表されたつぎの7つの子どもたちの人気番組

スーパー・マン
赤胴鈴之助
月光仮面
幻　探偵
探偵ダンチャン
高丸・菊丸
少年探偵団

に対する視聴，読書の状況をみると

赤胴鈴之助	15.9%
月光仮面	15.6%
少年探偵団	15.5%
スーパー・マン	13.6%
高丸・菊丸	11.2%
幻　探偵	10.9%
探偵ダンチャン	9.5%

の順に好まれており，とくに

赤胴鈴之助	まんが
月光仮面	テレビ
少年探偵団	テレビ
スーパー・マン	テレビ

を通じて親しまれていることがわかる。

すなわち「赤胴鈴之助」がラジオその他のメディアより原作者武内つなよし氏のまんがが強い影響力，魅力性をもつほかは，何れもテレビによる影響の強いことがわかり，同一作品をラジオ・テレビ，映画，図書，まんがの5つのメディアで発表した場合，テレビがもっとも強力であることがわかる。(「高丸・菊丸」はテレビ放送されていない)。なお調査対象となった児童，生徒の家庭におけるラジオ，テレビ受信機普及率をみると

ラジオ　あり	91.6%	(都内平均　73.3%)
テレビ　あり	57.3%	(都内平均　51.8%)

(括弧内の都内平均普及率は日本放送協会の昭和35年9月調査の結果による)

となっており，ラジオ，テレビともに都内平均普及率を上まわっている。

Ⅶ. 結　び

以上「公共図書館における青少年の読書生活の実態調査」の概要を記した。この調査は昭和35年度における第2次調査への予備調査的意味も含ませておこなわれたものであり，したがって結論はこの調査結果のより分析的研究と今後の調査にまたなければならないが，おおむねつぎのことがいえるであろう。

1. 公共図書館利用はきわめて習慣的行為である
2. 児童，生徒の場合は成人利用者ほど男女差がない
3. 読書の場所としての公共図書館，自宅，学校図書館の3者中では，公共図書館がもっとも好まれている
4. 日比谷図書館は他の区立図書館ほど地域社会との結びつきは強くなく，利用者の地域的分布が広範囲である。
5. 読書の種類としては小説がもっとも好まれているが家庭で月極めで購入するのは，せいぜい雑誌程度である家庭が圧倒的に多い。
6. 新聞ではとくにスポーツ，ラジオ，テレビ，まんが欄への注目率が高く，ラジオ，テレビ欄は聴取番組の決定契機として大きな影響力をもつ
7. 各種マス・メディアの中では，やはりテレビの影響力が強い

以上がこの調査の概要であるが，最後にこの調査に御協力いただいた日比谷，中野，深川，王子の4公共図書館に謝意を表したい。

農村における児童の読書生活と心理*

埼玉県川越市立山田小学校
楮　本　良　平**

1．農村の特異性

農村とはいえ，その内容的な相異は多様であるが，大きく区別すると，都市的農村と町村的農村に大別できるのではないだろうか。何れにせよ農村という環境を構成する要素は共通である。

都市的農村は，農地改革による変貌の後，首都整備計画に基く工場，住宅用地として農地が縮少された。農村の青少年は都市の第二次，第三次産業に従事する者が増加し以前でも，農繁期は人手不足に悩んでいた事から考えても，農家人口の再編成，農地の転換が考慮されなければならない時期になっている。町村的農村についても同じことが考えられるが，都市的農村と比較してその差は少ない。

現在まで部分的には農村の地域的環境を知る機会はあったが全体構造の中から究明したものが少なく，時には不干渉地帯として忘れられようとしている。

過重肉体労働と古い家族制度が断ち切れず，営々として，その生活に甘んじているのである。青少年の都市への移動によって労働人口は減少し，労働量は増加する傾向にあり，農家人口一人当りの平均日給は全国的にも120円という最低を示しており，その家庭経済も，同系列となっている。このような労働量の不足を補うための季節労務者は年々減少し，働ける者は全員が田畑に出なければならない。又，家庭の実権は，すべて最年長者にあるという。家族の年令的序列が甚しく，児童を持つ父母も，祖父母があれば，余程理解のない限り，子どもの家庭教育さえ自分たちの手ですることができないのが実状である。或る面から見れば極端な例と思われるが，それが，凡ゆる組織の流れの中にあるとしたなら，今後の児童の教育の上に大きな障害となるであろう。老人の考えのすべてを悪いとは考えないまでも，体験的思想だけで，現実を無視する前近代的な考え方，見方は転換されなければならない。

父母は過重労働に甘んじ，精神的にも不安定であり，安易な妥協に終始しているため児童は家庭環境の影響を強く受けながらも自主的解決の芽が成長するに従い，他の環境からの刺激によって自己の生活基盤を築き上げて行く。学校教育は，その大きなより所として期待されなければならない所以である。

2．父母の読書生活と読書観

児童の農村における読書生活の実態を知るためには，先ず父母の読書の実態を把握しなければならない。而し，農村における家庭の調査は他の地域と比較し，多くの障害がある。関心が少ないことと娯楽的な読書の域を出ている者が少ない。児童の学習と読書を区別しているように，別世界のもののような見方をしているのである。

家庭においてよく本を読んでいると思われるのは20%の家庭で，中でも児童の姉が40%強の読書率を示し，母・兄・父・弟・妹の順になっている。祖父母の読書率は2%程度である。蔵書数は父が平均18冊，母が平均6冊であり，雑誌がその大半であるので，この結果から見ても農村の親たちの読書時間の制約だけでなく，読書を自ら

* Children's Reading Activities in the Rural Area

** Ryohei.Kazumoto (Yamada Primary School, Saitama)

することを好まないことが明確である。

「よき指導者は，よき実践者でなければならない」ということから考えれば，父母にはその指導力が欠如していることにはならないだろうか。而し，これをカバーする役割を持つラジオ，テレビ，新聞等のマス・コミを通じての間接的，直接的な影響を無視する事はできない。このように社会的文化の発達が一面では，不可能と思われるものを可能にし，困難であったものを容易に導く働きをする。父母は子どもに対する愛情において地域性はない筈である。関心はあるが実行できないのが実状である。労働量，家庭経済，それにもまして農村の子どもの学習意欲の低いことであり，遊びに終日を送りたい子どもに，その上，読書をすすめたならば，学力の低下となるのではないかと自己の児童期を妄想しているのである。児童の読書についてさえ，このように冒険的に考え，只教師の言葉だけを頼りにしているので，親自身としては，何んの目的もなく楽しみに読むのが大多数で必然的な必要感にせまられて読むものは僅かな数である。

最近，工業の発展に伴う農村への進出により，それへの転入人口の増加に伴い，又農業から工場従業員に職業転換を図る傾向が強く現金収入の増加による家庭経済の安定が読書への関心度を高めようとしている。

漸進的ではあるが，固定化した読書生活が行えることこそ児童への反応は大きく，忘れられた農村の実質的な文化生活が期待できるわけである。

3．教師の読書生活と読書観

インテリと見られ，当然に読書人と推定される教師が本を読まないことは意外な事実である。教科書は読むが，それについての参考書すら暫時の利用にとどまり，それも少数の教師に過ぎないのはなぜだろうか。

戦後の新教育ブームが退潮した後，謂わば反動的とも思われるほど教師の読書熱は冷却して行った。

食欲がないことは，それ自体不健康の徴候である。教師も読書しようという意識を逃避するとき，その必要性すら忘却するものである。読書指導に対する障害はここにあるのではないだろうか。

読書家の資格は既に読み終わった書物の多寡ではなく，読書熱の旺盛さによって測られる。良書を読めば読むほど読書の楽しみを味わい読書の技術を体得し，読書への意欲が高まり，読む力，即ち消化力が強化されるのである。教師が教師らしくインテリであり読書人であるならば，書物に対する消化力が常に強化の一途をたどっていなくてはならない筈である。

特に児童全体に直接に接触し，読書指導を行う教師は，何よりも自らが書物に対する趣味を持ち，関心を抱き，自他の読書に関して敏感であるのが当然である。

このように考えると農村には，読書の指導者は，わずかの教師のみとなり，それを，マス・コミが助けているといっても誤まりではないだろう。

教師の中には既に他のマス・コミの媒体を利用すれば読書の指導の必要はないと考える者もあるが，マス・コミの媒体の各々が独特の機能を有しており，今後も読書の必要性は文化の発達と共に高まっていくのである。

社会が高度の成長をすれば，先進者の実績も多くなり，追経験しなければならないことも多くなり，学校教育の場における図書の利用も増加する。又読書指導も重視される。

教師は，学校教育だけでなく地域環境の改善ということから考えても，地域全体の人々が社会的，文化的な高度の成長を図るための実践的指導者であり，それに対する抱擁力を持っていなければならない。

4．児童の家庭における読書生活

児童の生活の大半を支配しているのは家庭であり，そこから受ける影響は多大である。生れながらの素質はあるにしても環境が悪循環をしていたなら，子どもの成長する芽を押さえてしまう結果にはならないだろうか。

家庭での生活は，母親を中心とした環境から直接的に体験するものが多く間接的経験への土台が築かれていく。話すことについても学校や社会における生活の中から話題を引き出し皆のものとして解決していくとき，思考活動を通して新しい発見を子どもは自主的にするであろう。又，日記を書くことから，思考力をのばし読書生

活がより高度なものに発展する場合さえあるのである。聞いたり見たりしたことを話すことによって，より確かなものへ導いて行くことが大切であるが，見聞したものが頭の中でよく整理され順序立てられて行く段階及びそれに肉付けをする知識の拡大の段階も重要視されなくてはならない。知識には広さ，厚さ，深さが必要である。この段階での児童の自発的研究の場は読書により可能となるであろう。

本を読むのは好きだと答える児童は九割以上であるが，その大半は雑誌であることは見逃がすことはできない。学校における読書指導が徹底していないからだといわれるかも知れないが，以前に述べた通り，教師の指導面の欠陥はあるにせよ，父母の読書意識の欠陥もその原因ではなかろうか。親は自分の子どもは余り本を読まないという。マンガだけは特に多く読むのだけどと。しかし児童は多く読んでいるという。最初の段階に既にずれが生じているわけである。児童の家庭における学習時間は，大体帰宅直後から一時間となっている。父母が野良で働く時間と一致し直接学習内容を見ていない結果かも知れないし，放課後教室で見る（読む）場合があるので，親と子の間に相異が生ずるのである。

家庭は児童の読書動機を与えていないのが現状であり，改善すべき点が多い。

5．児童の学校における読書生活

社会的な読書環境に乏しい農村においては学校図書館は，唯一の読書センターであり資料センターともいえるであろう。学校教育は計画を立てて企図的に実施されるので，児童の読書が生活化していく方向づけとなっている。三年生の一学期における図書利用（館外貸出のみ）は，9類が全体の70％をしめ1類から3類まで平均して8％ずつの割合である。5年生では9類が70％をしめ事典の利用が多く，それに次いで伝記書を多く読んでいる。9類も童話から文学へと興味が移行している。又館内における自由読書も漸次多くなっている。指導に就いては後述するが，基本的な読書態度や技術を身につけさせるようカリキュラムによって指導している。又教科学習にも急激に利用度が増しているので，現状では児童の学校における読書生活の内容的な深まりを持つようにする指導が重視さるべきである。

又家庭の読書指導への啓蒙も忘れてはならない。それが，真に児童の将来の幸福を希求し実践する教師の果たすべきことである。

又学校における学級集団における友人関係や，その環境の中から，不読児を少なくして行くための特殊なそして自然な形の読書活動も，新しい工夫がなされなければならない。

児童の読書といえば，基本図書よりも，絵本，漫画，雑誌等に多くの興味が向けられ，禁止した場合には，教師の目の届かない等で漫画等を読む結果になる。その効果や危険性等種々の功罪が，研究されているが読むことを禁止するより，学習の疲労を回復する意味や何んとなく興味が沸いて読んで行くが一般に漫画となると附録物でパンフレットに近い薄いもので続き物のため，次の機会を捉えようとするために，学習など他の生活を乱すことが考えられ，そのために読書生活全体を破壊する結果になるのである。雑誌の内容の一部である漫画も同様に考えられないとはいえない。昨年より実験的に漫画は読み切りの厚いもの，雑誌は漫画の少ない学習，娯楽用になっているものを選んで与えた結果，その児童は同じ図書を40数回読み通してから，伝記書や文学書に興味関心を移行していった。

未だ今後の研究を待たなければ明確な結果は期待できないが，一つの方法として考慮さるべきではないだろうか。

6．学校図書館における読書指導

かつて，読書指導といえば極めて常識的に考えられておりその領域も教科外の読書の指導を意味しておるような時代もあった。しかし読書が現代人の生活技術の基本的なものであり，児童の人格形成の重要な一要因であることが明らかにされた今日，このような浅狭な見解に立つ事は許されぬであろう。

読書指導は，端的にいって読書活動を通しての生活指

導であるといい得る。即ち読む事の指導によって児童の心身の働きを健全にし調和のある完全な人格を形成しようとするものである。ここに読書指導の究極的な目標がおかれる。

1．読書指導の目あて

1　年

(1)読書興味に合った本を見い出させる指導。

(2)自分の好きな本を自分で見つける。

(3)音読や黙読で本が読める。

(4)読んだ本について簡単な話ができる。

(5)読んだ本の名前を書きとめておく。

(6)手をきれいに洗って本を読む。

2　年

(1)～(3)までは1年と同じ。

(4)1冊の本を終わりまで読み通す。

(5)読んだ本について話し合ったり解らないところを質問したり部分的に絵で表現することができる。

(6)本の名と著者名を書きとめておく。

(7)指をなめてページをめくらない。

3　年

(1)目的をもった読書ができる。

(2)読書の範囲を拡げていく，又興味に合った適書を見い出させる。

(3)落ち着いて考えながら読める。

(4)読んでおもしろかったところがわかり，絵ばなしとしてまとめられる。

(5)読んだ本の要点を大体つかんであらすじが話せる。

(6)読んだ本の著者名発行所や簡単な感想が書きとめられる。

(7)本を読む時，姿勢や光線に気をつけて読む。

4　年

(1)問題を解決するための読書や図書の利用ができる。

(2)読書の範囲を拡げていく。

(3)よく味わって根気よく読む。

(4)かなりの長文でもある程度の要点がとらえられる。

(5)物語を脚色したり紙芝居化したりすることができる。

(6)いろいろな記録がとれる。

5　年

(1)能率的な読書をする。

(2)読みながら要点をノートすることができる。

(3)読んだ本の内容を批判したり問題をつかんだりすることができる。

(4)問題解決のための読書ができる。又件名によって各種の資料が見い出せる。

(5)良い本を自主的に選んで読書することができる。

(6)各種の記録がとれる。

6　年

(1)読みものを自分で選び良書を見分ける。

(2)各種の読みの技術に慣れ目的により，能率的な読書や図書その他の資料の利用ができる。

(3)批判的な読書ができる。

(4)読みとったことを生活に生かしたり意見や感想が他人と較べられる。

(5)各種の記録が充実した内容でとれる。

カリキュラムの内容は2つに大別し，内容指導と利用指導とした。又読書指導の機会としては次の事柄に重点をおくことにしている。紙面の都合で題目だけにとどめる。

1．学校生活における読書指導

(1)図書館における基礎的指導

(2)ホームルームにおける指導

(3)教科学習における指導

(4)読書会，クラブ活動における指導

(5)学級文庫を中心とした指導

(6)自由時間における指導

(7)広報活動を通じての指導

2．社会生活における読書指導

(1)公共図書館活用による指導（市立）

(2)マス・コミを通じての指導

(3)出版目録，書評による指導

3．家庭生活における読書指導

(1)話し合いを通じての指導

(2)経験，選書を通じての指導

7．児童の個人的読書

1．読書能力の個人差

同学年同年令の児童も，その能力は，かなりの相違がある。又，年令が多くなるに従って，その差も拡大されていく。その原因として年令差が上げられるが，学習能力差がその主流を示しており，又子どもの生活する地域環境においても甚しく差ができてくる。

マス・コミの媒体である，新聞やテレビによる影響も見逃がす事はできない。新聞を読む児童は読書能力も高く，読まない児童は，その能力も低く，ここからも個人的な差異は拡大されよう。新聞を読む児童は読書興味が全体にあり，その能力も高度になっていくのである。以上の能力差を綜合的に分析すると，思考力の深浅が大きな原因となっていることがわかる。読書は，思考活動でもあるからである。

2．読書興味の発達と個人差

ある児童は，食事の時間さえ惜しんで読書するかと思うと，読書時間さえ嫌って行く児童が見受けられる。受動的な興味でしかないにしても，その過程において能動的興味に移行し，自己を見出していくのである。この過程が読書指導の中心的な部面でもあろう。

前節でも述べた通り，読書以外の行動の中から読書興味が誘発される場合がある。ラジオ，テレビ，映画，新聞等による既修経験の再構成として表われることが大きい。

(1)充足の要求

個人の成長に必要な条件を充足しようとする心理的な動因が起きる，これが興味の前提となる。個人は自己に欠けている条件を意識し，それを充足しようとする要求が起きるのである。

(1)心理的・生理的な要求

○器官の使用要求（目，口，耳）

○思考の要求（誘導的な思考）

○情緒的刺激の要求（危険を伴なわない）

○緊張解消の要求（レクリエーション）

(2)自己表現の要求

○自己充実の要求（環境拡大）

○自立の要求（自由な情報提供）

○自信の要求（自己評価の基準）

(3)社会化の要求

○所属の要求（読書集団）

○愛情の要求（自我意識の拡大による対象）

○優越の要求（優位にあることの安定）

8．児童の集団的読書心理

個人の場合刺激が少なく自己意識によって行動するが，集団の場合は，個人の意志は，集団の持つ雰囲気によって転換される場合がある。一人の子どもだけが読書していて伝達機関を通じて発表した内容による刺激は，集団のもつ特色ではなかろうか。学校における集団は数多いが読書生活と直結するのは学級集団であり，小数集団である読書クラブがある。仲間同志の競争意識と自己誇張による成長と，逆に劣等感，孤独感に陥らしむる表裏のあることから，一つの目標，方向を持たせて行くことが，集団指導である。又集団は，共通の理解に立って個々の特性を尊重していくところに価値がある。

9．児童の読書生活の改善策

地域的環境は，子どもたちにふさわしいものとはいえないが，泉に石を投ずる如く，読書熱を持った知識人による啓蒙と県立図書館の移動班（ブック・モビール）による成人の読書環境作りによって，児童の全生活に読書を生活化する努力を惜しみなく図らなければならない。環境は人を作るという考えを一歩進めて，農村における読書環境に適応させ，「人が環境を作る」立場で改善して行きたい。

勤労青少年の生活と読書*

——「勤労青少年に関する読書実態調査」報告——

日本読書学会読書科学総合研究第3分科会**

この調査報告は去る昭和36年2月，日本読書学会第3分科会がおこなった「勤労青少年に関する読書実態調査」の結果を総括的に分析したものであり，同年8月3日東京都新宿区　伊勢丹デパートで開催された，第5回日本読書学会研究発表大会において発表した要旨をもととし，加筆，補正したものである。したがってこの調査の企画，実施については日本読書学会第3分科会が当ったが，この調査報告の文責は一切筆者にあることをあきらかにしておくものである。(北島　武彦)

目　次

Ⅰ．調査目的
Ⅱ．調査対象
Ⅲ．調査方法
Ⅳ．調査結果
1．サンプルの属性
(1) 性　(2) 年齢　(3) 最終学歴
(4) 出身地　(5) 職場の規模　(6) 産業形態
2．マス・メデイアへの接触状況
(1) 普及率と接触率
(2) 接触目的（期待）
(3) 接触経路（入手経路）
(4) 多読雑誌
3．読書生活
(1) 接近度
(2) 読書目的
(3) 入手経路
(4) 読書内容
(5) ベスト・セラーズへの反応
(6) 読書環境
4．生活環境
(1) 勤労形態と職種
(2) 休日および休日への希望
(3) サークル，学校への参加，通学状況
Ⅴ．むすび

Ⅰ．調査目的

この「勤労青少年に関する読書実態調査」は昭和34年度以降，日本読書学会がおこなっている総合研究「読書の人格形成に及ぼす影響に関する実証的研究——特に青少年を中心として——」の一環として，同学会第3分科会が去る昭和36年2月におこなったものである。同分科会はさきに昭和34年度において「公共図書館における青少年の読書生活実態調査」および「小・中学校における読書生活実態調査」を実施したが，今回の調査はとくに勤労青少年の読書生活および環境が如何なる状況にあり，図書，新聞，雑誌，ラジオ，テレビ，映画等のマス・メデイア間の相互関係がどのようになっているかをあきらかにしようとしたものである。

Ⅱ．調査対象

* The Life and Reading of the Working Youth,
** The 3rd Study Group, JSSR.

総理府統計局が昭和35年に実施した国勢調査によると農業はじめ各種産業に従事する満15～19歳までの勤労青少年は全国で 男 2,364,100人， 女 2,244,400人，計 4,608,500人 おり，東京都の調査によれば都内だけでも男 約 290,000人，女 約 230,000人 計約 520,000人の勤労青少年がいることになっている。われわれがこの調査における調査対象を設定するに当り，まず当面した問題点はこれら勤労青少年の地域別実数を把握することが，大企業にはたらくものは別として，中・小企業にはたらくものに至ってはきわめて困難であり，しかも中・小企業にはたらく勤労青少年の読書生活こそ多くの問題点を包蔵し，解明されるべきものを含んでいるということであった。したがって本来ならば全国の勤労青少年を母集団とし，これを産業別，地域別経営規模別等に層化し，各層より母集団の比に応じてサンプルを無作為抽出し，調査対象とすべきであるが，上記の理由および調査日時，調査経費等からみて厳密な意味における無作為抽出法の採用が不可能に近く，特定地域から有意抽出法によりサンプルを抽出せざるを得なかった。そこで調査対象の設定および抽出に当り，つぎの原則をたて，これにしたがった。

1．調査対象は満15～19歳の勤労青少年とする。

2．サンプル数は 700 とし，都内および東京を中心とする 200 k m 以内の関東地方の各地から，第 1 表に示すような産業区分，定時制高等学校，青年学級ごとにそれぞれサンプルを抽出する。

3．サンプルの抽出地点は調査実施にあたり，協力を期待し得る地域とする。

4．サンプルの抽出法は有意抽出法による。

Ⅲ．調査方法

以上の原則により各産業種別，定時制高等学校，青年学級ごとに調査地点を第 1 表のように選び，調査票を各県，市，区教員委員会および定時制高等学校，青年学級に送付し，主に社会教育主事，図書館長，教諭，司書教諭の方々に協力をおねがいして昭和36年 2 月中旬に調査を実施した。この結果各調査地点より回収したサンプル数は第 1 表のとおりである。

第 1 表

産業種別	調査地点	サンプル数
農業	東京都八王子市	51
農林業	東京都青梅市	55
漁業	千葉県木更津市	57
製造業	東京都墨田区	53
製造業	東京都荒川区	43
サービス・卸小売業	東京都中央区	30
サービス・卸小売業	東京都台東区	20
サービス・卸小売業	東京都港区	12
金融・保険・不動産業 運輸・通信・公益業・公務	東京都八王子市 東京都青年の家	62
定時制高等学校	東京都立青山高等学校	50
定時制高等学校	東京都立工芸高等学校	53
定時制高等学校	茨城県立土浦第一高等学校	50
青年学級	神奈川県	50
青年学級	東京都文京区	20
青年学級	東京都千代田区	14
青年学級	東京都台東区	20
計		640

すなわち当初予定していたサンプル数 700 の91.3%にあたる 640 のサンプルを得たことになり，以下にのべる分析結果はこの 640 のサンプルを基礎としたものである。つぎにこの調査の企画，実施にあたった第 3 分科会小委員会の氏名をあげ，さらに調査の実施に際し協力をいただいた方々の氏名を明らかにし，謝意を表する次第である。

日本読書学会読書科学総合研究第 3 分科会
勤労青少年読書実態調査小委員会
主任　伊東正勝（文部省図書館職員養成所長）
委員　江幡　潤（東京都文京区社会教育主事）
　　大内茂男（東京教育大学講師）
　　北島武彦（文部省図書館職員養成所教官）
　　永島利明（東京教育大学大学院）

服部金太郎（文部省図書館職員養成所教官）
平沢　薫（東京教育大学教授）
古野有隣（朝日新聞東京本社広告部）
松本　武（東京都千代田区社会教育主事）
安井辰雄（東京都青年の家所長）

協力者

青木清人（東京都台東区社会教育主事）
青野婦佐子（東京都中央区社会教育主事）
有田　　（東京都青梅市立第五中学校教諭）
石崎正雄（茨城県立土浦第一高等学校教諭）
宇佐美　茂（東京都墨田区社会教育主事）
川添キシ（東京都立青山高等学校司書教諭）
長田誠信（東京都荒川区社会教育主事）
藤平久夫（千葉県社会教育課指導係長）
宮沢泰輔（東京都立八王子図書館長）
森井　孝（神奈川県社会教育主事）
柳川照夫（東京都立工芸高等学校教諭）
山田利雄（神奈川県社会教育課青少年係長）

Ⅳ. 調査結果

1. サンプルの属性

すでにのべたように各調査地点において調査票を回収したサンプル数640はであるが，これを(1)性，(2)年令，(3)最終学歴，(4)出身地，(5)職場の規模，(6)産業形態などサンプルの属性についてみると，第2～7表のようになっている。

(1) 性

第2表

種類／性別	サンプル数(%)	昭和35年度国勢調査(15～19歳)
男	372 (58.1%)	2,364,100 (51.3%)
女	238 (37.2%)	2,244,400 (48.7%)
無記入	30 (4.7%)	——
計	640 (100.0%)	4,608,500 (100.0%)

すなわち男のほうが女より20.9%多くなっている。これを総理府統計局が昭和35年に実施した国勢調査の結果と比較すると，男で6.8%多く，女で11.5%すくなく，かなり差のあることがわかるが，これにすでにのべたように，この調査のサンプリングが有意抽出法によらざるを得なかったためである。

(2) 年　令

年令分布は第3表のとおりである。

第3表

年　齢	サンプル数(%)	昭和35年国勢調査における総数と%
15歳	10 (1.6)	1,960,600 (42.5)
16歳	139 (21.2)	
17歳	129 (20.2)	
18歳	119 (18.6)	1,647,900 (57.5)
19歳	188 (19.4)	
その他	37 (5.8)	——
無記入	18 (2.8)	——
計	640 (100.0)	4,608,500 (100.0)

すなわち19歳がもっとも多く全体の約30%を占め，ついで16歳の21.7%，17歳の20.2%がこれにつづいている。

(3) 最終学歴

サンプルの最終学歴の分布状態をみると，第4表のようになっている。

第4表

最終学歴	サンプル数(%)
中学校卒	463 (72.4%)
高等学校中退	14 (2.2%)
高等学校卒	116 (18.1%)
短期大学中退	2 (0.3%)
短期大学卒	2 (0.3%)
大学卒	1 (0.2%)
その他	6 (0.9%)
無記入	36 (5.6%)
計	640 (100.0%)

第4表にみてもわかるように勤労青少年の圧倒的多数のものが中学校卒であり，高等学校中退を含めると全体の約$\frac{3}{4}$にあたる74.6%までが義務教育終了者であることがわかる。またこれを第3表の年令分布と合せ考えると，中学校卒業後3年経過したものがもっとも多く，ついで新卒業者（卒業直後），卒業後1年，同2年の順に多いことがわかる。この勤労青少年の大多数が中学校卒であるという傾向は他の調査でも示されており，たとえば東京都文京区教育委員会が昭和36年に実施した「勤労青年環境実態調査」同じく東京都江戸川区教育委員会が昭和33年に実施した「江戸川区における勤労青少年読書実態調査」ではそれぞれ中学校卒が全体の78.0%（文京区）72.5%（江戸川区）を占めており，この傾向は年令にかかわりなく一般的傾向であるとみることができよう。

(4) 出身地

サンプル640人の出身地の分布状態をみると北は北海道から南は九州に至る各県を網羅しているが，とくに目立つ県は第5表にあげた。

第5表

出身県	サンプル数
東京都	265 (41.4%)
茨城県	44 (6.9%)
神奈川県	36 (5.6%)
千葉県	14 (2.1%)
長野県	13 (2.0%)

などの各県であり，とくに東京都出身者が40%以上を占め，これに関東地方の6県出身者を加えると全体の61.1%までが関東地方出身者である。この現象はⅡ．調査対象の項でのべたように，調査地点を東京を中心とする200km以内の各県に限定したので当然といえるが，それにしても上述の文京区教育委員会の調査でも関東地方出身者が46%に及んでいることを考え合すとき，東京都がいかに勤労青少年人口の供給源になっているかを推定することができよう。

(5) 職場の規模

サンプルが就業している職場の規模を従業員数からみると，第6表のとおりである。

第6表

職場の従業員数	サンプル数(%)
自分と主人	103 (16.1%)
10人以内	142 (22.2%)
30人以内	94 (14.7%)
100人以内	77 (12.0%)
300人以内	40 (6.2%)
300人以上	72 (11.3%)
無記入	112 (17.5%)
計	640 (100.0%)

この表をみると全体の65%までが，従業員100人以下の小企業ではたらいていることがわかる。

(6) 産業形態

サンプルの産業形態の分布状況は第7表のとおりである。

第7表

産業種別	サンプル数(%)
農業	114 (17.8%)
林業・狩猟業	0
漁業・水産養殖業	29 (4.5%)
鉱業	4 (0.6%)
建設業	17 (2.7%)
製造業	219 (34.2%)
卸売・小売業	94 (14.7%)
金融・保険・不産産業	12 (1.9%)
運輸・通信・公益業	13 (2.0%)
サービス業	44 (6.9%)
公務	42 (6.6%)
無記入	52 (8.1%)
計	640 (100.0%)

製造業がもっとも多く全体の$\frac{1}{5}$を占め，ついで農業，卸売・小売業従事者が目立って多い。林業・狩猟業従事者が皆無なのは，すでにのべたように調査地点を東京から200km以内としたためである。

2．マス・メデイアへの接触状況

(1) 普及率と接触率

マス・コミ時代とよばれる現代に生きるわれわれは，ほとんどのものが多少ともにラジオ，テレビ，映画，新聞，雑誌などのマス・メデイア（Mass media）に接触しているか，勤労青少年が如何なる接触状況にあるかをみてみよう。まずこれらメデイアの普及率をみると第8表のとおりである。

第8表

マス・メデイアの種類	普及率（世帯当りの%）	全国平均普及率（世帯当りの%）
新聞	613（95.8）	——
ラジオ	604（94.4）	68.3
テレビ	438（68.5）	35.4
映画	——	——
週刊誌	378（59.1）	——
月刊誌	449（70.2）	——

註 ラジオ，テレビの全国平均普及率は1961年1月現在 NHK資料による。

すなわち新聞，ラジオの普及率はいずれも90%をこえ，高率であり，ついで月刊誌，テレビ，週刊誌とつづいている。このうちラジオ・テレビの普及率を全国平均普及率の63.3%（ラジオ），35.4%（テレビ）にくらべると，それぞれかなり全国平均を上まわっていることがわかる。以上の普及率に対し，各メデイアへの接触率をみると第9表のとおりである。

第9表

マス・メデイアの種類	接触率(%)
新聞	598（93.5）
ラジオ	596（93.1）
テレビ	540（84.4）
映画	588（91.9）
週刊誌	514（80.3）
月刊誌	354（55.3）

すなわち接触率は新聞がもっとも高く，以下ラジオ，映画，テレビ，週刊誌，月刊誌の順であるが，第8，9表を対照すると各メデイアのうち，テレビ，週刊誌，月刊誌は普及率より接触率のほうがかなり高く，他のメデイアより相対的に好まれていることがわかる。

(2) 接触目的（期待）

マス・メデイアへの接触目的（期待）を教養，娯楽，実用の3点からみると第10表のとおりである。

第10表

マス・メデイアの種類	教養に	娯楽に	仕事のため	資格や試験のため	無記入
新聞	316(49.4)	326(50.9)	33(5.2)	11(1.7)	32(5.0)
ラジオ	117(18.3)	523(81.7)	5(0.8)	4(0.6)	40(6.2)
テレビ	64(10.0)	522(81.6)	8(1.3)	3(0.5)	80(12.5)
映画	60(9.4)	568(87.2)	2(0.3)	——	36(5.6)
週刊誌	99(15.5)	438(68.4)	19(3.0)	4(0.6)	117(18.3)
月刊誌	168(26.3)	360(56.3)	39(6.1)	13(2.0)	93(14.5)

註 この問はダブル・チェックのため，1人で2以上答えたものを含む。

マス・メデイアへの期待はすべてのメデイアを通じて娯楽性が非常に強く，とくに映画，ラジオ，テレビにおいて著しい。しかし新聞への期待では教養を求めるものがほぼ半数近くいることが目立ち，マス・メデイアにおける新聞の特殊性を示しているといえよう。

(3) 接触経路（入手経路）

第11表

マス・メデイアの類種	自分で買った	人から借りた	貸本屋から借りた	家又は職場にあった	図書館から借りた	人からもらった	無記入
週刊誌	392 (61.3)	222 (34.7)	24 (3.8)	213 (33.3)	1 (0.2)	24 (3.8)	52 (8.1)
月刊誌	206 (32.2)	151 (23.6)	34 (5.3)	101 (15.8)	10 (1.6)	3 (0.5)	20 (3.1)

註 この問はダブル・チェックのため，1人で2以上答えたものを含む。

つぎにこれらマス・メデイアのうち印刷媒体（Printed media）とよばれる週刊誌，月刊誌の接触経路をみると第11表のとおりである。

週刊誌，月刊誌ともに自分で買って読むものがもっとも多く，とくに週刊誌では全体の60％の人々が買っている。しかし人から借りるもの，たまたま家又は職場にあったものを読むものも多く，この2つを合せると自分で買って読むものより多いことに注目すべきである。

(4) 多読雑誌

読まれた週刊誌，月刊誌の数はそれぞれ29種，52種の多きにのぼるか，そのうちよく読まれているものを，それぞれ10種類ずつあげると第12表のとおりである。

第12表

週刊誌	読者(％)	月刊誌	読者(％)
週刊平凡	159(24.8)	平凡	101(15.8)
週刊明星	100(15.6)	明星	63(9.8)
女性自身	96(15.0)	家の光	34(5.3)
週刊朝日	79(12.3)	若い女性	25(3.9)
週刊女性	49(7.7)	女学生の友	24(3.8)
週刊読売	49(7.7)	高校コース	21(3.3)
週刊新潮	44(6.9)	美しい十代	21(3.3)
週刊実話	43.(6.7)	高校時代	18(2.8)
サンデー毎日	42(6.6)	婦人生活	15(2.9)
週刊漫画	27(4.2)	文芸春秋	14(2.2)

週刊誌，月刊誌ともに「平凡」，「明星」など若い人々を対象にした娯楽雑誌が好まれ，他の読書調査，たとえば毎日新聞社「読書世論調査」とはまたちがった傾向を示している。

3．読書生活

つぎに勤労青少年の読書生活（ここでは図書を読むことのみを読書生活と考えた）をその(1)接近度，(2)読書目的，(3)入手経路，(4)読書内容，(5)ベスト・セラーズへの反応，(6)読書環境などからみるとつぎのようになっている。

(1) 接近度

まず図書に対する接近度を示すと，第13，14表のようになっている。

第13表

職場・家庭における図書の有無	人数(％)
ある	371(58.0)
ない	213(33.3)
無記入	56(8.8)

第14表

読書量	人数(％)
月1～2冊位	255(39.8)
月2～3冊位	57(8.9)
月3冊以上	42(6.6)
ほとんど読まない	189(29.5)
無記入	97(15.2)

第13，14表を第8，9表のマス・メデイアの普及率および接触率とくらべると，いずれももっとも低いことがわかる。すなわち図書の普及率は約半数の58.0％でもっとも低く，また月1冊以上読むものを合せても55.3％でやはりもっとも低い。しかし読書率55.3％は労働省婦人少年局のおこなった「年少労働者余暇状況実態調査」（昭和34年度）の読書率52.0％よりやや高く，このあたりが勤労青少年の一般的読書率とみるべきであろうか。

(2) 読書目的

読書目的を教養，娯楽，実用の3点からみると第15表のとおりである。

第15表

読書目的	人数(％)
教養に	245(38.3)
娯楽に	221(34.5)
仕事のため	33(5.2)
資格や試験のため	14(2.2)
無記入	181(28.3)

これを第10表のマス・メデイアへの接触目的とくらべると，さすがに教養への期待がもっとも強いことがわかるが，しかし娯楽性への要求の強いことも無視できない。

(3) 入手経路

つぎに勤労青少年が図書を入手する方法をみると第16表のとおりである。

第16表

入手方法	自分で買った	人から借りた	貸本屋から借りた	家又は職場にあった	図書館から借りた	人からもらった	無記入
人数(%)	74 (11.6)	55 (8.6)	10 (1.6)	19 (3.0)	25 (3.9)	3 (0.5)	14 (2.2)

すなわち自分で買うものがもっとも多いが，人から借りる場合，家又は職場にある場合その他を合せると，借りる場合がもっとも多くなる（17.1%）。

(4) 読書内容

よく読まれている図書15種をあげると第17表のとおりである。

第17表

書名	人数	書名	人数
友情	6	暗夜行路	5
女の一生	6	狭き門	5
青い山脈	7	人生論	5
次郎物語	7	愛と死	5
零の焦点	8	雪国	5
波	6	恋の時間割	5
罪と罰	5	大地	5
芥川竜之介集	5		

すなわちとくに群を抜いて愛読されているものはないが，概して日本の文学作品，しかも青年または少年を主人公とした作品の好まれていることがわかる。

(5) ベストセラーズへの反応

第18表にあげたものは最1～2近年間にベストセラーズとなった図書と，それに対する読書経験およびこれからの読書希望を示したものである。

第18表

書名	すでに読んだことのあるもの	これから読みたいと思うもの
性生活の知恵	37(5.8)	82(12.8)
性格	25(3.9)	94(17.8)
人生は芸術である	27(4.2)	135(21.1)
頭のよくなる本	47(7.3)	142(22.2)
トイレット部長	37(5.8)	71(11.1)
鳥葬の国	30(4.7)	57(8.9)
乗取り	7(1.1)	32(5.0)
河口	35(5.5)	70(10.9)
ドクトルマンボ航海記	51(8.0)	93(14.5)
図々しい奴	64(10.0)	109(17.0)
無記入		171(26.7)

註 この問はダブル・チェックのため，1人で2以上答えたものを含む。

概してベストセラーズに対する関心はあまり強くなく，「頭のよくなる本」，「図々しい奴」，「人生は芸術である」，「ドクトルマンボ航海記」などに比較的関心の集まっていることがわかる。

(6) 読書環境

まず勤労青少年が読書する場合，どの程度のものが如何なる障碍に当面しているかをみてみよう。読書に困難を感じているものは第19表のとおりである。

第19表

非常にこまっている	19(3.0)
こまっている	153(23.9)
特別にこまらない	387(60.5)
無記入	81(12.7)

すなわち全体の約$\frac{1}{4}$にあたる26.9%のものが程度の多少こそあれ，読書環境に問題のあることがわかるが，これらのものによってあげられた読書上の問題点は第20表のとおりである。

第20表

問題点	人数(%)
a 仕事につかれてよめない	61(11.7)
b いそがしくてよむ暇がない	116(22.2)
c 本を買う金がない	44(8.4)
d 本を手に入れる適当なところが附近にない	36(6.9)

e 職場のふんいきが読書に適しない	45(8.8)
f 雇主に気がねする	15(2.9)
g 職場の同僚に気がねする	10(1.9)
h 家族に気がねする	17(3.5)
i 手頃なよい本がみつからない	31(5.9)
j 読書によい仲間や指導者がいない	57(10.9)
k 学校時代から本をよむくせがついていないのでよみにくい	48(9.2)
l テレビや映画をみるけど本をみなくともすむからこまらない	32(6.1)
m そ の 他	9(1.7)

すなわち「いそがしくてよむ暇がない」という理由がもっとも多く，これに「仕事に疲れてよめない」（11.7%）を合せると，労働による読書困難をうったえているものが33.9%に及んでいる。また人間関係を示すe，f g，hの4つの理由をあげたものが17.1%でこれにつづき，読書習慣のないもの（i，m）（15.3%），図書の入手機会のないもの（12.8%），読書仲間，指導者不足（10.9%），経済的理由（8.4%）の順になっている。総じて労働条件，人間関係を読書上の問題点としてあげていることは中・小企業にはたらく勤労青少年の特徴を示すものとして注目にあたいするとともに，読み仲間，指導者不足をあげているものがかなり高率であることは今後の読書運動上考慮すべき点である。

つぎに読書時間をみると第21，22表のとおりである。

第21表

読書時間	人数(%)
1時間以内	264(41.3)
2時間以内	157(24.5)
3時間以内	46(7.2)
3時間以上	11(1.7)
無 記 入	162(25.3)

註 この問はダブル・チェックのため，1人で2以上答えたものを含む。

第22表

読 書 時 間	人数(%)
起 き る 前	7(1.1)
通勤の行きかえり	121(18.9)
仕事のあいま	150(23.4)
職場の休けい時	179(28.0)
夕食から寝るまでの間	209(32.7)
寝床でねる前	309(46.7)
そ の 他	11(1.7)
無 記 入	41(6.4)

すなわち「寝床でねる前」に「1時間以内」読むものが全体の40%以上に及んでおり，もっとも多い。この事実はさきにあげた江戸川区教育委員会のおこなった「江戸川区における勤労青少年読書実態調査」の「30分～1時間」（52.0%），「夜間読む」（75.6%）とほぼ似た傾向を示している。

つぎに読書施設の利用状況をみると第23表のとおりである。

第23表

読書施設＼利用度	よく利用する	時々利用する	利用しない	昔は利用した	無記入
公共図書館	18 (2.8)	66 (10.3)	210 (32.8)	112 (17.5)	234 (36.6)
公 民 館	6 (0.9)	34 (5.3)	281 (43.9)	37 (5.8)	282 (44.1)
学校図書館	38 (5.9)	94 (14.7)	113 (18.4)	185 (28.9)	210 (32.8)
職場・青年会等の図書室	48 (9.2)	105 (16.4)	226 (35.3)	9 (1.4)	252 (39.2)
貸 本 屋	39 (6.1)	140 (21.9)	205 (32.0)	50 (7.8)	206 (32.2)
巡回図書館	11 (1.7)	23 (3.6)	300 (46.8)	22 (3.4)	284 (44.4)

註 この問はダブル・チェックのため，1人で2以上答えたものを含む。

読書施設の利用はあまり活ぱつとはいえないが，貸本屋がもっとも利用され（28.0%），ついで職場・青年会等の図書室（25.6%），学校図書館（20.6%），公共図書館（13.1%），公民館（6.2%），巡回図書館（5.3%）の順になっている。勤労青少年が貸本屋をよく利用していることは他の調査，たとえば上述の江戸川区における調査でも約50%のものが利用していることからもうかがうことができる。いずれにしても図書館，公民館のようなフォーマルな読書施設より，貸本屋，職場，青年会の図書室のようなインフォーマルな読書施設のほうがよく利用されていることを，図書館，公民館等読書施設関係者は反省する要があろう。

現代の読書運動の大きな特徴の1つは集団読書でありとくに読書会の普及，活動はめざましいものがある。そ

こで勤労青少年の読書会加入状況とその種類をみると第24，25表のようになっている。

第24表

読書会加入の有無	人数(%)
入っている	56(8.8)
入っていない	527(82.3)
無　記　入	57(8.9)

第25表

読書会の種類	人数(%)
職場の読書会	7(1.1)
居住地区の読書会	7(1.1)
公共図書館の読書会	5(0.8)
青年学級の読書会	18(2.8)
定時制高校の読書会	10(1.6)
そ　の　他	9(1.4)

読書会に加入しているのは全体の$\frac{1}{10}$以下であり，集団読書の機会にもめぐまれていないことがわかる。また読書会の種類をみると青年学級，定時制高校の読書会が目立ち，学校の友人関係が彼等の読書生活に影響をあたえていることが推定できる。

つぎに1カ月の本代をみると第26表のとおりである。

第26表

金　　額	人数(%)
100円以内	103(16.1)
200円以内	157(24.5)
300円以内	121(18.9)
500円以内	78(12.2)
1,000円以内	13(2.0)
1,000円以上	8(1.3)
最近買わない	112(17.5)
無　記　入	48(9.2)

1カ月の本代200円以内のものがもっとも多く，全体の約70%までが500円以内であり，江戸川区における調査の200～500円（50.0%）よりやや高率となっている。いずれにしても勤労青少年の読書経済は当然のこととはいいながら，めぐまれていないということができる。

4．生活環境

さいごに勤労青少年の読書生活をささえるものとしての生活環境をみてみよう。

(1) 勤労形態と職種

まず彼等の勤労形態と職種をみると第27，28表のとおりである。

第27表

勤労形態	人数(%)
通　　勤	283(44.2)
住　込　み	135(21.1)
自　　宅	144(22.5)
無　記　入	78(12.2)

第28表

職　　種	人数(%)
事務の仕事	80(12.5)
技術の仕事	161(25.2)
筋肉労働	66(10.3)
使い走り仕事	16(2.5)
接客の仕事	32(5.0)
そ　の　他	80(12.5)
無　記　入	205(32.0)

通勤者が住込み，自宅従事者の2倍以上あることはさいきんの中・小企業の1つの特徴を示しているとみてよく，労働省婦人少年局の「年少労働者余暇状況調査」(昭和35年6月）でも全体の65.6%が通勤であることからみて，全体的傾向といえるであろう。また職種別にみると「技術の仕事」(25.2%）がもっとも多く，以下「事務の仕事」，「筋肉労働」がこれについでいる。

(2) 休日および休日への希望

つぎに休日についてその回数，休日のすごしかたに対する希望をみると第29，30表のとおりである。

第29表

休日回数	人数(%)
週　1　回	290(45.3)
月　1　回	8(1.3)
月　2　回	108(16.9)
月　3　回	44(6.9)
きまっていない	138(21.6)
無　記　入	52(8.1)

第30表

つぎの休日のすごしかたへの希望	人 数（%）
a せんたく	179(28.0)
b ひるね	77(11.7)
c 衣類整理	70(10.9)
d 入浴・散髪	64(10.0)
e 手紙書き	61(9.5)
f 友人訪問	120(18.8)
g 親せき訪問	42(6.6)
h 読書	148(23.2)
i 勉強	83(13.0)
j サークル活動	24(3.8)
k 映画をみる	244(38.1)
l テレビをみる	95(14.8)
m ラジオをきく	65(10.2)
n スポーツをする	123(19.2)
o 無記入	103(16.1)

註 この問はダブル・チェックのため，1人で2以上答えたものを含む

すなわち休日回数は約半数のものが週休制になっており，さすがにさいきんの労働界における週休制の普及をみることができ，これを労働省婦人少年局の調査結果の週休制 50.5%（製造業 70.1% 商業 30.9%）とくらべると，ほぼ同一となっている。しかし一方「月1～2回」(18.2%)，「きまっていない」(21.6%) が合せて39.8%あることは，勤労青少年の労働条件が充分でないことを示している。このような休日のすごしかたについて，具体的につぎの休日をとりあげて，その希望を調査した結果が第30表である。

すなわち映画に対する関心がもっとも多いが(38.1%) マス・コミ接触への希望（k，l，m）を合せると63.1%でもっとも高率であり，ついで身辺整理（a，c，d，e）58.4%，読書，勉強（h，i）36.2%，対人関係（f，g）25.4%，レクリエーション（j，n）23.0% 休養（b）11.7%の順に希望していることがわかる。この傾向は労働省婦人少年局の調査結果ともほぼ軌を一にしている。

(3) サークル・学校への参加・通学状況

これら勤労青少年の学習教養への意欲は第30表のh，i，jの合計40.0%からもわかるようにかなり強いがその1方法としてのサークル活動，通学状況をみると第31表のとおりである。

第31表

サークルまたは学校の種類	人数(%)	サークルまたは学校の種類	人数(%)
職場サークル	29(4.5)	婦人会	2(0.3)
青年団体	162(25.3)	職業訓練所	10(1.6)
青年学級	212(33.1)	4Hクラブ	1(0.2)
定時制高校	165(25.8)	その他	32(5.0)
通信教育	11(1.7)	どれにも入っていない	88(13.8)
各種学校	5(0.8)	無記入	36(5.6)
成人学校	4(0.6)		

註 この問はダブル・チェックのため，1人で2以上答えたものを含む。

青年学級参加者，定時制高等学校在学者が多いのは，調査方法の項でのべたように，とくにこれらのグループからサンプルを多く抽出しているので当然といえるが，これらの点を考慮してもなおかつ青年学級参加者および青年団体参加者の多いことが目立っている。いずれにしても大部分のものが，なんらかのサークル，学校等に参加していることは，彼等の向上意欲を示すものとして，注目にあたいする。

V. むすび

以上「勤労青少年の読書実態調査」の調査目的，調査対象，調査方法，調査結果についてのべてきた。さいしょに記したように，この調査のサンプルは種々の制約のため有意抽出法によらざるを得なかった。したがってこの調査におけるサンプルは厳密にいうと全国の勤労青少年の姿を代表しているとはいいがたい。しかし関東周辺における勤労青少年の読書実態を示す典型的調査として充分意義があり，とくに中・小企業に働らく勤労青少年

のマス・コミュニケーションへの接触状況，読書および生活環境をあきらかにしたものとして，他に同類の調査のすくないおりから，１つの示唆になるものと信じる。この総括的な調査報告は今後さらに性別，地域別，産業種別などの面から相関的に分析する必要があるが，今後勤労青少年に対する読書運動を展開するための資料として役立てば幸いである。

読書生活調査票（昭和36年2月）

読書科学総合研究第3分科会

調査地	
調査担当者名	
標本番号	

つぎのそれぞれの欄に記入，又はあてはまるものを○でかこんで下さい。

現住所	出身地	性別	年齢(満)	最後に卒業した学校	職場の職業員数
都(県) 区(郡)	都・道 府・県	男・女	14・15・16 17・18・19	イ．中学校在学中　ロ．中学校卒 ハ．高校中退　ニ．高等学校卒 ホ．短大中退　ヘ．短期大学卒	イ．自分と主人　ロ．10人以内 ハ．30人以内　ニ．100人以内 ホ．300人以内　ヘ．300人以上

あなたの職業はつぎの中のどれですか，該当するものを○でかこんで下さい。

イ．農業　ロ．林業・狩猟業　ハ．漁業・水産・養殖業　ニ．鉱業　ホ．建設業　ヘ．製造業　ト．卸売・小売業
チ．金融・保険・不動産業　リ．運輸・通信・公益業　ヌ．サービス業　ル．公務

1．左の欄のことについて上欄の4つの問に対して，あてはまるものにそれぞれ○を1つつけて下さい。

	勤め先や家庭にありますか	見たりきいたりすることは好きですか	いつも見たりきいたりしていますか	おもにどんな事に利用していますか
新聞	ある ない	好き きらい どちらでもない	いつも見る 時々見る あまり見ない	教養に，娯楽に 仕事のため 資格や試験のため
ラジオ	ある ない	好き きらい どちらでもない	いつもきく，たまにきく 全然きかない ききたいがきかせてくれない	教養に，娯楽に 仕事のため 資格や試験のため
テレビ	ある ない	好き きらい どちらでもない	いつも見る，時々見る たまに見る，全然みない 見たいが見せてくれない	教養に，娯楽に 仕事のため 資格や試験のため
映画		好き きらい どちらでもない	みない 週1回位，月に2回位 年1～2回	教養に，娯楽に 仕事のため 資格や試験のため
週刊誌	ある ない	好き きらい どちらでもない	毎週きまったものをよむ 色々なものを毎週よむ 時々よむ，ほとんどよまない	教養に，娯楽に 仕事のため 資格や試験のため
雑誌	ある ない	好き きらい どちらでもない	毎月きまったものをよむ 時々借りてよむ よまない	教養に，娯楽に 仕事のため 資格や試験のため
図書（単行本）	ある ない	好き きらい どちらでもない	月1～2冊位 月2～3冊位，月3冊以上 ほとんどよまない	教養に，娯楽に 仕事のため 資格や試験のため

2．最近2ケ月の間に読んだものの名前を5冊以内一番左の欄に書いて下さい。つぎにそれを手に入れた方法と読んだ目的について，下の各項目から選んでそれぞれあてはまる記号を○でかこんで下さい。

週刊誌			月刊雑誌			単行本		
誌名	手に入れた方法	読んだ目的	誌名	手に入れた方法	読んだ目的	書名	手に入れた方法	読んだ目的
	イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ
	イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ
	イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ
	イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ
	イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ		イロハニホヘ	イロハニホ

（手に入れた方法）　イ．自分で買った　ロ．人から借りた　ハ．貸本屋から借りた
ニ．家又は職場にあった　ホ．図書館から借りた　ヘ．人からもらった

（読んだ目的）　イ．ためになる記事があったから　ロ．おもしろそうな記事があったから
ハ．ひまつぶしに　ニ．仕事に役立つ記事があったから　ホ．資格試験の勉強のため

3．つぎの書物の中で，すでに読んだことのあるものに――をつけ，これから読みたいと思うものに○をつけて下さい。

□性生活の知恵（謝国権）　□性格（宮城音弥）　□人生は芸術である（御木徳近）
□頭のよくなる本（林髞）　□トイレット部長（藤島茂）　□鳥葬の国（川喜田二郎）
□乗取り（城山三郎）　□河口（井上靖）　□ドクトルマンボ航海記（北杜夫）
□図々しい奴（柴田錬三郎）

4．あなたは本をよむことについてこまっていることがありますか。あてはまる記号に○をつけて下さい。

イ．非常にこまっている　ロ．こまっている　ハ．特別にこまらない

少しでもこまっている人はつぎの項目のあてはまる記号に○をつけて下さい。

（いくつつけてもかまいません）

イ．仕事につかれてよめない。
ロ．いそがしくてよむ暇がない。
ハ．本を買う金がない。
ニ．本を手に入れる適当なところがま近にない。
ホ．職場のふんいきが読書に適しない。
ヘ．雇主に気がねする。
ト．職場の同僚に気がねする。
チ．家族に気がねする。
リ．手頃なよい本がみつからない。
ヌ．読書によい仲間や指導者がいない。
ル．学校時代から，本をよむくせがついていないのでよみにくい。

ヲ．テレビや映画をみることで，本をみなくてもすむからこまらない。

ワ．その他（具体的に書いて下さい）

5．あなたは仕事のあるふだんの日，おもにどういう時に読書しますか。あてはまる記号に○をつけて下さい。
（いくつつけてもかまいません）

イ．起きる前　ロ．通勤の行きかえり　ハ．仕事のあい間　ニ．職場の休けい時

ホ．夕食からねるまでの間　ヘ．寝床でねる前　ト．その他（具体的に書いて下さい）

なお，ふだんの日のだいたいの読書時間はどれくらいですか（　　時間　　分位）

6．あなたはつぎのような図書館や貸本屋を利用していますか，あてはまる記号に○をつけて下さい。

(1) 公共図書館	イ．よく利用する	ロ．時々利用する	ハ．利用しない	ニ．昔は利用した。
(2) 公民館	イ．よく利用する	ロ．時々利用する	ハ．利用しない	ニ．昔は利用した。
(3) 学校図書館	イ．よく利用する	ロ．時々利用する	ハ．利用しない	ニ．昔は利用した。
(4) 職場・青年会等の図書室	イ．よく利用する	ロ．時々利用する	ハ．利用しない	ニ．昔は利用した。
(5) 貸本屋	イ．よく利用する	ロ．時々利用する	ハ．利用しない	ニ．昔は利用した。
(6) 巡回図書館	イ．よく利用する	ロ．時々利用する	ハ．利用しない	ニ．昔は利用した。

7．あなたの本代は週刊誌や雑誌を含めて1ヵ月平均どのくらいですか。あてはまる記号に○をつけて下さい。

イ．100円以内　ロ．200円以内　ハ．300円以内　ニ．500円以内　ホ．1,000円以内

ヘ．1,000円以上　ト．最近買わない。

8．あなたの仕事について (1), (2), (3) のそれぞれの項目のうち，あてはまるものに○をつけて下さい。

(1) イ．通勤　ロ．住込み　ハ．自宅

(2) イ．自家営業　ロ．家事従業　ハ．勤めている

(3) イ．事務の仕事（例：会社，商店の会計係）　ロ．技術の仕事（例：自動車の運転手・タイピスト）

ハ．筋肉労働（例：土工）　ニ．使い走り仕事（例：給仕，出前持ち）

ホ．接客の仕事（例：食堂の給仕，床屋の店員）　ヘ．その他（具体的に書いて下さい）

9．あなたの現金収入は月いくらですか。あてはまる記号に○をつけて下さい。

イ．3,000円以内　ロ．5,000円以内　ハ．8,000円以内　ニ．10,000円以内　ホ．15,000円以内

ヘ．20,000円以内　ト．20,000円以上

10．あなたの休日は何回ですか。あてはまる記号に○をつけて下さい。

イ．週1回　ロ．月1回　ハ．月2回　ニ．月3回　ホ．きまっていない

11．つぎの休日にはどんなことをしたいと思いますか。とくにしたいと思うことに○をつつけて下さい。

イ．せんたく　ロ．ひるね　ハ．衣類整理　ニ．入浴・散髪　ホ．手紙書き
ヘ．友人訪問　ト．親せき訪問　チ．読　書　リ．勉　強　ヌ．サークル活動
ル．映画をみる　ヲ．テレビをみる　ワ．ラジオをきく　カ．スポーツをする

12. あなたはどこかの読書会に入っていますか。あてはまる記号に○をつけて下さい。

イ．入っている　ロ．入っていない

入っている人はつぎの項目のあてはまる記号に○をつけて下さい。

イ．職場の読書会　ロ．居住地区の読書会　ハ．公共図書館の読書会　ニ．青年学級の読書会
ホ．定時制高校の読書会　ヘ．その他（具体的に記入して下さい）

13. あなたは現在つぎのどのような学校又は団体に入っていますか。あてはまる記号に○をつけて下さい。

イ．職場サークル　ロ．青年団体　ハ．青年学級　ニ．定時制高校　ホ．通信教育
ヘ．各種学校（例えばタイピスト学校）　ト．成人学校　チ．婦人会　リ．職業訓練所
ヌ．4Hクラブ　ル．その他（具体的に書いて下さい）
ヲ．どれにも入っていない

新潟県の農村地帯における読書の実態調査*

新潟県立図書館　渡　辺　正　亥**

Ⅰ．はしがき

私はさきに，新潟地方住民の読書の実態および彼らの持つ社会意識について調査し，その報告を行った。(1) (2)

その後ひきつづき

地方中都市……長岡市

山間農村地区……南魚沼郡六日町

平地農村地区……西蒲原郡岩室村

漁村地区……三島郡出雲崎町

の4地区について読書の実態につき調査を行ったので，ここにその一部であるそれぞれの地区内農村部における読書の実態を報告し，以て各位のご示教を仰ぐ次第である。

Ⅱ．調査概要

調査は昭和34年3月前記4地区に居住する一般成人男女を対象として行い，学生生徒を除外した。

標本の抽出は任意抽出とし，その地区の住民登録数とは無関係に各地区に200名乃至250名とし，合計900名を選んだ。調査は間接調査とした。そのために調査票は各地区内の中学校教師を通して，この調査の趣旨を説明し，中学生の手によって各自の家庭に持ち帰えられ，サンプルの直接記入によった。

調査票の回収率および有効回答数は次のようであった。

ここに報告するのは，回答者837名中，農家だけ347名をとりだし，そのうちの有効回答者317名，つまり調査地区中の農家の91.3%回答を基礎としたものである。

調査票回収率及び有効回答数

	配布数	回収数	農家数	有効数	有効%
(1)長岡地区	250	237	34	30	88.2
(2)六日町地区	250	211	141	129	91.5
(3)出雲崎地区	200	195	4	0	0
(4)岩室地区	200	194	168	158	94.0
(5)　計	900	837	347	317	91.3

Ⅲ．調査地域の概要

(1)　長岡市

新潟県のほぼ中央にあって東方は山地部，西方は丘陵部となっており，その間にはさまれた中心部は信濃川に沿って平野部をつくっている。人口および経済活動の面からも県下第2位の都市として新潟県の産業面に大きな役わりを果している。市の中央部には多数の鉄工業，機械工業等の工場があり，周辺部は農村地区となっている。

市の世帯数を職業別にみると，農業7752，工業1110，商業3285，勤労14,195，その他1391世帯となっている。

(2)　六日町

東部一帯は群馬県に接し，2000メートル級の高峻な山岳地帯で，ほとんど未開発のまま残され，町の西寄りに魚野川が南北に流れており，この沿岸の平坦地を耕地として米，野菜等を栽培している。

職業別世帯数は，農業2809，商業640，工業501，勤労462，漁業5，その他274となっている。

(3)　岩室村

西蒲原郡西方にあって日本海に接し，古くから農業，

---

* A Survey of Reading in Rural Areas of Niigata Prefecture

** Masai Watanabe (The Niigata Public Library)

漁業を主体とする生産で生活してきている。

世帯の職業は，農業588，商業109，工業27，漁業97勤労206，その他351となっている。

(4) 出雲崎

有効調査票中に農家がないため省略する。

Ⅳ．サンプルさんの構成

有効調査票317枚について調べたサンプルの構成は次のようである。

サンプルの構成

(1) 年齢別

地区 / 性 / 年齢	長岡 男	長岡 女	六日町 男	六日町 女	岩室 男	岩室 女	計 男	計 女	% 男	% 女	合計 実数	合計 %
(1)20～29歳	3	1	15	5	32	13	50	19	22.8	19.4	69	21.8
(2)30～39歳	0	0	9	5	17	8	26	13	11.9	13.3	39	12.3
(3)40～49歳	9	8	34	12	37	19	80	39	36.5	39.8	119	37.5
(4)50歳以上	5	3	29	4	28	4	62	11	28.4	11.2	73	23.0
(5)無記入	1	0	0	16	0	0	1	16	0.4	16.3	17	5.4
(6) 計	18	12	87	42	144	44	219	98	100.0	100.0	317	100.0
(7)合計	30		129		158		317					

(2) 学歴別

地区 / 性 / 学歴	長岡 男	長岡 女	六日町 男	六日町 女	岩室 男	岩室 女	計 男	計 女	% 男	% 女	合計 実数	合計 %
(1) 9年以下	14	8	68	26	84	31	166	65	75.8	66.3	231	72.9
(2)10～12年	4	3	7	3	18	4	29	10	13.2	10.2	39	12.3
(3)13年以上	0	0	3	1	2	2	5	3	2.3	3.1	8	2.5
(4)無記入	0	1	9	12	10	7	19	20	8.7	20.4	39	12.3
(5) 計	18	12	87	42	144	44	219	98	100.0	100.0	317	100.0
(6)合計	30		129		158		317					

(1)年令別　年令的には40～49歳が37.5%で最も高く次で50歳以上23.0%，20～29歳21.8%，30～39歳12.3%の順となっている。即ち農業経営の中心的な人が割あいに多くなっている。なお年令無記入が5.4%あった。

(2)学歴別　学校教育9年（小学，高小，新制中）までというのが231名（72.9%）で圧倒的に多く，次で10～12年（旧制中，新制高）が12.3%となり，13年以上（新制大，旧専，旧制高，旧制大）は僅かに2.5%に過ぎない。この学歴を前年の調査ならびに昭和34年8月家の光協会が全国的に行った調査と比べてみると次のようである。即ち本県農民の学歴が全国水準に比べてまだ少し低いところに位置していると思われるのである。

(3)性別　男性219名（69.1%），女性98名（30.9%）である。

(3) 学歴における全国平均と新潟県との比較　(%)

	全国平均	新潟33年	新潟34年
(1) 9年まで	72.0	74.8	72.9
(2)10～12年	23.6	14.9	12.3
(3)13年以上	3.4	2.8	2.5
(4)無記入		7.5	12.3

（全国平均は昭34年8月家の光協会の調査したものである）

Ⅴ．調査結果の分析

1．読書環境

読書の興味をわかすには2つの要因が必要であるとされている。即ち読書資料が手近かにあるということ（Accessibliity）と，そしてそれが読めるものであること（Readability）とである。したがって地方住民の読書意欲を刺戟するような要因としての読書環境はどんなであろうか。それについて次のような調査を試みた。

a．施設

(1)質問……あなたの家の近くに（歩いて10分以内のところ）図書館，公民館，学校図書館，書店，貸本屋などがありますか。

(1) 図書館（%）

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)ある	3.3	0	0	1.1	143
(2)ない	53.4	28.7	57.0	46.3	108
(3)地区にない	20.0	52.7	21.5	31.5	65

(4)無　記　入	23.3	18.6	21.5	21.1	
(5)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

これにたいする回答は前のようである。

調査地区では，長岡市旧市内中央部に市立図書館五尊文庫があるだけで，他の地区にはない。また六日町，岩室の両地区に隣接して他市町村に公共図書館のあるところはない。五尊文庫は蔵書43,900冊，図書購入費130万円，職員14名をもち，昭和27年から自動車文庫によって周辺の農村部にサービスしており，地方市立図書館としては上位にある図書館である。したがって，この質問にたいする回答で，「ある」が長岡地区の3.3%，だけで，その他の地区では「ない」「地区にない」という回答がでるのである。またこの調査のうち「無記入」は当然「ない」という表現とみてよいであろう。

(2) 公 民 館（%）

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)あ　る	63.4	11.6	41.2	38.7	99
(2)な　い	23.3	48.1	46.8	39.4	143
(3)地区にない	0	24.0	5.7	9.9	40
(4)無　記　入	13.3	16.3	6.3	12.0	35
(5)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

公民館は地方町村では唯一の社会教育施設である。図書を背景とした活動は不十分ではあるが，その他の面では相当広く活動している。公共図書館に比べ公民館は町村合併以前から市町村単位に置かれているため相当の数をみるのであるが，それでもまだ歩いて10分以内のところには「ない」とか「地区にない」とかというのが49.3とほぼ半数もでている。

(3) 学 校 図 書 館（%）

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)あ　る	6.7	37.2	18.4	20.9	79
(2)な　い	43.3	32.6	54.4	43.4	141
(3)地区にない	16.7	19.4	5.1	13.7	38
(4)無　記　入	33.3	10.8	22.1	22.1	59
(5)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

学校は農村における重要な文化機関であり，その施設は地域住民に開放さるべきものであるため，これについて調べてみた。「ある」というものは20.8%で，「ない」「地区にない」が57.1%となっている。

(4) 書　店（%）

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)あ　る	20.0	0.8	0.6	7.1	8
(2)な　い	36.7	43.4	53.8	44.6	152
(3)地区にない	20.0	38.0	20.9	26.3	88
(4)無　記　入	23.3	17.8	24.7	21.9	69
(5)　計	100.0	100.0	100.0	99.9	317

書店が近くにあるというのは，長岡市の農村部だけで，他地区はいうに足らない。

(5) 貸 本 店（%）

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)あ　る	20.0	0	2.5	7.5	10
(2)な　い	40.0	39.5	46.9	42.1	137
(3)地区にない	20.0	41.1	25.3	28.8	99
(4)無　記　入	20.0	19.4	25.3	21.6	71
(5)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

貸本屋のばあいも書店と同様に長岡市の農村部の20.0%が高く，他地区では全くこれにも恵まれていない。

以上(イ)—(ホ)までを綜合してみると次のようである。

(6) (1)〜(5)の綜合

	ある	ない	地区にない	無記入
(1)図　書　館	1.1	46.3	31.5	21.0
(2)公　民　館	38.7	39.4	9.9	12.0
(3)学校図書館	20.8	43.4	13.7	22.1
(4)書　店	7.1	44.6	26.3	21.9
(5)貸　本　店	7.5	42.1	28.8	21.6
(6)平　均	15.5	43.2	22.0	19.7

前表のように図書に関係ある施設が近くにあるというのは15.5%で，他は遠距離か，あるいは地区内にはないといっている。つまり Accessibility が不十分な状態にあるのである。

b．家庭環境

家庭環境については，家庭内の蔵書数，図書，新聞および雑誌の購入費，ならびに新聞，雑誌の定読について調べた。

(1) 家庭の蔵書数

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1) 30 冊 以 内	43.3	59.7	66.4	56.5	195
(2) 31 ～ 50 冊	20.0	10.9	13.3	14.7	41
(3) 51 ～ 100 冊	6.7	7.0	6.3	6.6	21
(4) 101～200 冊	3.3	0.8	2.5	2.2	6
(5) 200 冊 以 上	0	0.8	3.8	1.5	7
(6) 無 記 入	26.7	20.8	7.7	18.4	47
(7) 計	100.0	100.0	100.0	99.9	317

家庭における蔵書は，雑誌や教科書を除いてその所蔵30冊以内というのが半数以上の56.5%あり，31冊以上の所蔵は合計25.0%となっている。またこの調査に現われた「無記入」というのも恐らく冊数調査の煩雑さのために記入しないというよりもむしろ所蔵しないために記入しなかったとの疑いがもたれる。

(2) 雑誌の定読

家庭における読書資料のひとつとして雑誌は価格の点，内容の Variety に富むこと，そして記事の新鮮さからみて，新聞と共に最も手がるな読書資料と考えられる。

(2) 雑誌の定読

	全サンプル数	定読者(%)	定読者数	不定読者(%)	不定読者数
(1) 長 岡	30	63.4	19	36.6	11
(2) 六 日 町	129	48.9	63	51.1	66
(3) 岩 室	158	68.3	108	31.7	50
(4) 計	317	60.0	190	40.0	127

(註 不定読者には調査項目無記入者をあてた)

この調査に現われた定読数は前表のようである。

これを家の光協会で調査した農家の全国平均(53.9%)と比べると，新潟県では少しく高率になっている。これを分類別地区別に見ると次表のようである。即ち農家であるために農業関係法の購読は圧倒的に高く，40.8～63.4%を占めている。次で娯楽誌，週刊誌，婦人誌となっている。また子どものための雑誌の購読も相当に高い。

(2)—(a) 分類別地区別雑誌定読数

	長 岡		六日町		岩 室		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
(1)農業誌	11	40.8	33	63.4	87	60.9	131	59.0
(2)教養誌	0	0	2	3.9	6	4.1	8	3.6
(3)婦人誌	2	7.4	0	0	14	9.8	16	7.2
(4)娯楽誌	5	18.5	13	25.0	20	14.0	38	17.1
(5)週刊誌	8	29.6	2	3.9	10	7.0	20	9.0
(6)専門誌	0	0	1	1.9	3	2.1	4	1.8
(7)修養誌	1	3.7	1	1.9	3	2.1	5	2.3
(8)(成人誌) 計	27	100.0	52	100.0	143	100.0	222	100.0
(9)子ども誌	8		19		31		58	
(10)(8)+(9) 計	35		71		174		280	
(11)購読戸数	19		63		108		190	
(12)(10)／(11) 冊	1.8		1.1		1.6		1.4	

これを娯楽誌と非娯楽誌とに分けると次のようである。

定読誌における娯楽誌と非娯楽誌

	長 岡		六日町		岩 室		計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
(1)娯楽誌	5	14.2	13	18.3	20	11.5	38	13.6
(2)非娯楽誌	22	62.8	39	54.9	123	70.7	184	65.7
(3)子ども誌	8	23.0	19	26.8	31	17.8	58	20.7
(4) 計	35	100.0	71	100.0	174	100.0	280	100.0

これは前年の調査娯楽誌22.4%，非娯楽誌69.0%，子ども誌8.5%，よりは娯楽誌の読まれ方がほぼ半数近く低くなっており，また子ども誌は2倍以上に高くなっている。このように娯楽誌の減少は，他方公共図書館の館内利用の漸減傾向等から思い合わせると，読書というような抵抗の多い娯楽よりも現に増加しつつあるテレビやラジオ等の抵抗の少い娯楽に赴く結果によるものであろうと思われるのである。定読雑誌中多く読まれているもの10位まであげると右のようになる。

(2)—(b) 定読雑誌ベストテン

順位	誌名	実数	%
1	家の光	109	49.1
2	平凡	21	9.5
3	明星	12	5.4
4	農業世界	9	4.1
5	週刊朝日	8	3.6
6	週刊サンケイ	7	3.2
7	主婦の友	6	2.7
8	文芸春秋	5	2.3
9	富民	4	1.8
〃	農業文化	4	1.8
10	主婦と生活	3	1.4
	計	188	84.9

家の光協会調査ベストテン

順位	誌名	%
1	家の光	24.5
2	週刊朝日	6.1
3	平凡	5.1
4	婦人生活	3.0
5	サンデー毎日	2.9
6	文芸春秋	2.7
7	主婦の友	2.6
8	明星	2.0
9	婦人倶楽部	2.0
10	地上	1.9

ベスト・テンを家の光協会調査のものと比べると，新潟県は「家の光」誌は全国平均より遙かに高率に普及している。またベスト・テン中に農業3種があがっている。

(3) 新聞の定読

調査項目に記入しないものを不購読とみなしたばあい，この不購読は雑誌のばあいよりも遙かに低率で，全体として6.0%に過ぎない。不購読の最も高いのは山間部農村の六日町の10.8%で，平地農村岩室の2.5%が最も低い。前年の調査では山間農村が11.8%，平地農村1.8%の不購読で，だいたいそれに近い。

銘柄別にみると，地もとの新潟日報は44.9%と極めて高く，次で読売(17.2%)毎日(14.7%)産経(4.2%)朝日(3.2%)となっている。また農業関係新聞17部(4.7%)読まれている。

	長岡	六日町	岩室	計	%
(1)新潟日報	14	26	122	162	44.9
(2)読売新聞	8	49	5	62	17.2
(3)毎日新聞	4	34	15	53	14.7
(4)産経新聞	1	5	9	15	4.2
(5)朝日新聞	2	6	4	12	3.2
(6)その他の中央紙	0	2	2	4	1.1
(7)農業関係紙	0	8	9	17	4.7
(8)その他の新聞	3	3	30	36	10.0
(9) 計	32	133	196	361	100.0
(10)無記入	1	14	4	19	
(11)サンプル数	30	129	158	317	
(12) (10)/(11)	3.3	10.8	2.5	6.0	

c. 読書資料購入費

図書，雑誌および新聞の購読費(月額)の支出は次のようである。

(1) 図書費

(1) 図書費(%)

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)100円以内	13.3	17.8	22.8	18.0	63
(2)200円以内	20.0	14.0	17.8	17.3	52
(3)300円以内	6.7	5.4	7.7	6.6	21
(4)500円以内	0	2.3	6.3	2.9	13
(5)800円以内	0	1.6	0.6	0.7	3
(6)1000円以内	0	0.8	1.2	0.7	3
(7)1000円以上	0	0	0	0	0
(8)全然もたない	0	7.8	1.9	3.2	13
(9)無記入	60.0	50.3	41.7	50.6	149
(10) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

図書費の支出についての無記入は50.6%の多きにのぼっている。これを新聞，雑誌のばあいと比べてみると，この無記入は経常的に図書費を持たないと見てもよいのではないかと思う。支出は月額100円以内が18.0%で最も高く，次で200円以内の17.3%となっている。

(2) 雑 誌 費

(2) 雑 誌 費 (%)

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)100 円 以 内	20.0	25.6	24.7	23.4	78
(2)200 円 以 内	36.7	21.6	36.0	31.4	96
(3)300 円 以 内	3.3	8.5	11.4	7.7	30
(4)500 円 以 内	3.3	3.9	5.7	4.3	15
(5)800 円 以 内	0	0.8	1.9	0.9	4
(6)1000 円 以 内	0	0.8	0.6	0.5	2
(7)1000 円 以 上	0	0	0	0	0
(8)全然もたない	0	7.0	0.6	2.5	10
(9)無 記 入	36.7	31.8	19.1	29.3	82
(10) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

雑誌費の支出は月額200円以内が最も多く，次で100円以内が23.4%となっている。雑誌費についての無記入は図書費のばあいよりも遙かに少くなっている。

(3) 新 聞 紙 費

(3) 新 聞 紙 費 (%)

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)100 円 以 内	3.3	3.1	1.9	2.8	8
(2)200 円 以 内	6.7	2.09	8.3	12.0	42
(3)300 円 以 内	73.3	51.9	67.6	64.2	196
(4)500 円 以 内	3.3	8.5	12.0	7.8	31
(5)800 円 以 内	0	1.6	3.2	1.5	7
(6)1000 円 以 内	0	0	0.6	0.2	1
(7)1000 円 以 上	0	0	0.6	0.2	1
(8)全然もたない	0	4.7	0	1.5	6
(9)無 記 入	1.44	9.3	5.8	9.8	25
(10) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

新聞のばあい月額300円以内が最高である。新聞1紙代に相当する。

2．読書資料の入手

最近1カ年に読書したと回答した人は単行本で182名(57.4%)，雑誌で193名(60.9%)であるが，これらの人は読書資料をどこから入手したか。それについて次の8項目を調べてみた。

(1) 家にあった　(5) 学校図書館から
(2) 買った　(6) 貸本屋から
(3) 図書館から　(7) 他の人から
(4) 公民館から　(8) その他から

その結果は次のようであった。

(1) 図 書

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)家にあった	14.8	21.5	15.2	17.2	88
(2)買 っ た	23.9	21.5	19.2	21.5	103
(3)図書館から	3.8	1.0	0	1.6	4
(4)公民館から	7.5	7.0	20.1	11.5	68
(5)学校図から	5.6	7.5	4.9	6.0	30
(6)貸本屋から	9.3	0	2.0	3.7	10
(7)友人から	18.5	16.0	18.9	17.5	88
(8)そ の 他	1.8	2.0	0.8	1.5	8
(9)無 記 入	14.8	23.5	18.9	19.5	101
(10) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	499

図書では買ったとするものが21.5%で最高，次で友人から借りる(17.8%)，家にあった(17.2%)，公民館から(11.5%)，学校図書館から(6.0%)，貸本屋から(3.8%)，図書館(1.6%)，その他(1.5%)の順である。

これにたいし雑誌の入手は，買ったというのが42.0%となって頗る高率である。雑誌は金額，内容，その他からみて単行本よりも買い易いせいもあろう。次で友人から借りた(18.2%)となり，第3位は家にあった(13.5

(2) 雑 誌

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)家にあった	13.6	14.8	12.1	13.5	58
(2)買 った	43.2	37.6	45.1	41.9	182
(3)図書館から	0	0	0	0	0
(4)公民館から	2.3	1.1	3.3	2.1	10
(5)学校図から	0	1.1	0.4	0.5	3
(6)貸本屋から	6.8	1.1	1.9	3.2	9
(7)友人から	15.9	21.6	17.2	18.2	82
(8)その他	2.3	1.7	2.3	2.4	9
(9)無 記 入	15.9	21.0	17.7	18.2	82
(10) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	435

%）となり，以下貸本屋（3.3%），その他（2.1），学校図書館（0.5%）となって図書館の利用は皆無となっている。

家の光協会昭和34年8月の調査によると，図書の購入は51.4%，雑誌の購入は84.2%となっている。新潟県の前者が21.5%，後者の42.0%と比べると，新潟県の購入率が全国平均の半数以下ということになっている。

3．読書状況

(1)最近1カ年に読んだ冊数（図書）

サンプル317名に過去1カ年に読んだ図書の冊数を書いてもらった。これによると無記入は平均44.8%ある。これは読まなかった人たちと考えられる。前回50.0%のよりは少しく低くなっている。したがって，下表は住民

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)5 冊以内	13.4	17.8	18.3	16.5	56
(2)6 ～ 10 冊	20.0	11.6	12.0	14.5	40
(3)11 ～ 15 冊	0	8.5	5.1	4.5	19
(4)16 ～ 25 冊	13.4	7.0	12.0	10.8	32
(5)26 ～ 35 冊	0	2.3	5.8	2.7	12
(6)36 ～ 50 冊	0	3.1	5.8	3.0	13
(7)51 ～ 70 冊	0	1.6	0.6	0.7	3
(8)71 ～ 100 冊	3.3	0.8	1.9	2.0	5
(9)100 冊以上	0	0.8	0.6	0.5	2
(10)無 記 入	49.9	46.5	37.9	44.8	135
(11) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

の，長岡では50.1%，六日町では53.5%，岩室では62.1%が，過去1カ年に何冊読んだかという調べとなるのである。この表に現われた読書率は家の光協会の37.1%よりは高率である。

地区別にみると，都会から遠い岩室地区が不読が少く，都市に含まれている農村地区では不読者が多くなっている。これは恐らく他の娯楽機関の影響もあろうと考えられる。読書冊数では，年間5冊以内というのが16.5%で最高，次に6～10冊が14.5%となり，16～25冊が10.8%で第3位となっている。

(2) 同 上（雑誌）

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)1 冊	16.7	16.2	14.6	15.8	49
(2)2 冊	16.7	10.0	17.8	14.9	46
(3)3 冊	6.6	7.8	13.9	9.4	34
(4)4 ～ 5 冊	16.7	9.3	13.3	13.1	38
(5)6 ～ 7 冊	0	1.6	1.9	1.2	5
(6)8 ～ 10 冊	0	4.7	1.9	2.2	9
(7)11 冊以上	0	6.2	2.5	2.9	12
(8)無 記 入	43.3	44.2	34.1	40.5	124
(9) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

最近1カ月に雑誌を読んだ人は193名，59.5%で，図書のばあいよりもやや高い。地区別にみると，長岡56.7%，六日町55.8%，岩室65.9%が雑誌を読んでいることになる。これも全国平均53.9%よりは少しく高くなっている。冊数の点からみると月間の読書冊数1冊というのが最も高く15.8%，次で2冊が14.9%でこれらを合

わせると30.7%が2冊以内となっている。4～5冊は第3位で，13.1%を占めている。

4．読書の目的

(1) 図書のばあい

図書を読む目的をみると，職業上の必要からというのが19.1%で最高を占めている。次で趣味・娯楽（18.8%），教養のため（17.4%），職業上ではないが，他の実用的目的からというのが10.6%となっている。また学術的な研究のためというのが5.6%，子どものためが6.4%ある。これを更によくみると，趣味や娯楽のための読書は長岡や六日町というような市街地のある農村地区よりも，純農村である岩室村に高い。これに反し，学術研究的な読書は純農村には低くなっている。ひとつの特色であろう。

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)職業上	19.5	18.1	19.8	19.1	88
(2)実用上	11.1	10.5	10.1	10.6	48
(3)教養	19.5	15.3	17.3	17.4	77
(4)趣味・娯楽	16.7	16.4	23.2	18.8	92
(5)学術・研究	5.5	8.0	3.4	5.6	25
(6)子どもの学習	2.7	9.0	7.6	6.4	36
(7)その他	0	2.1	2.5	1.5	10
(8)無記入	25.0	20.6	16.1	2.06	85
(9)計	100.0	100.0	100.0	100.0	461

(2) 雑誌のばあい

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)職業上	9.3	14.8	17.4	13.8	69
(2)実用上	7.0	4.7	9.6	7.1	33
(3)教養	11.6	7.1	7.0	8.6	33
(4)趣味・娯楽	39.5	45.0	43.5	42.7	193
(5)学術・研究	4.6	1.2	3.0	2.9	11
(6)子どもの学習	7.0	5.3	6.5	6.3	27
(7)その他	2.3	4.7	2.6	3.2	15
(8)無記入	18.7	17.2	10.4	15.4	61
(9)計	100.0	100.0	100.0	100.0	442

雑誌のばあいは，趣味・娯楽を目的とするのが高く42.8%となっている。農家における図書購読態度と雑誌購読態度の根本的な相違がこのへんに感じられるのである。次に職業上の目的からが第2位13.8%となり，学術研究のためというのが2.9%と下っている。これを地域的にみるならば，市街地から遠いところ，つまり文化機関に比較的遠いところにある純農村では職業上の知識を雑誌に求めようとしているように思われるのである。

5．好んで読む新聞記事

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)小説	10.0	6.7	9.9	8.9	91
(2)社説	13.0	11.2	12.2	12.2	125
(3)家庭欄	14.0	9.5	10.5	11.3	110
(4)広告	3.0	2.3	2.1	2.5	24
(5)評論・寸評	2.0	3.0	2.6	2.5	29
(6)スポーツ記事	4.0	7.0	7.4	6.1	73
(7)社会面	11.0	9.5	12.9	11.1	120
(8)学芸欄	1.0	1.9	1.3	1.4	16
(9)投書	4.0	3.9	4.2	4.0	43
(10)映画・演劇	4.0	3.9	3.1	3.7	37
(11)経済	6.0	7.4	3.4	5.6	56
(12)気象通報	8.0	6.5	6.3	6.9	69
(13)漫画	3.0	2.1	1.7	2.3	21
(14)政治	15.0	13.2	9.7	12.6	123
(15)ラジオ番組	2.0	8.2	8.7	6.3	83
(16)特別欄	0	1.6	2.9	1.5	22
(17)その他	0	0	0.2	0.1	1

⒅無　記　入	0	2.1	0.9	1.0	14
⒆　計	100.0	100.0	100.0	100.0	1057

新聞記事にたいする無回答は1.0％と極めて少い。一般に好んで読む記事は政治記事で12.6％，次で社説（12.2％），家庭欄（11.3％），社会面（11.1％）となっている。しかし純農村では社会面にたいする関心が最も高く，政治面は第4位にきている。またどの地区でも学芸欄にたいする関心度は1.0～1.9％で下位になっている。

6．読書時刻と時間

(1) 時　刻

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)朝食前後	10.0	13.4	5.7	9.6	34
(2)昼食前後	10.0	12.2	16.5	12.9	49
(3)夕食前後	20.0	23.2	24.1	22.5	82
(4)ねるまでの間	46.6	37.8	39.9	41.4	139
(5)床の中	6.7	6.1	9.4	7.4	27
(6)無　記　入	6.7	7.3	4.4	6.2	21
(7)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	352

読書時刻は夕食後寝るまでの間が最も多く41.4％，次で夕食前後が22.5％となり，時間は1時間以内というのが最も多く，次が30分以内となっている。

(2) 時　間

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)30分以内	23.3	31.0	29.1	27.8	93
(2)1時間以内	30.0	38.8	44.9	37.9	130
(3)2時間以内	20.0	15.5	13.4	16.3	47
(4)3時間以内	3.3	3.1	2.5	3.0	9
(5)3時間以上	6.7	0.7	0.6	2.7	4
(6)無　記　入	16.7	10.9	9.5	12.3	34
(7)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

Ⅵ．読書以外の娯楽

農村における読書以外の娯楽は専らラジオ（77.0％）に傾いている。〔註：調査当時はまだテレビが普及していなかったため，テレビをたまに見るというのが56.3％となっている〕また好んで聞く番組は芸能プロが27.3％で最高であり，次にニュース（19.2％），気象通報（18.6％）となっている。また社会・教養は第4位となり，教育プロは最も低い。

(1) 映　画

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)月5回以上	3.3	0.8	0	1.3	2
(2)月4回	0	1.6	1.3	1.0	4
(3)月3回	6.7	5.4	8.8	7.0	23
(4)月2回	6.7	13.2	21.5	13.8	53
(5)月1回	20.0	17.1	18.3	18.5	57
(6)あまり見ない	36.6	48.1	34.8	39.8	128
(7)一度も見ない	20.0	7.7	12.7	13.5	36
(8)無　記　入	6.7	6.1	2.6	5.1	14
(9)　計	100.0	000.0	100.0	100.0	317

(2) レコード・コンサート

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)よくいく	0	1.6	1.9	1.2	5
(2)たまにいく	10.0	7.0	9.6	8.9	27
(3)全くいかない	80.0	67.4	71.4	72.9	224
(4)無　記　入	10.0	24.0	17.1	17.0	61
(5)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

(3) 演　劇

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)よくいく	0	0.7	2.5	1.1	5
(2)たまにいく	46.6	34.9	29.2	36.9	105
(3)全くいかない	43.4	41.1	51.8	45.4	148
(4)無　記　入	10.0	23.3	16.5	16.6	59
(5)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

(4) ラジオ

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)よくきく	86.6	71.3	72.7	77.0	233

(2)たまにきく	6.7	20.2	22.8	16.5	64
(3)全くきかない	0	2.3	2.5	1.5	7
(4)無　記　入	6.7	6.2	2.0	5.0	13
(5)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

(5) テレビ

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)よくみる	3.3	1.6	13.3	6.1	24
(2)たまにみる	43.4	56.6	68.9	56.3	195
(3)全くみない	43.4	27.8	13.3	28.2	70
(4)無　記　入	9.9	14.0	4.5	9.4	28
(5)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

(6) 好んで聞く番組

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)芸　能	29.5	24.3	27.8	27.3	161
(2)教　育	4.9	3.9	3.0	3.9	21
(3)社会・教養	16.4	16.0	11.9	14.8	83
(4)ニュース	18.0	19.0	20.3	19.2	119
(5)スポーツ	6.5	12.1	14.0	10.9	76
(6)気象通報	19.8	16.5	19.7	18.6	112
(7)無　記　入	4.9	7.8	3.3	5.3	30
(8)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Ⅶ. 余暇の利用

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)読　書	8.9	5.0	3.3	5.7	29
(2)軽読書	25.0	19.8	20.8	21.9	131
(3)映画・演劇	5.4	4.7	10.1	6.7	46
(4)音　楽	0	1.1	0.3	0.5	4
(5)ラジオ・テレビ	5.4	12.6	10.1	9.4	68
(6)スポーツ	3.6	1.8	2.0	2.5	13
(7)旅行・ハイキング	3.6	0.4	0	1.3	3
(8)釣　魚	0	0.4	1.0	0.5	4
(9)囲碁・将棋	0	1.1	3.4	1.5	14
(10)洋　裁	1.8	3.2	5.0	3.3	25
(11)家事雑用	17.8	16.2	16.8	16.9	105
(12)雑　談	8.9	9.2	8.4	8.8	55
(13)子どもと遊ぶ	1.8	1.1	3.0	2.0	13
(14)休　養	8.9	11.6	9.1	10.0	64
(15)その他	1.8	7.3	1.7	3.5	26
(16)無　記　入	7.1	4.7	5.0	5.5	32
(17)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	632

(註：軽読書とは，新聞，雑誌を読む程度を指したものである)

われわれは常に余暇の効果的利用を願い，それを奨励している。そのたちばから余暇の利用について調べてみると，最も多いのは新聞雑誌を読む程度（21.9%）で，次で家事雑用（16.9%），休養（10.0%）となっておる。

Ⅷ. 読書に関係ある機関の利用

図書館，公民館，学校図書館等のほかに，書店および貸本屋の利用について調査した。次のようである。

(1) 図書館

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)いつも	0	0	0	0	0
(2)ときどき	6.7	0.8	5.1	4.2	11
(3)ほとんどない	20.0	10.9	13.9	15.0	42
(4)一度もない	43.3	58.1	53.2	51.5	172
(5)無　記　入	30.0	30.2	27.8	29.3	92
(6)　計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

図書館を一度も利用しなかったというのが51.5%を占めている。「ときどき」利用する点で長岡が他にくらべて少し高いのは，市内に公共図書館があるほかに，自動車文庫が巡回しているためであろう。何れにしても常に利用しているというのはない。

(2) 公民館

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)いつも	3.3	0.8	7.6	3.9	14

(2)と き ど き	30.0	8.5	34.8	24.4	75
(3)ほとんどない	10.0	18.6	18.4	15.6	56
(4)一度もない	33.3	43.4	24.0	33.6	104
(5)無 記 入	23.7	28.7	15.2	22.5	68
(6) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

公民館が近くにあるというものは，38.7%を占めているが常時利用しているものは3.9%，ときどき利用するのが24.4%，合わせて28.3%は近くにあるために利用しているのであろう。

(3) 学校図書館

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)い つ も	0	1.6	0	0.5	2
(2)と き ど き	6.7	11.6	5.2	7.8	25
(3)ほとんどない	13.3	17.8	15.8	15.6	52
(4)一度もない	40.0	43.4	46.8	43.4	142
(5)無 記 入	40.0	25.6	32.2	32.6	96
(6) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

学校図書館の図書を利用するのは8.3%で極めて低い。

(4) 書 店

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)い つ も	6.6	2.3	2.5	3.8	9
(2)と き ど き	26.7	26.4	22.2	25.1	77
(3)ほとんどない	20.0	11.6	13.9	15.2	43
(4)一度もない	20.0	32.6	34.2	28.9	102
(5)無 記 入	26.7	27.1	27.2	27.0	86
(6) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

書店の利用は平均して28.9%となっている。地区別には長岡市が高く，純農村の岩室は低い。

(5) 貸 本 店

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)い つ も	3.3	0	1.3	1.5	3
(2)と き ど き	16.7	0	4.4	7.0	12
(3)ほとんどない	20.0	10.0	13.3	14.4	41
(4)一度もない	33.3	43.5	51.2	42.7	160
(5)無 記 入	26.7	46.5	29.8	34.4	101
(6) 計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

貸本屋のあるところでは多少利用されているが，近くにないという六日町ではほとんど利用されていない。

Ⅺ. 図書館や公民館の利用

図書館の機能や業務についてどの程度理解し利用しているかについて次のように調べてみた。

(1)質問—図書館では無料で個人や団体に本を貸出すことをあなたは知っていますか。

(1) 図書館・公民館の利用

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)知っているが利用したことない	66.7	49.6	48.7	55.0	161
(2)知 ら な い	3.3	27.1	17.7	16.0	64
(3)利用したことがある	20.0	14.0	29.2	21.1	70
(4)無 記 入	10.0	9.3	4.4	7.9	22
計 (5)	100.0	100.0	100.0	100.0	317

この問にたいする回答は上記のようであった。問にたいして「知らない」と答えたものは僅かに16.0%，無記入と合わせて23.9%となっている。知らないというのは山間農村部の21.1%，次で平地農村の17.7%となって，長岡地区では僅かに3.3%に過ぎない。つまり図書館のP.R.はひととおり行き渡っていると考えられるのである。そしてサンプルさ半数以上（55.0%）は，図書館のこのような働きは知ってはいるが，利用したことがないといっている。

しかしここで一応問題となるのは，「知っているが利用したことがない」という55.0%の人たちであろう。

(2)質問—図書館には読書相談係というものがあって，手紙，電話，口頭などで依頼すれば読書や調査の相談に応じてくれるのを知っていますか。

(2) 読書相談

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)知っている	36.7	28.7	35.5	33.6	104
(2)知らない	50.0	53.5	50.0	51.2	163
(3)依頼したことある	0	4.6	6.3	3.6	16
(4)無記入	13.3	13.2	8.2	11.6	34
(5)計	100.0	100.0	100.0	100.0	317

読書相談については半数の51.2%にはまだ知られてはいない。「知っている」が33.6%,「依頼したことがある」が3.6%, 合わせて37.2%は知っている。これによってみると, 30.0%は知ってはいるが依頼した経験をもたないことになる。

(3)質問—図書館や公民館を一度も利用しない方はその主な理由を○でかこんで下さい。

(3) 利用しない理由

	長岡	六日町	岩室	平均	実数
(1)方法を知らない	7.3	3.1	3.2	4.5	16
(2)読みたい本がない	4.8	4.1	5.1	4.7	21
(3)手続きがめんどうだ	0	4.7	5.1	3.3	20
(4)ひまがない	31.7	33.7	31.5	32.3	146
(5)遠い	34.2	38.3	18.1	30.2	127
(6)入りにくい	0	2.6	4.6	2.4	15
(7)せまい	0	0	1.4	0.5	3
(8)その他	0	2.6	2.3	1.6	10
(9)無記入	22.0	10.9	28.7	20.5	92
(10)計	100.0	100.0	100.0	100.0	450

上記の質問にたいする回答は左表のようにでてきた。最も多い理由は「ひまがない」(32.3%)「遠い」(30.2%)で, この2つが前記の知っていても利用しない最大原因と思われるのである。

文　献

(1)渡辺正亥・星名孝平　新潟地方における読書実態調査について（図書館学会年報6巻　1号　昭和34年6月）

(2)渡辺正亥　成人の読書目的について——新潟県における調査例——（神奈川県図書館学会誌　第7号　昭和34年3月）

農村の生活費よりみた文化教養費支出の特質について*

——特に図書費を中心として——

鹿児島大学農学部　中　野　哲　二**

私達がマスコミ問題を中心として農村をみる場合，マスコミは農村にも多くの影響を与え，村の生活と文化を動かす大きな力となって流れている事は見逃すわけにはゆかない。

然しながら一方で，農村に対して，マスコミュニケーションの砂漠という表現がなされている。何れにしても，このようなマスコミを中心として，その対象を農家において雑誌及び書籍に関する支出を中心として，その特性を把握しようとしたのがこの報告の狙いである。しかし，その農村は日本全体というわけではなく，『明治維新とその後の日本を動かすのに有力な人々を生んだ』に拘らず，現在『日本の中でも貧しい方に属する県の一つ』（岩波写真文庫鹿児島県）である鹿児島の農村を対象として，その内容を分析しようとするものである。

1．鹿児島県の農家経済のあらまし

既に述べたように，本県は我が国で有数の貧乏県であるが，その事実は多くの資料によって理解する事が出来る。例えば，つぎに示す「経済企画庁」刊行の「国民生活の地域的分析」によると

・国民所得一人当り　最高東京都　(142,500円)
　　最低鹿児島県（48,700円）
・生活水準（全国水準100）　最高東京都　(190.6)
　　最低鹿児島県（66.3）

という状態であり，これらは他の資料によっても同様である。所がこの県民所得の低さは，『県民所得の低さと，農家戸数の多いこととが相関関係をもつこと』（細野重雄，農業総合研究第9巻3号）が重要な事実であるとされるが，このような点から本県の農家経済をみると，その平均経営規模56アールと全国平均より遙かに小さく，これに加えて自然的経済的条件の不利，就中相次ぐ台風襲来は，本県の農業を粗放，且収益少い農業としているといい得る。

これらの事情は第1表に掲げる通りであるが，このような経済基盤の上にたつ，農家の生活は当然手から口への自給農業等が多いことから苦しいものが多数を占めることはここで改めて申すまでもない。即ち，農家総所得においても，全国平均の70%程度にすぎず，しかもこの

第一表
昭和32年度農家経済調査による本県農家の所得

	全国 (5767戸)	鹿児島 (179戸)	本業の比率
農家総所得	365,918円	261,521円	71.4%
農業所得	192,713	152,840	79.6
農外所得	147,926	86,149	58.2
被贈扶助収入	25,279	22,532	89.2

ような事情から農家の経済の中で，農業所得のみで生計を賄い得る割合は65%にすぎず，農業のみでは到底生活を送る事が出来ず，農業以外の兼業収入に依存せざるを得ない。このような事情は，一方で，本県の農家を自給

* The Characteristic of the Cultural-Educational Expenses in Rural Districts

** Tetzuji Nakano, (Kagoshima University)

農家化し，商品経済より益々遠ざかしめる傾向をもつ。

このような農家経済の事情の下で，その生計費はどのような推移を示しているであろうか。ここでは，戦後の生計費の推移を，同様な資料によってみてゆこう。

この農家経済調査報告によれば，昭和24年当時，63%以上を占めたエンゲル系数は，現在55%に低下しており，この結果文化教養費支出が増加している事はいうまでもない。然しこのような生活費調査中の文化教養費支出は，これを戦前に比べると，著るしくその比率は増加し，現在の農家がマスコミや書物に接触する程度が増加している事が伺えるが，一方これを都市の支出と比較すると，絶対額においても，又比率においても未だ少額であると考えられる。

2．調査地の概要

以上大まかに，本県の農家経済特に生活費を中心として，その大要にふれた。そこで，いよいよこの報告の主題に入る事として，始めに，この資料取りまとめのための調査地をあらまし述べる事とする。ここでは，鹿児島県の農村を，農業経営形態から3種に区分した。それは即ち

商業作物地帯……西桜島村

畑 作 地 帯……阿久根市

水 田 地 帯……加治木町

であるが.夫々の地帯から夫々下記の一市町村宛を選び.その町村から更に一部落を選定した。今これらの代表町村の概況について，農業の概況を示してみると次の通りである。

◇人口（33.3.31）

	商	畑	田
男	3536人	19,642人	9,829人
女	3874	21,480	10,571
計	7410	41,122	20,400

◇戸　数

	商	畑	田
総　戸　数	1574	8529	4820
農　家　戸　数	1022	4232	2417
農家戸数比率	67%	50%	50%

◇耕地面積（ヘクタール）

	商	畑	田
水田	——	980.2	703.5
畑	614.9	1539.1	404.0
計	614.9	2519.3	1107.5

◇作付の多い作物

	商	畑	田
第一位	温州みかん 247ha	さつまいも 1215ha	こ　め 718ha
第二位	び　わ 82	はだかむぎ 1015	む　ぎ 494
第三位	なつみかん 76	こ　め 976	な た ね 287
第四位	さつまいも 60	こ む ぎ 475	緑肥作物 257
第五位	桜島みかん 58	飼料作物 176	だ い づ 158

◇経営規模別農家戸数

	商	畑	田
～30アール	365	1381	953
30 ～ 50	298	1595	572
50 ～ 100	432	311	702
100 ～ 150	85	68	160
150 ～ 200	16	6	27
200 ～	3	——	3
計	1199	5751	2417
1 戸 当 り	46 ア ー ル	44 ア ー ル	45 ア ー ル

そのうち調査地について，農業の特徴を簡単にふれてみると，

◇商品作物地帯（略号……商）

この西桜島村は，水田をもたず，村民は果樹及びそさ

いを主体として，例えば温州みかん，夏みかん，びわ，桜島大根を販売する事によって生計をたてているが，現在は桜島南岳が噴火中であり降灰の被害をうけている。一方で都市近郊地帯でもある。

◇畑作地帯（略号……畑）

阿久根市は，本県の北部に位置し熊本県に近く，純畑作地帯が多く，農業の主体は，サツマイモ，然し市内の一部には，水田地帯，ミカン地帯，漁業兼業地帯などをふくむ。

◇水田地帯（略号……田）

加治木町はかつての島津直轄地，鹿児島県で古くから栄えた町として知られるが，この町は明らかな，下場水田地帯と台地畑作地帯をもつ。この下場水田地帯は，干拓地をふくむ稲作を主体とする飯米農家の多い部落と，水田単作的農業を営む部落を含んでいる。

このような町村から，夫々30戸程度の部落を選定し，これらの農家について，過去一年間の生計費を中心として聴取り調査を実施した。夫々の調査部落は，不適格又は調査不能農家を除いて，集計の対象となったものは合計77戸であったが，これらは，大要次のようなものである。

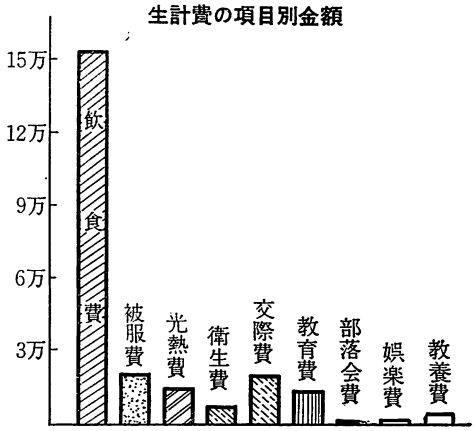
3．調査農家の生活費分析

先ず最初に，これら77戸の1年間の生活費の概要であるが，それは次の通りになる。

第二表 調査部落の大要

		商	畑	田
農家戸数	専業農家	15	14	9
	兼業農家	11	8	20
	計	26	22	29
一人戸当口	家族人員	7.3人	4.3人	4.7人
	農業従事者	3.0	2.4	1.9
経営規模別農家	50アール以下	7	8	19
	50～75アール	12	7	5
	75アール以上	7	7	5
	計	26	22	29
	一戸平均（アール）	64	65	43

最も比率の高いものは，申す迄もなく，飲食費64.3%，遙か下って被服費の9.1%であるが，この中で所謂，新聞，ラジオ，雑誌，書籍代をふくむ，文化教養費は，その割合は2.2%であり，さきの農家経済調査と殆んど一致している。又生活費の1カ年の総額は，次の図の通りであり，1年の生計費は24万円となっている。



さて，次にこのような，生活費，就中文化教養費が，農業経営形態別に，又経営規模別にどのような傾向をみせるかを考察したいのであるが，これらは表示するのを止めて，その特徴のみについてふれてみよう。そのうち第一に，地帯別にみた文化教養費は，商品作地帯に大きく，水田地帯之に次ぎ，畑作地帯が最も少いが，それはエンゲル系数の動向と相関をみせている。即ち，

	エンゲル系数	文化教養費支出額
・商品作地帯	57.6%	7,481円
・水田地帯	68.7%	4,509円
・畑作地帯	72.3%	3,104円

又これが，農業の発展の可能性との関連を示すものかどうか。というのは，商品作物中心の農業経営は，所謂商品生産という過程を通じて，生産又は販売を通して農

民の頭脳の訓練を可能とし，又自給畑作中心では，その農業が粗放作物且飯米自給を中心とするため，所謂勉強を必要とせずと農民に勉学意慾を喪失せしめるような農業とならざるを得ないという点も一考を必要とするからであるがこの点はここではふれずにおこう。

第二の特徴は，経営規模別の傾向であるが，その文化教養費支出の傾向は，その比率において，50アール以下最大，75アール以上最小である。然し金額からみると，75アール以上最大，50アール以下最少である。然し大まかにみて，経営階層の両端において文化教養費支出の大きい農家群をみる事が出来るのは注目に価する。

次に，その生活費の中で文化教養費支出の地帯別，経営規模別の金額をみよう。

第3表は，項目別に，又地帯別，経営規模別にその支出金額を示してあるが，これをみて云えることは，先ず第一に，農家の文化教養費支出が，各農村を通して，さきに述べた様に中間層に低い(但し水田地帯は若干異る)という事であるが，この二つの傾向は，既に示した事の再確認であるけれ共，これは，その一群(零細農)は，兼業農家が多く，むしろ農家的性格を消失しつつあるものであるのに対して，他の一群は富農である事をみる時，

第三表　文化教養費の内訳（上段金額・下段%）

	商			畑			田		
	～50アール	50～75アール	75～アール	～50アール	50～75アール	75～アール	～50アール	50～75アール	75～アール
ラジオ	1,357 (18.2)	1,020 (14.3)	1,388 (16.8)	1,040 (24.4)	874 (30.4)	728 (13.9)	1,141 (24.8)	816 (18.3)	612 (14.8)
新聞	3,994 (53.6)	4,170 (58.5)	3,742 (45.2)	1,683 (38.7)	1,165 (40.6)	2,211 (42.3)	1,956 (42.5)	2,208 (49.5)	1,800 (43.4)
雑誌	1,792 (24.2)	1,807 (24.3)	2,184 (26.5)	1,190 (27.6)	626 (21.8)	1,664 (31.8)	1,264 (27.4)	1,352 (30.2)	1,492 (35.9)
書籍	261 (4.0)	144 (7.9)	954 (11.5)	411 (9.3)	207 (7.2)	618 (12.0)	246 (5.3)	100 (2.0)	260 (5.9)
計	7,404 (100.0)	7,141 (00.0)	9,268 (100.0)	4,324 (100.0)	2,872 (100.0)	5,234 (100.0)	4,607 (100.0)	4,476 (100.0)	4,164 (100.0)

この両者の文化教養費支出の内容は相当差のある事が考えられ，その内容を更に詳細に分析する必要がある。

次に，この支出額の比率をみると，その高いものから，農村の生活費よりみた文化教養費支出の特質について新聞，雑誌，ラジオ，書籍であるが新聞代は文化教養費支出の殆んど50%を占める。

更に，この四つの分野について内容にふれてみよう。

◆新聞（その普及割合　72%）

さきにみた通り，文化教養費支出の一番大きな割合を占めるものであるが，普及割合は，この調査の場合余り高くない。これは，丁度この調査が畑作地帯では，農繁期には，新聞購読を中止する農家が多く，特にこの地方が低くなっているからであるとみられよう。これも勿論商品作地帯が普及率96%と圧倒的に高く，水田地帯がこれに次ぐ。

第四表　新聞の普及；本県の普及部数（昭和31年度世帯当り）1戸当り0.59部（全国平均1.26部）

	商	畑	田	平均
購読農家	23	13	20	
世帯当り普及	0.88	0.59	0.69	0.71

・地元紙が圧倒的に多い。　・よくみる所は実用記事

又購読紙の半数以上は，地元新聞，又最もよくみる所としては，男子の場合，その地方の政治，社会に関する記事に関心がもたれ，女子の場合小説が大きな比率を占める。

◆ラジオ（その普及割合　83%）

この普及比率は四つの中で最も高く，現在のマス・メデイア中最も農家に滲透している。これは「ダイアルは最もおくれた者をとらまえる」といわれている通りという事が出来るだろう。

その普及の程度も，農業形態を異にすると差異をみせており，商品地帯96%，畑地帯82%，水田地帯72%となっている。

そして，よくきく番組は，農事放送，天気予報を中心とする実用型聴取者と，報道，娯楽型にわかれるように思われる。

◆雑　誌

内山氏が指摘されているように『戦後10年の今日，殊に三，四年来顕著になって来た事であるが，農村向けの雑誌書籍の類は量，質共にその増加著るしいものがある』事は，誰も否定しえないであろう。

第五表　ラジオの普及；本県のラジオ普及台数（昭和34.3）

100世帯当り 61.6（全国平均 81.3）

・調査部落の普及度

		商	畠	田	平均
100 世帯当り	普及度	96	82	73	83
	テレビ	4	0	4	3

事実，この調査においても家の光を中心として，80%の普及割合をみせ，ラジオに次ぐ高率を示す事からも伺う事が出来る。

農村向け雑誌として恐らく日本最高の発行部数をもつ家の光は，現在（昭和35年）180万部の発行があるといわれているが，今これを中心として雑誌代の支出と，その傾向をみると，次の通りである。第6表上段によってみても，全国的にみて，農村の雑誌代支出は，著るしく増加してきているが，（ある人は，この傾向は都市よりも著るしいともいう。）これに対して，これらの調査農家平均は，全国平均をはるかに上廻る有様である。

然しその支出金額を，地域別，経営規模別にみると，その普及の割合が商品作地帯に最も高く，畑作，水田と低下し，更に経営規模の大きくなるに従い増加する傾向

第六表　雑誌の普及とその支出の傾向

×雑誌代の支出の変化

	冊　数	平均価格	文化教養費中の比率
昭和　27	7.4	680円	11.5
29	8.8	828	9.5
31	9.8	912	9.4
33	10.5	1,037	9.2
調査農家平均		1,495	2.7

注）昭和27～33　農家経済調査全国平均

×雑誌代支出の状況（一年間）

		経営規模別			地帯別			計	比率(%)
		～50アール	50～75	75～	商	畑	田		
～ 1,000円		9	4	4	3	10	4	17	27
1,000～2,000		11	10	8	14	5	10	29	47
2,000～3,000		2	3	3	4	—	4	8	13
3,000円～		2	3	3	4	2	2	8	13
雑誌代の支出ある農家	計	24	20	18	25	17	20	62	／
	比率(%)	71	83	95	96	77	96	80	／

をみせている。

又その雑誌の種類をみると，

○月極め定期購読のもの

・家の光　47%，　・農業雑誌　18%，

・婦人雑誌13%，等が高い割合をみせるがこの中の農業雑誌は，農業世界，農芸西日本というような比較的地域に即応して実益本位の記事の多いもの，又は一方で農業鹿児島又は果樹園芸の様に，県庁又は果樹研究会等の組織を通じて農村に，到達するものがみられる。

○不定期購入のもの

・週刊誌　25%，婦人雑誌等，その時のニュース，内容附録等によって適宜購入されている事が分る。

4．農村の生活費と図書費

以上生活費就中文化教養費支出を中心として，新聞，ラジオ，雑誌の普及の傾向をみた。次に書籍にうつるが書籍についても『とにかく，2，3の農民向け書籍の専門出版社が独立に採算がとれてやってゆける』（農業総合研究第11巻2号190頁）ようになったと指摘されている事でも分るように，その普及が増加してきている事は明らかであろう。

先ず最初に，その書籍代の支出の傾向からみてゆこう。

書籍を購入する農家は，その32%となっているが，その比率は第8表でみるものと比較して，全国平均の傾向と殆んど同様である。そして，その支出金額は，支出農家のみを平均すると約850円，（調査農家総平均275円）と

第七表 書籍代の支出の傾向

	地域別			経営規模別			計	その比率
	商	畑	田	～50アール	50～75	75～アール		
500円以下	1	5	4	3	3	4	10	40
500～1,000円	2	—	2	2	2	—	4	16
1,000～2,000円	3	6	—	3	1	5	9	36
2,000円以上	1	—	1	1	—	1	2	8
計	7	11	7	9	6	10	25	100.0
調査農家に対して（%）	27	50	24	26	25	51	32	／

第八表

	全国計*	農村計**	男	女
昭 31	50.0%	33.4%	38.6%	28.2%
32	38.2	35.4	39.8	31.6
33	39.1	33.1	32.3	34.1

*読書調査　　**家の光協会調査

なる。又その支出傾向は，先ず第1に，総体的にみて1年の支出金額は500円未満と1,0000～2,000円層との二つの著るしいピークを形づくっていること，又ここでは畑作地帯においてその支出農家の多いことや経営規模別にみると，中間層農家が書籍代支出に関心をもたぬ一群である事が分る。

次にこれらの書籍購入農家の性格を立入って分析してみよう。

先ず購入した書籍を農業書，文芸書，職業上必要なもの(これに宗教書を加える)に三分類して，夫々支出の傾向をみると，農業書はその全体の中で16戸（書籍購入農家の64%）であるが，その大部分を畑作地帯が占めている）これについては後述するが，この農業書の普及には最も大きな作用をするものとしてその農家の専業，兼業農家であるか否かに関係がある事が伺われ，一方で文芸書の導入が兼業農家に多い所からもこの事は伺われる。更にこれらの兼業農家は，第8表でも分る通り，多くの分野にその種類が分れており，兼業農家の性格が極めて雑多である事が分る。これらの性格を更に追及する事は

第九表 書籍の種類からみた傾向

	商		畑		田	
	～75アール	75～アール	～75アール	75～アール	～75アール	75～アール
農業書中心	1	2	5	5	2	1
文芸書中心	1	2	1	—	3	—
職業書中心	1	—	—	—	1	—
計	3	4	6	5	6	1
	専業農家	兼業農家	専業農家	兼業農家	専業農家	兼業農家
農業書中心	2	1	9	1	1	2
文芸書中心	—	3	—	1	—	3
職業書中心*	—	1	—	—	—	1
計	2	5	9	2	1	6

*職業書中心…自分の勤め先などで仕事の必要上買うもの

興味のある事であるがここでは，この事実を指摘するに止めよう。

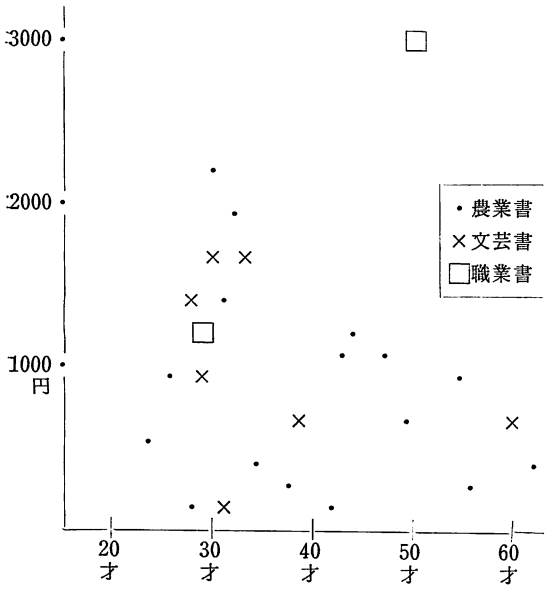
何れにしても，一口に農家という場合に，その内容は極めて複雑であり，その結果がこのような読書傾向を示す事となるのであろう。然しこの書籍導入の要素として大きな共通の傾向としていえる事は，その経営主の年令が30歳台に集中する事である。

それでは，このような農家がどのような書籍を購入しているかをみると，大別して，自分の経営改善，むしろ農業技術改善の方向を見出す手がかかりを得る為に購入するもの，これらに対して農業の基礎理論（例えば植物生理，化学など）又は政治経済全般に及ぶものが考えられる。例えば，前者の例として

・実利農家養鶏のすすめ方，・そさいの一年，・ミカンとビワ，・みかん栽培耕種基準，・鹿児島県の花卉園芸・林業叢書，その他があげられるが，この中には，みかん栽培耕種基準などのように県の特産地形成の奨励に伴って，改良普及員の推奨によって導入されるものがあり畑作地帯の殆んど凡てがそれである事はこの事も忘れてはならぬ事実であろう。

後者の例として，

第四図 図書費の支出と経営主の年齢



・作物の栄養と生理　・村づくり家づくり

・物いわぬ農民

などがあげられるが，これは，農村のリーダー的人物の購入する種類のものであろう。

これ以外に，兼業農家，並びに婦人層を中心して文芸書が農村にもちこまれていると見てよいであろう。

むすび

この考察では，農家就中生活水準の低い鹿児島県の実例についてふれてみた。然し報告者の能力もあり，調査農家も少く，その結論といったものは，更に研究をすすめてなす必要があるが，この資料を中心として考える場合，現在の農村の生活費の中で，未だ文化教養費支出はその比率が小さい。そしてその中で，新聞代が大半を占め，書籍代は10%に充たぬ程度である。そしてその普及度も農家全体に対して32%となっており，未だ低いし，その中で農業書を購読する農家は，その60%程度である。

しかしこれらは，その傾向として，専業農家の多少，又青年層の存在の有無と相関関係がある事が推察されるが，これらについては，現下の農村はむしろ逆の方向に進んでいる。このような状勢に対処して読書活動をどのように進めるべきか。これらは改めて報告致したいと考える。

「追記」

この研究は，昭和34年12月日本読書学会より研究費補助をうけ実施したものである事をここに記載し，併せて感謝の意を表わしたい。

テレビ図書館の視聴と読書指導*

——小学校三年生の場合——

秋田県仙北郡仙北村立高梨小学校　渡　辺　正　巳**

発表の意図——『テレビ図書館』（小学校中学年の国語科番組として，児童の言語文化の鑑賞力を高め読書意欲を増すことを目的とする）は，本校のように，水田一本の単作地帯という単調な環境の中にある学校の児童にとっては有力な読書指導の資料となるものと思われるが，いかがであろうか。

ここに，短期間のものであるが，その一つの資料を提示し，今後の研究についてのご指導をお願いしたい。

この資料の作製については，本校，荒川浩司教諭，松田京子教諭，O市Y小学校K教諭のご協力をいただいた。

I　子どもたちの実態

1．村のアウトライン

① 奥羽山脈と出羽山地にはさまれ，雄物川に沿って開かれた仙北平野の中央に位している。

② 奥羽線大曲駅から東北東方向に4kmから8kmの地点にある。

③ 村の東北方の真山，長森の二つの台地を除く外は平坦であり，東西9.56km，南北7.46km，総面積30.45m²，平均標高47.1mで東北に自然傾斜し，耕地はその85%を占めている。

④ 職業別世帯数は，農業1.383，林業6，工業25，製造業4，建設業6，商業108，公務員94，その他78となっている。

⑤ 農家戸数の約半数は兼業農家である。

⑥ 主要農産物の米は約30,000石である。（昭和35）

⑦ 学校は高梨小（15学級698人），横堀小（13学級581人），仙北中（17学級789人）の三校である。

⑧ 家畜の頭数は大体全県平均ぐらいであるが，大農機具は県内で多い方の五指内に数えられている。

⑨ 新聞の購読数は次の通りである。

秋田魁743，朝日266，毎日202，読売435，その他。

⑩ ラジオの聴取数，テレビの視聴数（35年7月）

ラジオ	
聴取世帯数	普及率
1,606	95%

テレビ	
視聴世帯数	普及率
253	15%

2．子どもたちとテレビ

① 36年の1月～3月にかけて家庭のテレビは急激に増加した。（高梨小学区内分）

学童世帯数	規聴世帯数	普及率
477	232	49%

② 子どもたちの話にあがっている人気番組は，次のようなものである。（三年生）

○おわらい三人組。　○恐怖のミイラ。
○パパはなんでも知っている。　○走れチェス。
○ゼスチュア。　○アニーよ銃をとれ。
○パパ大すき。　○おかあさんといっしょ。
○プロ野球。　○天馬天平。　○ふしぎな少年。

* "Television Library" and Reading Guidance
**Masami Watanabe (Takanasi Primary School, Akita)

○ぼくはハッピー。　○おとぎの国。

○少年発明王。　○笑えば天国。

③　学校で継続視聴しているもの。

○テレビ図書館　　○良太の村（社会三年）

○理科教室（三年）

3．子どもたちと読書

①　最近読んで印象に残っているもの。（書名）

○トッパン絵物語　　○日本のこころ（三年生）

○玉川の子ども百科　○アンデルセン絵童話

○風の神，雨の神　　○子どもの村（三年生）

○学研お話の本（三年）　○子どもの力（三年）

○よい子の童話（三年）　○よい詩，よい文

○ことばの使い方　　○にんじん

○子ども動物記　　○不思議なランプ

○おもしろい世界めぐり（三年）　○二宮金次郎

○三人の王子　　○こがねのくびかざり

○ながいながいペンギンの話　　○チビのムック

○王さまとこじき　　○白雪ひめ

○ピーターのぼうけん　　○白鳥の王子

○ピノキオ　　○みつばちマーク

○グリム童話　　○ナイチンゲール

②　学校図書館の利用について

a．本校図書館の蔵書構成

0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 工学
227	92	306	113	437	110

6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	絵　本	合　計
62	90	151	801	115	2,504

b．利用の状況

・上記の図書は殆ど図書館へ引率しての自由読書と，教室への持ち込み，および貸出しを利用してのものである。

・童話読物へのかたよりがいちじるしい。

・貸出しを利用する児童にかたよりがみられる。

・概して利用の程度は普通程度を下廻っているものと思われる。

③　月刊雑誌の購入（88名中）

○三年の学習 15，○科学の教室　9，

○小学三年生　4，○少年画報　9，

○少年ブック　4，そのほか，○少年，○少女クラブ，○りぼん，○ぼくらなど。

Ⅱ「テレビ図書館」で視聴してきたもの

月日	題材名	表現形式	備　　考
5.18	コロンブス（伝　記）	劇	・子どもには既有知識がほとんどなかった。 ・島が見え始めたところでおわったのは，三年としては程度が高い感じだった。 ・語いがむつかしかった。
5.25	きこりとその妹（久保田万太郎）	劇	・みる前に本を読んでいた子どもは，本の方がより真に迫っていて悲しかったといった。 ・ラストシーンがものたりない。
6. 1	長靴をはいたねこ（ペロー）	劇	・劇的表現としての表情や動作などよかった。 ・語いに少々むつかしいものがあった
6. 8	お姉さんといっしょ（筒井敬介）	かげ絵	・ほとんどの子どもが前にきいたり，見たりしていた。 ・内容がやさしすぎてつまらないとの声が多かった。 ・「かげ絵」の形式はおもしろくない
6.15	はだかの王様（アンデルセン）	劇	・話としても聞き，紙芝居や幻灯でもみていた子どもが多かったが，その先入感があって，職人はもっといい人のはずだとの感想が多かった。 ・行進のところもほしかった。
6.22	豊田佐吉（伝　記）	劇	・既有知識はほとんどなかったが，わかりやすい表現であった。 ・これをみて，童話などより伝記の方が，ほんとのこと

			なので見たかいがあるとの感想のものがあった。
6.22	漁師と金の魚のはなし（プーシキン）	平面的な人形	・この形式は好まれなかった。 ・音楽が効果的であった。
7. 6	港についたくろんぼ（小川未明）	平面的な人形	・題材の情緒を生かした美しい画面だった。 ・ことばはむつかしかった。（原文の語いそのままの語り手のことば） ・踊の場面で実態のおどりが入ってよかった。
7.13	火の鳥	平面的な人形	・本よりおもしろくないとの声が多かった。（読んだ子ども） ・脚色のし方に問題がある。
7.20	三人バナナ	学校児童の劇	・表情も動作の表現もなかなかよかった。

以上が視聴したものの概要であるが，

- むつかしい語いがあっても，案外視聴の抵抗にはなっていなかった。
- 例えば「はだかの王様」をみる前後に，アンデルセンの童話や，その他の童話類を教室に持ってきておいたら，きわめて積極的にそれらの本を読んだ。
- 「火の鳥」では，視聴の前に，トッパンの絵物語の「火の鳥」（米川正夫文）を読ませた子どもがあり，その子どもたちにテレビもみたあとで「あらすじ」を書かせたが，読書による印象がずっと強く残っているように見られた。

最初に接した資料に強く影響されるようにも思われるので，どのようなメデイアで与えるにしても，変な脚色でないことが望ましい。

Ⅲ「火の鳥」についての調査

1．「あらすじ」のとらえ方はどうであったか（三年生二学級89人について）

A「火の鳥」（米川正夫文　トッパン絵物語——絵物語とはいいながらB 6判変形の48ページのもの。各ページ，12Pの活字で42字詰の18行。

さし絵は　全ページ色刷りのさし絵が　12

$\frac{2}{5}$ページ大の黒ペンのさし絵が　8

$\frac{1}{4}$ページ大の黒ペンのさし絵が　7

となっており，概算で30,000字，従って，400字詰原稿用紙で75枚の分量である。）を与えて，それだけで「あらすじ」をまとめさせたもの。

B「テレビ図書館」の「火の鳥」だけによって「あらすじ」をまとめさせたものにわけて，そのとらえ方を調査してみた。

① 国語の学力の中位のものがテレビによってまとめたものと，国語の学力上位のものが本によってまとめたものとは，大体同程度のように見られた。〔「あらすじ」についての比較の観点は次の二点にした。

- 事柄をひろいあげている数
- ひろいあげた事柄の順序が

正しいかどうか。〕

文例①（国語学力上位の子ども。本によってまとめたもの）

（文例ではかなづかいのアヤマリ，語い，語法のアヤマリも，そのままにした。）

火の鳥　　山崎綾子

あるおおさまに三人のおうじがいました。ごてんには，ひろいにわがありました。そのひろいにわにはいろいろの木がありました。おおさまは，ぎんのりんごをいちばんたいせつにしていました。ところがまいばん火の鳥がきてぎんのりんごをとっていくのです。おおさまはこまってしまいました。三人のおうじたちにたのんでつかまえてくれとたのみました。一ばん上のドミトリーがみはりばんをしました。ドミトリーはみはっているうちにうとうととねむってしまいました。つぎのあさおおさまは，ドミトリーにいいました。「ドミトリー，火の鳥はきたか。」といいました。ドミ

トリーは「きませんでしたね。わたしをこわがったからでしょう。」とうそをつきました。きょうのばんはバシイリーです。バシイリーも，うとうととねむってしまいました。つぎのあさまたききました。バシイリーも，うそをつきました。三日目はイワンのばんです。イワンはぎんのりんごの木のしたをあるきまわっていました。とつぜん，あかりのように，かがやきました。イワンは，そっとうしろへちかずきました。つかまえようとしたら，にげていってしまいました。でも，てに一まいのはねをもっていました。つぎのあさ，おおさまにイワンはこういいました。

「おおさま，おゆるしください。」といいました。でも一まいのはねをやったら，おおさまは，おおよろこびでした。おおさまは，火の鳥をつかまえてくるように三人のおうじにたのみました。三人のおうじは「かしこまりました。」といってでかけました。二人のにいさんたちにいじわるされて，しかたなく馬にのり右の方へ行きました。あるときは，はい色のオオカミにたすけられたり，またあるときは，へいたいにつかまえられたりして，たいへんなんぎをしました。ようやく火の鳥をつかまえ，エレナひめをつれてかえってきましたが，とちゅうでまたいじわるなにいさんたちにひどいめにあわされましたが，またはい色のオオカミにたすけられて，ようやく自分のおしろに，かえりつきました。いじわるにいさんたちも，かえりました。イワンは，おとうさんやみんなに，「よくやった。」とたいへんほめられました。そしてエレナひめとたのしく，くらしました。

文例②（国語学力中位の子ども。テレビによってまとめたもの）

火の鳥　　佐藤静子

あるイスラの国に，三人の王子がいました。その王じには，父上にたのまれ父上のたのんだのは，火の鳥をさがしてくれとたのまれたのです。王子たちは，その火の鳥をさがしにでていきました。

一ばん上の王子と二ばんの王子は，いっしょにいってイワン王子は，あとに，リドーという馬にのっていきそのイワン王子も兄たちとおなじにいきどまりになって，その王子はこの道へいくのは，馬はしに人はたすかる。とかいていたのでイワン王子は，馬はしに人はたすかるのほうの，道をいくとき王子は，「リドーごめんね。」とあやまっていきました。すると

「ひひひひ，そのうまをもらっておこう。」

といいました。王子はかなしそうに，「このけんをうけてみろ。」

王子は，そういったら大かみは，「ひや，あははは。わしさまがそんなものでまいるものかそれ，ううっ。」

王子はその声でびっくりしました。

そのときです。リドーがきゅうに，にげだしました。そのあと大かみがおって，リドーをくいころしてしまいました。

王子は，いえにもかえらないでずうととうくへたびをしました。お金ねもなくなった王子は，「おなかがすいたなあ。」

といっていたときです。

「王子さまあなたってがまんずよくてえらいかたですあのうまのかわりに。わたしのせなかにのってください。」

といったとき，王子はびっくりしてふりかえてみたときのことです。

「おまえはいつかの大かみですね。」

「そうです。あのうまをころしてすみません。」王子は「いいよ。そんなにあやまらなくても。」

とたびをしてとうとう，火の鳥のいるところへつきました。大かみがこういいました。

「火の鳥のはいっているとりかごをもってはいけませんよ。」

いって，みたときです。あまりのきれいで大かみがいったことをわすれてとりかごをもちました。そのときです。がちゃがちゃとおとがしてとられませんでした。こんどは，金のうまをもってこいといいました。そしてまたおなじく，とられませんでした。

また45ばんめの国から，エレーナひめをつれてこいといわれてこんどは大かみが，エレーナひめをつれてきました。大かみがエレーナひめにばけて金のうまをとりました。こんどは，また大かみが金のうまにばけてこんどはひるすぎになったらわたしのことを思いだしてくださいとたのまれた王子は，どこかのうまをみて大かみのことをおもいだしてたすかりました。

それで王子はエレーナひめをもらってなかよく，くらしたことでしょう。

② テレビによってまとめた国語学力上位のものの程度は国語学力中位のものと大体同程度であった。（文例略）

③ 国語学力下位のものが「テレビ」によってまとめたものは国語学力中位のものが本によってまとめたものよりも程度がひくかった。

④ 国語学力下位のものがテレビによってまとめたものは国語学力下位のものが本によってまとめたものよりもややよかった。

文例③④ 省略

⑤「あらすじ」のかき方になれていないせいもあって次のような傾向がみられた。

a．本だけによってまとめたものは，全スペースの$\frac{1}{2}$ぐらいを「金のりんご」をとりにくる火の鳥のつかまえ方についてかいている。

b．テレビだけによってまとめたものは（金のりんごをとりにくる場面がないせいもあってか）三本道のわかれのことについて全スペースの$\frac{1}{2}$ぐらいを使っている。

（文例①②参照）

2．感想の持ち方はどうであったか

① 本だけによったものの感想は「ドミトリー王子にころされたイワン王子がはいいろオオカミの機智によって生きかえる」ところに集中していた。

文例⑤

（前略） 須田綾子

イワンとエレナひめが木の下でうとうとねていたとき，バシイリーとドミトリーはそのときイワン王子とエレナひめがねているそばへいって，そしてイワンをころしてエレナひめをおこしてそのことはいってもできないといっておしろへつれていってしまいました。そこへオオカミがきてイワン王子をいきらせる水をくんできて，イワン王子をいきらせたところがわたしはイワン王子がそのまましんでいたらかわいそうだなあとおもいます。そしてオオカミがふしぎな水でいきらせてくださったのでわたしはよかったとおもいました。

文例⑥

（前略） 池田康喜

オオカミはイワンのために火の鳥やエレナひめをつれてきたりして二りの兄王子にころされたときもオオカミがからすに青い水と赤い水をたのんでもってきてもらってイワンをいきりかえしてくれたのもオオカミのおかげで，たいへんやさしくてりこうだとおもった。

② 本とテレビと両方をみた子どもの感想の大部分も「生きかえる」点に集中していた。

③ テレビのみをみた子どもの感想は（テレビには「生きかえる」場面はない。）

・イワンの何回もの失敗と最後の成功

・歩いてでも行くというイワン王子の勇気，努力

・オオカミの親切さと能力のすばらしさ

などにちらばっている。

④ 国語の学力の上下による感想のちがいは，物語のどの点に感想を持つかということよりも一つの場面についての理解の深浅によっての表現にあらわれていた。

文例⑦（国語学力上位のもの）

火の鳥 小西 朗

イワンが，アフロン国の王さまにたのまれて，エレナひめをつれてこようとして，川をおよいでいくことにしました。そのとき，とつぜん，はいいろのおおか

みがきて，「わたしがつれていきましょう。」といったとき，おおかみはやっぱりイワン王子を，たすけてあげようとしているんだな，とぼくはおもった。そしておおかみが，「エレナひめに，ばけてあげます。そのかわり，三日のひるまでわたしのことをおもいだしてください。」とやくそくしました。イワンがおおかみのことをすっかりわすれていたとき，一ぴきのうまがいて，イワンがきゅうにおおかみのことをおもいだしたので，ぼくは一ぴきのうまがおおかみをたすけてあげたんだなあと，おもった。一っぴきのうまは，リドに，にていたので，イワンが，おおかみのことをおもいだしたんだなあとおもった。そのうまは，よい馬だなあと思った。

⑤ テレビ作品は，原作とは別個の独自な価値を持つものではあるのだが，しかし，②と③とを比べて考えるとき，脚色の仕方に大きい問題があるように思われる。

また20分というテレビの時間にふさわしい作品（脚色にムリのないような）を選定することも大事なことと思われる。

Ⅳ「テレビ図書館」によるあらすじのとらえ方について

1．テレビでは次々にでてくる場面を見ながら聞きながら頭にたたこんでいくことになるのであるが，ラジオと比べると映像があるだけ容易であるし，文章と比べてもとらえやすいことは，前記の「火の鳥」の調査でもわかることである。

2．これまでの10の題材について視聴後話し合ってみても，予想以上によく「あらすじ」をとらえていることがわかった。とは，荒川，松田両氏も強調していた点である。

3．「あらすじ」のとらえ方についての指導が，あまりよくなされていないこともあると思うが，テレビによってとらえさせる場合に，ともすると，特に印象的な会話などに引かれてその部分がふくれあがったり，ユガミを持ったりすることも少なくないようである。

（これまでの文例にもうかがわれることである。）

文例⑧（国語学力中位の子ども）

みなとについた黒んぼう　　新田美智子

おとうとは目が見えませんでした。ただうれしいのはふえふいていたのがたのしいとみえました。おねえさんはそれをきくとおどってしまいます。まちの人びとは

「ああ，あのうたをきけばみんなわすれてしまう。」

「なああのうたはなんてしばらしいのでしょう。」

「このうたはじめてきいた。いいふえねえ。」

みんなはがやがやしています。そこへきた人は「あなたさまをちょっときてくれませんか。だいじんがおよびです。おしろにきてください。ちょっとだけです。すぐにかえしてあげますから。」

ねえさんは，こまったかおおしてだまっていました。

「こまります。このこを，おいていくとかわいそう。このこもいってもいいですか――。」

これはまだきいてきません。おねえさんはいくことにしました。こどもはここでのこっていることにしました。「またどこかにいかなければいけませんからまってくださいね１じになったからきますよ」

とおねえさんはいきました。１じになってもおねえさんはきません。２じになってもきません。

「おねえさんはやくきてください。あそうだ，おねえさんがいつもだいすきなふえおふいてあげよう。くるかもしれない。」

といってふえをふきました。おとうとはふえをふいてもおねえさんはかえってきません。そこへきたのはこどもうをなくしたはくちょうでした。はくちょうはじぶんのほうにいくとちゅうにそのいもうとをみつけたそうです」

「あんたんはふえをふいているのわたしはねえこどもうおなくしたはくちょうなのよ」

「ぼくもおねえさんをなくしてしまったの」

「じゃ，わたしといきませんか」

そしてはくちょうがこういいました「じゃ，わたしとおんなじようにしてあげましょう」

といってふたりともいくようにいきました。そこにだまっていたおねえさんがかえってきました。そこにはいもうとうがいません。そこにいろいろさがしてもいませんそこにきたのはがいこくのふねがきました。

しとりのおとこがきましたおねえさんをみて

「ああそうだあんだがめくらのことあんたがうたっていましたね」

そういわれるとおねえさんはないてしまいました。

4．しかし抵抗の少ない映像によってすじみちをとらえる学習を重ねていることが，文章を読んで「あらすじ」をとらえる能力に影響する点が少なくないのではないかと思われるので，視聴後の言語による再現のさせ方をくふうして，また学年のおわりに調査してみたいと考えている。

Ⅳ「情景や心情を思いえがく」ことについて

1．この地域の子どもにとって，豊かな想像力は程度の低い能力の一つであるが，文章だけからでは，養い難いものを「テレビ図書館」によって補充することはこれまでの様子からみて大いに効果がありそうだ，と受持教師も考えているようである。

2．しかしこれまで，どこをどう指導すればいいのか，はっきりしなかった。したがって現在はどれほど効果がでているか，わからないとのことであった。

3．そこで次のような調査（昭36. 7.20）をやってみた。

① 既習教材　アトリのかね（学図・小学校国語三上）の中の，馬がかねのつるを引いてかねをならした時，かけつけてくる裁判官や，町の人々の表情，動作などについて想像し，話し合い，そのような読みとり方で，次の文章の場面について兄と弟の表情や動作，会話のことばについて思いえがかせることをやってみた。（「二つの玉」の山幸彦がつりばりをなくしてきてあやまる場面）

② 調査学級は，本校の松田学級と，O市Y小（大体同じ条件だが，学校でのテレビは，少ししか見ていない。テレビ図書館は全然見ていない）のK学級である。

③ 問題文の提示

a．ひととおり「二つの玉」（学図，旧版，三年上）を読んで聞かせた。

b．問題文を板書し，読んできかせる。

c．紙をわたし，兄弟の表情，動作，会話などについて書かせる。

問題文

『弟は，兄のところへ行って，つりばりをなくしたことを話し，いろいろとおわびしました。しかし，兄は，ゆるしてくれませんでした。』

④ 結果には，次のような傾向が見られた。

a．弟（山さちひこ）について

松田学級	Y校．K学級
○ひざをついて，手を地面について，かおをしかめ，なみだをだしてないているような声でたのんだ。	○おもしろくないかお。
○なきながら，なんかいもあやまった。	○ふるえるようなかおつき。
○すみません，すみませんといっている顔つきで。	○なきながら，ひざをついてなんどもおわびした。
○手をあわせ，あたまを下にさげて——	○こまったかおつき。
○へんな顔で，なきたそうにしてかえってきた	○からだをまるくして話しました。
○こまったかお，こまったようすで。	○なさけなさそうに。
○さびしそうなかおで——。	○しかたなさそうなかお
○しょんぼりして，こまったかおつきで——。	○ぐたっとして，のそのそして——。
○くびをかしげてきた。	○手をついてあやまっている。
○地面にかおがつくくらい，こがまって——。	○あおいかおで——。
○ほんとうにわるかったなあという顔つき。	○ゆるしてくださいというかおつきで——。
○まっさおな顔つき，なみだをたらして，あたまをありったけさげて	○べそをかくかおつき。
	○うなだれた。

○からだをふって——。 ○ぶしばったようにいいました。	

b．兄（海さちひこ）について（省略）

c．会話をどう思いうかべたか。

松　田　学　級	Y 校. K 学 級
○「にいさんゆるしてください。ぼくがあんなことをいってわるかったのです。どうかゆるしてください。」 「ゆるさないぞ。おまえがあんなことをいったからしかたなしにつりをやらせたのに，つりばりをなくすとはけしからん。」と手をこしにくんでいばった。 ○「どうしたんだ」 「さかなが一ぴきもつれなくてこまっていたら，つりばりまでとられてしまったんだよ。ねゆるしてくれよ。」 ○「どうしてなくしたんだ。山さちひこ，あれは兄のたいせつなつりばりなんだぞ。」なんて，プンプンおこって「あれは，兄が外国からかっきてきた，たいせつなしなものだぞ。」 「すみません。」 ○弟は手をあわせて，「にいさんゆるしてくれ。」兄は「ゆるすもんか。ひとつりばりをなくすなんて，ひどいや」といいながらうちへはいっていきました。 ○「ゆるしてください。ゆるしてください。わたしはなんでもしますうさぎなどたくさんとってきます。 ○「おにいさんゆるしてください。」 「もう，おまえのことはきかないぞ。」	○「兄ゆるしてくれ，兄ゆるしてくれ。」 「をうして，ゆみやとつりばりをおまえがとりかえた。おまえがとりかえこしたから，つりばりがなくなったぞ。」 ○「わたしがさかながつれたと思ってあげるとつりばりがついていなかったのです。ですから，ゆるしてください。」 「だめだ。そのつりばりは，わたしのだいじなつりばりだからゆるせぬ。だからなんどもとりかえないといったじゃないか。 そのつりばりをさがしてこい。 いっこくも早くさがしてこい。」

⑤　以上は，小さな一例にすぎないが「テレビ図書館」を継続視聴してきている松田学級の記録の方に多様なものがみられ，また全体を通じての差が小さく，特に会話のおさえ方では個性的な生き生きしたものがみられるし，会話と結んでの動作にも，テレビの影響（なまなましいことばや，動作にふれているという）が，うかがわれるように思われる。

6．童話や物語の読解鑑賞で「情景や，心情を思いえがく能力」は，カナメとなっているのだと思うのであるが，現状はなかなか高まっていかず，指導者の悩みの一つになっているのである。「テレビ図書館」を，計画的に視聴することによって，映像と，ことばとの結びつきがはっきりしたものとなり，読解，鑑賞に役立っていくのではないだろうか。

7．こうした立場から「テレビ図書館」の題材をみる時。

・20分のわくの中にはめこむための，内容構成のムリから，省略による内容の貧しさがまず第一に気になってくる。

・また，脚色されたものの，あらましや，重点と，文章によるテキストとの結びつけについても，くふうを要することになると思う。

これらの点については，さらに，研究を重ねていきたい。

Ⅵ　おわりに

①「テレビ図書館」で見たから，原作は読まなくてもいいとなっては困るのであるが，子どもの現状は前記中にもあるように，教室へ持ちこんだ童話物語にとびつき，読書への大きい導きともなっているのである。この有効性を追求し，消化していきたい。

②　ただ，「テレビ図書館」が，「——鑑賞力を高め読書意欲を増す」ことをねらっているものであるなら，もっと，現在刊行されている図書との積極的な配慮を持つべきではなかろうか。

また，脚色の仕方についても，テレビ作品としていいものであればいい，というだけでなく原作への橋渡しや原作に添った具象化といった点についても，一層研究していただきたいものである。

テレビの「はだかの王様」で「織物職人」が，一人だったことは，子どもたちに，変な感じを持たせたようで

あるし，また，これは紙芝居の脚色の仕方に注文すべきことであるが，「K．K．教育映劇の大牟田氏脚色のはだかの王様」では，ノッポと，デブの二人の織物職人が，王様からまきあげたお金を，大衆に与えることになっており，そんなことから『本や紙芝居でみたしたてやは，ふたりでした。したてやは，ほんとはやさしい人だが，金をもらったときのわらいごえをきいていたら，まるで金をとるために，したてやをやったようにみえました。本でみた時は，もっとやさしい人だったが，テレビでみたときは，にくらしくなってきました。』（三年　山崎優子）というような，おかしな感想もでてきてしまうのである。

③　Ⅱ「テレビ図書館」で視聴してきたものの，備考の欄でもふれているが「テレビ図書館」の場合20分のおわりの2～3分ぐらいのところに，質の高い要約されたことばや，表情などが，前のシーンとの複雑な関係において織りこまれておわりになることが多い。

「港についた黒んぼ」の中で，おわりに近く，姉がわっと泣くのは，「自分は弟をおいて，だいじんの所へ行ってしまったのに，南の島のその姉弟の姉は，『王様によばれても 行かなかった そうですよ。』と黒んぼに言われて，わが身に ひきくらべて泣く」

のであるが，そして，そのことは教師たちには，あざやかにわかったのであるが，子どもたちの書いたものの中には，それを指摘したものは，一つもなかった。

これは，本で読んだものならば，当然出てくるだろうと思われることである。

④　なお，「ラジオ図書館」との関連研究，比較研究も当然必要と考えられるのであるが，これも今後の課題として残されている。

⑤　これはわかりきったことであるが，ただ単に「テレビ図書館」を見せておけばいいというものではなく，「見せ方」や，「見たあとの指導」，「図書との結びつけ」に，数多くの問題点があると思う。

⑥　この村での家庭へのテレビの入り方は，本年の1月から3月にかけて，激増しているのであるが過日のP．T．A研修会における，「ラジオ，テレビ部会」での発言や三年生の16名についての調査では，テレビにつかれている子どもは案外少ないように思われる。（夏休みに入ったため未調査）

このことと，本校が，昭和32年度から「放送教育研究指定校」として，テレビ視聴を継続してきていることと関係がありそうである。

そしてまた，「テレビ図書館」の視聴とも関係がありそう（今の三年生は一年生の時から，週に1～2本をみてきている）なので付記しておく。(1961.7.25)

読書科学文献目録

北　島　武　彦　編

はしがき

この読書科学に関する文献目録は昭和35年1～12月発表された単行本，雑誌論文を集録したものであり，本誌第17号（昭和36年3月）に発表した文献目録のあとをうけるものである。

この文献目録作成については前回と同じく，小泉房子，小滝湛子，斎藤雅英（いずれも文部省図書館職員養成所学生）氏の協力を得た。

（単行本）

読書一般・読書論・読書法

麻生磯次　玉虫文一等編　学問と教養―何をいかに読むべきか―　勁単書房　昭和35　330P　B6判

大内兵衛等　私の読書法　岩波書店　昭和35　199P　新書判（岩波新書）

亀井勝一郎　現代読書論　青春出版社　昭和35　230P　B6判

小泉信三　読書論　岩波書店　昭和35　190P　新書判（岩波新書）

ショウペンハウエル　読書について　他二篇　斎藤，忍随訳　岩波書店　昭和35　113P　A6判（岩波文庫）

出口一雄　良書の選び方　社会思想研究会出版部　昭和35　252P　A6判

久山　康編　読書の伴侶　改訂増補版　創文社　昭和35　390P　B6判

ミラー，ヘンリー　わが読書　田中西二郎訳　新潮社　昭和35　318P　B6判

読書指導

石井桃子　子供の読書の導きかた　国土社　昭和35　206P　B6判

阪本一郎　読書の心理と指導　牧書店　昭和35　154P　A5判

滑川道夫等　読書指導　牧書店　昭和35　434P　A5判

読書調査

東京出版販売株式会社　出版科学研究所編　出版物はどのように買われ読まれているか　1～3巻　東京出版販売株式会社出版科学研究所　昭和35　3冊　B5判

毎日新聞社編　読書世論調査　13　1959年度調査　毎日新聞社　昭和35　182P　A5判

（雑誌・論文）

読書一般・読書論・読書法

赤沢久美子等　子どもの読書と言語生活　〈主婦の座談会〉　言語生活　104

イギリスの読書界　朝日ジャーナル　二・37

石垣綾子　これからの読書　新刊ニュース　一・9

石山賢吉　博学と達識　〈私の読書遍歴〉　新刊月報　87

浦和市灯読書会　読書の方法二個の作業からグループへの楽しみに　新刊月報　86

江上照彦　私の読書遍歴　社会思想研究　一二・6

開高　健　心はさびしき狩人　〈私の読書法〉　図書126

片山　哲　愛読書の数々　新刊月報　87

黒田てるゆき　新しいマス・コミ時代の新しい読書　読書科学　四・3

佐藤忠男　児童に観念文学を　教育　一〇・8

芝木好子　若き日　〈私の読書遍歴〉　新刊月報　87

清水幾太郎　読書の話　文庫　102

菅　忠道等　子供の世界における読書の移りかわり　〈座談会〉　新刊ニュース　一一・5

千田是也　書物と私　〈私の読書法〉　図書　127

ソ連の読書界　朝日ジャーナル　二・17

鶴見俊輔　戦中，戦後の読書から　〈私の読書法〉　図書178

テロ少年と読書　本の本　209

十返肇　学生の読書今と昔　新刊ニュース　一一・6

永川秀男　経済関係外国雑誌新聞の見方　調査と専門図

書館　1
野田卯一　標準型の読書コース　新刊月報　87
長谷川才次　畏るべし「一巻の人」　私の読書遍歴　新刊月報　87
福田陸太郎　外国文学の読み方　新刊月報　81
フランスの読書界　朝日ジャーナル　二・31
正木ひろし　思想と読書　新刊月報　87
松方三郎　「読書浪人」〈私の読書法〉　図書　132
松田鉄夫　中学生の読書生活と後退させているもの　読書科学　四・3
松田道雄　私の読書法　図書　131
松村康平　板垣葉子　読書における変革の理論　読書科学　四・4
宮崎光太郎　人生行路と読書　新刊月報　87
宮沢俊義　私の読書法　図書　124
室　俊司　家庭婦人の読書成熟度とコミュニケーション行動　読書科学　五・2
渡辺照次　病床の読書　〈私の読書法〉　図書　126

学校図書館・読書資料

今関喜江　国語学習における辞書の利用　学校図書館　115
粕谷　勲　国語科学習と資料の利用　学校図書館　120
白石璋子　国語科学習をこのように展開した　学校図書館　115
住本幸雄　作文の指導と学校図書館の利用　学校図書館　121
飛田文雄　読書資料の連関性ということについて　読書科学　四・2

読書運動

多賀義勝他　読書普及の現状　〈座談会〉　読者の実態と出版事情　出版ニュース　6・上
民衆への読書普及とはどういうことか　図書館雑誌　五四・3

漫　画

阪本一郎　小学生の漫画の興味　読書科学　四・2
野田　彰　子どもたちは“漫画”をどう見ているか　＝子供の批判と編集者　作家の言分をめぐって　成蹊学園教育研究所所報　2

読書能力・読書治療

岡本奎六　鶴嶺中学校の読書力向上に関する教育実験　読書科学　四・4
阪本一郎　小学生における多読児と不読児との性格の比較研究　読書科学　四・3
鈴木義治　読書能力の診断と結果の利用　中部図書館学会誌　二・1
福田　勇　読書不振児「T」について　学校図書館　114

児童図書・出版

稲葉秀三，名島太郎　産業書について　Books　118
尾辺晴郎　児童読み物の問題一ツ二ツ　本の本　190
児童図書館研究会の推選図書　新刊月報　80
前川太一　文部省の図書選定制度に思う　出版ニュース　2・上
丸山平和　児童図書選定の意義と方法　中部図書館学会誌　一・2
吉田秀吉　中学生にすすめる良書　150選　神奈川県図書館学会誌　8

読書指導

相沢　清　調べ読みの指導はどう行うか＝中学校社会において　学校図書館　120
青木照明　読書開始期の指導　読書科学　四・3
青木八重子　読書入門記の指導と学級文庫　学校図書館　118
石川　清　新聞の読み方＝中学生における指導の問題点　学校図書館　120
海野哲治郎　読書感想文はこのように＝生徒に与えた手記　学校図書館　119
川畑淑子　「必読図書」実践指導計画　学校図書館　120
久米井　束　読書技術の指導はこのようにする　学校図書館　119
阪本一郎　小学校における情操教育としての読書指導　児童心理　一四・9
児童図書館研究会　読書指導は幼児から　新刊月報　85
清水幾太郎　読書人への分岐点〈座談会〉＝成長する子ども　その読書指導　新刊月報　83
小学校の新指導要領における読書指導　東京都九段小学校グループ研究　読書科学四・3
外の池善一　科学読みものの読ませ方　学校図書館　120
高橋保夫　集団読書指導の実践　学校図書館　113
長沢昭治　読書指導における読解指導　学校図書館　115
飛田文雄　読書指導への反省二つ　学校図書館　120
平山多津雄　「辞典指導の展開」とその中から考えたこと　学校図書館　115
深川恒喜　読書指導の新しい課題＝「みずから選みみずから読む独立読書人」どう作りあげるか　新刊月報　83
福元喜久雄　読書感想文の指導雑感　学校図書館　120

古谷静子　読書感想文の指導　学校図書館　117
堀内輝三　読書のためのノートのとり方　学校図書館　120
牟岐　苓　読書指導と学校放送　学校図書館　117
矢野敏雄　児童生徒の読書指導に関するレポート　国学院雑誌　六一・1
横内好幸　改めて考えてみたい読書指導のあり方　実践国語教育　12
渡辺守順　高校生の読書感想文指導　学校図書館　117
渡辺吉之助　楽しみ集団指導の問題　本の本　193

読　書　時　潮　〈昭和36年1～3月〉

1　月

毎日芸術賞きまる

第2回毎日芸術賞（昭和35年度）のうち文学は1日，丹羽文雄「顔」にきまった。

（毎日新聞　1月1日，週刊読書人　1月9日）

先生の教科書は校費で

豊島子どもをまもる会は7日，豊島区議会に「P.T.A.の教育費負担を軽減してほしい。P.T.A.会費の中には当然校費で支出されなければならない筋ちがいの費目がふくまれている」という趣旨の請願を提出した。（読売新聞　1月8日）

「英文日本美術大観」が完成

日本文化の精華を全世界に紹介する「英文日本美術大観」(Art Treasures of Japan) が完成した。わが国古文化財研究の最高スタッフが1,500点の新国宝から500点を厳選した豪華な目録で，文化国ニッポンの面目を世界に問う有意義な出版として注目される。（毎日新聞　1月8日）

朝日文化賞きまる

昭和35年度（第31回）朝日文化賞は3日，つぎのとおりきまった。

津田左右吉（早大名誉教授，学士院会員）歴史学研究における業績
八杉貞利（東京外語大名誉教授）　多年にわたるロシア語教育の業績と「岩波ロシア語辞典」の完成
加藤敏夫（東大教授）　物理数学の近代的解析研究

（週刊誌書人　1月9日）

教科書が変わる

今年は戦後の六・三制以来の教育大改革が実行される。これは文部省が昭和33年に改正した教育課程，学習指導要領が4月から小学校で実施されるのであるが，この改定は“教科書が変わる”ことに端的にあらわれる。（毎日新聞　1月12日）

第120回NHK推せん図書きまる

第120回NHK推せん図書がつぎのようにきまった。

ビショップ著，石井桃子訳「シナの5にんきょうだい」福音館書店
ガアク著，石井桃子訳「100まんびきのねこ」福音館書店
NHK特別報道班「中南米を行く」　二見書房
辻　清明「政治を考える指標」　岩波書店
外村　繁「澪標」　講談社
岡田章雄「天草時貞」　吉川弘文館

（図書新聞1月14日）

第1回現代詩手帳賞決定

第1回現代詩手帖賞が10日，つぎのとおり決定した。

作品賞　生米　高「きらい，すき」
努力賞　川瀬省三「弔問」
奨励賞　長岡千鶴子「つまらないようなうた」

（図書新聞　1月21日　週刊誌書人　1月23日）

学校図書館　住民負担はだめ

文部省では学校司書の給与などを私費に依存してはならないことを過日通達した。P.T.A寄附金など住民の税外負担の軽減をはかる趣旨から，市町村の負担すべきものを住民に転稼してはならぬと釘をさしている。本年4月1日から実施されるが，この通達によれば学校司書を市町村で任用換えするか，クビにするかとの問題が生ずるが，全国学校図書館協議会では各県に趣旨徹底化と公費配置運動をすすめることを依頼した。（図書新聞　1月21日）

非行少年を対象に民放連が影響を調査

民放連（日本民間放送連盟）は「テレビの青少年に対する影響調査」結果の中間報告を20日に発表した。これによると「世間でさわがれるほどテレビの影響は大きくない」というのが結論のようである。（朝日新聞　1月

22日）

AA作家会議大会を東京で開催

アジア・アフリカ作家会議日本協議会では3月28日かしら3日間，東京産経会館で東京大会を開催すると決定した。この大会には約30ケ国から70人前後の作家，批評家，ジャーナリストが参加し，中心議題として“アジア・アフリカにおける国際緊張と作家の立場”がとり上げられる予定である。（週刊読書人　1月23日他）

芥川賞および直木賞きまる

昭和35年度下半期（第44回）芥川賞，直木賞の選考委員会は23日夜開かれ，それぞれつぎの作品に授賞と決定した。

芥川賞　三浦哲郎「忍ぶ川」（新潮　10月号）
直木賞　寺内大吉「はぐれ念仏」（近代説話　5号）
　　黒岩重吾「背徳のメス」（中央公論社刊）
（朝日新聞，毎日新聞，読売新聞　各1月24日他）

初の田村俊子賞に瀬戸内晴美氏

第1回田村俊子賞は23日，瀬戸内晴美氏の「田村淑子」（文学者　連載）に授賞ときまった。この賞は故田村俊子女史（昭和20年死去）を記念するため，同女史の印税を基金として設けられたもので，賞金5万円である。
（毎日新聞　1月24日　日本読書新聞　2月6日他）

“図書館教育”発表会おこなわる

文部省実験学校図書館教育研究発表会が27日，港区立高輪台小学校でひらかれ，授業参観や講演，分科会などを合せて研究発表がおこなわれた。この研究発表会は小学生の読書指導を主体とした図書館教育の文部省実験校として，昭和35～36年の2年間指定されていた同小学校の研究成果を発表し，さらにこの結果について都内の先生たちが討論し，来年度からの教育課程を効果的にしようとするものである。この日の研究発表のおもなものは，「カリキュラムの編成」であった。（朝日新聞　読売新聞　各1月28日他）

「悪徳の栄え」起訴

昨年4月警視庁はサドの「悪徳の栄え」（現代思潮社刊）をわいせつ文書の容疑で押収したが，20日東京地検では現代思潮社社長石井恭二，訳者渋沢竜彦の2氏をわいせつ文書販売，所持のかどで起訴した。（図書新聞　1月28日）

立売りから悪書追放――業者が全国運動申合せ――

東京都内の新聞スタンドを管理している東京都即売委員会の呼びかけで26日，日比谷の新聞協会会議室で新聞即売業者，取次業者代表が“悪書を売らない運動”を全国的に推進することを申し合せた。（毎日新聞　1月27日）

第5回国民文化全国集会開催

国民文化会議主催の第5回国民文化全国集会が21日から3日間，東京千駄ケ谷の日本青年館で全国のサークル労組の文化活動家2,500名を集めて開かれた。新安保体制下の文化活動のありかたについての特別分科会を中心に討議がおこなわれ，最終日の全体会議で各問題別分科会から提出されたアッピール原案を討議，採決した。（日本読書新聞，週刊読書人　各1月30日）

近代文学賞きまる

第2回近代文学賞は立原立秋「8月の午後」（近代文学　5月号），その他の短篇（同誌　3，7月号），草部和子「硝子の広場」（同誌　7～12月号）に決定した。この賞は1年間に雑誌「近代文学」に掲載された作品のうち，もっとも秀れたものにあたえられるものである。（同上）

2　月

読売文学賞　晴れの贈賞式

第12回読売文学賞の贈賞式は4日午前11時，読売新聞社でおこなわれた。受賞者と受賞作品はつぎのとおりである。

小説賞　外村　繁「澪標」
評論，伝記賞　福田恒存　「私の国語教室」と昨年度の諸作品
　　青柳瑞穂「ささやかな日本発堀」
研究，翻訳賞　福原麟太郎「トマス・グレイ研究抄」
詩歌，俳句賞　故小沢碧童「碧童句集」
（読売新聞　2月4日）

青少年読書感想文全国コンクール入選作品きまる

毎日新聞社，全国学校図書館協議会主催の青少年読書感想文全国コンクールの受賞作品がこのほど，つぎのように決定した。

総理大臣賞　栃木県宇都宮市　影川久子他2名
文部大臣賞　千葉県佐倉市　小出淑子他2名
毎日新聞社賞　鳥取県　中川泰彰他2名
全国学校図書館協議会長賞　千葉県　川上賢二他11名
（毎日新聞　2月5日）

郵送料値上反対請願

日本出版協会では一般出版物の郵便料金値上げに反対して請願をおこなった。請願の内容はつぎのとおりである。「出版物を対象とする第3種，第5種の郵便料金値

上げは出版文化助長を阻害するので反対である(以下略)（日本読書新聞　2月6日）

「声」休刊

昭和33年10月に第1号を出した文芸季刊誌「声」（丸善発行）が第10号で休刊することになった。同誌は大岡昇平，中村光夫氏などを同人としているが，経営上の問題と所期の目的を達したというのが休刊理由である。なお同誌には三島由紀夫「鏡子の家」などが掲載され，注目された。（同上）

さらにのびた週刊誌

昨年12月期におこなった週刊誌の調査によると，出版点数は前月より1点へって49点であるが，前年同期にくらべて5点増加している。おもに増加した種類は大衆・芸能関係の7点，経済関係1点であるが，逆に減少した種類は社会・時局関係，その他で，それぞれ2点，1点と減少している。また平均定価を1月第1週号についてみると49円で前年同期にくらべ，9％の値上りとなっているが，これはおもに新聞社系の値上りによるものである。また平均頁数，推定発行部数はそれぞれ95頁，56,790,000冊で，おのおの前月にくらべ4％，9％増となっているが，とくに平均頁数が前年同期にくらべ11％増，推定発行部数のうち，社会時局関係31,080,000部（17％増），大衆関係20,180,000冊（1％減）が目立つ現象である。（図書新聞　2月11日）

テロへの抗議集会—マス・コミ関係者が反逆の訴え—

出版労協，日放労，民放労連，映演総連，新聞労連のマス・コミ関係5単産と日本ジャーナリスト会議主催の「テロに抗議し，民主々義を守る集会」が8日，日比谷公会堂で2,000人の参加のもとにひらかれた。楢橋出版労協委員長が「中央公論社の人々がこの会場に来て報告できないという現実を認識して，わたしたちは団結してたたかおう」と発言，「中央公論事件に対して，すべての個人，団体に呼びかける」アッピールを満場一致で採択した。（週刊読書人　2月13日　図書新聞　2月18日）

世界の新聞ベスト・テン

米国のP.R.専門家エドワード・エル・バーネス氏は，さきに米国の新聞発行者に対し，米国以外の世界の指導的な主要新聞ベスト・テンをあげるよう投票を求めたがその結果がまとまった。

1．ガーデイアン（英　68.7％）　2．タイムズ（英　60.0％）　3．ラ・プレンカ（アルゼンチン　45.2％）　4．トロント・デーリー・スター（カナダ　13.9％）　5．デーリー・テレグラフ（英　13.0％）　6．毎日新聞（日　12.2％），ル・モンド（仏　12.2％）　7．フイガロ（仏　11.3％）　8．オブザーバー（英　10.4％）フランス・ソワール（仏　10.4％）　9．朝日新聞（日　8.7％）　10．モントリオール・スター（カナダ　7.8％）ちなみに米国のNo.1はニューヨーク・タイムズである。（毎日新聞　2月13日）

にぎわう記憶術書

光文社から南博編「記憶術—心理学から発見した20のルール」が出て1週間でベスト・セラーにランクされたが，さらに主婦の友社からは渡辺剛彰著「記憶術の実際—早く憶えて長く忘れぬ法」が17日に，富士書店から坂井昭夫著「記憶術入門—200桁の数字なら8分で覚える」が月末にそれぞれ刊行されることになり，出版界では記憶術ブームの声もあがっている。（週刊読書人　2月13日）

「愛唱歌集」を回収

琉球政府はこのほど沖縄教職員会から先生たちに配付された「愛唱歌集」4,000部の回収を同会に命じた。沖縄での出版物は琉球政府の許可を必要とし（実際には米民政府の示唆による），今年の「愛唱歌集」はその許可をまたずに印刷，配付したという理由からである。しかし実際にはこの歌集の内容が問題になっているのではないかとみられている。この歌集は「学校唱歌・民謡」のほか，「日教組の歌」，「民族独立行動隊の歌」の3部にわかれている。（朝日新聞　2月15日）

囲碁の月刊英文誌発行

日本棋院中央会館では今度囲碁の国際的普及に役立てるため月刊英文誌を発行する。部数5,000で1冊50セント（180円）である。（毎日新聞　2月18日）

小学館漫画賞該当作品なし

第6回小学館漫画賞は去る1月23日審査委員会で候補作品について検討したが，本年は受賞該当作品なしと決定した。（図書新聞　2月18日　週刊読書人　2月20日他）

女流文学者賞きまる

第12回女流文学者賞は10日の選考委員会で，つぎのとおりきまった。

芝木好子　「湯葉」（「群像」昭和35年9月号）

倉橋由美子　「パルタイ」（文芸春秋社刊）　（同上）

第122回NHK推せん図書きまる

第122回NHK推せん図書はつぎのとおりきまった。

J.A.V.著　柴谷篤弘等訳　「生命の内幕」　みすず書房

J．ネール等著　松本重治訳編「インドの心」中央公論社（図書新聞　2月18日）

ソビエト翻訳図書の統計

1960年度ソビエト翻訳図書の統計が日ソ翻訳出版懇話会でまとめられた。

部門別発行点数（括弧内は1959年度の数字を示す）

社会科学　60（53）　自然科学　36（36）　文学・芸術・スポーツ　37（41）　児童図書　35（19）　計168（149）

このうち重版は45点であり，総発行部数は958,420部である。（同上）

“中公テロ”で討論

民主々義を守る全国学者研究者の会では15日緊急幹事会をひらき，中央公論右翼テロ事件に対する対策を協議した。その結果20日午後6時から，衆議院第1議員室でひらかれる文化各界のこの問題に関する連絡協議会に全面的に参加，協力することをきめた。（日本読書新聞　2月20日）

菊池　寛賞きまる

日本文学振興会は20日夜選考顧問会をひらき，第9回菊池　寛賞をつぎの5氏と1団体に授賞ときめた。

花柳章太郎（新派俳優）　演技と演劇への功績

岡田桑三（東京シネマ社長）同氏を中心とする東京シネマの科学映画への功績

伊藤正徳（軍事評論家）　大平洋戦争外史ともいうべき一連の作品

NHKテレビ　ホーム・ドラマ「バス通り裏」の700回をこえたスタッフ一同の努力

三原　脩（大洋監督）　最下位の大洋球団を優勝させた作戦統率の妙

吉田幸三郎（国立劇場設立準備協議会委員）有形，無形の文化財の保存，保護に私財を投じて尽力した多年の功績

（朝日新聞，毎日新聞，各2月21日他）

こどもの教育—読書としつけのつどい—

インスタント時代の当世，こどもたちにねばり強い知識が育たないのではなかろうかというので，新宿区と同区教育委員会では児童心理の権威の応援を求め，“読書としつけのつどい”をひらいたが，対象は第2反抗期にあたる11〜12才のこどもをもつ母親たちであった。話し合いでは，スリラーもの，マンガ，週刊誌に熱中するこどもたちをどう指導すればよいかなどの質問がでた。結局，こどもたちに正常な知識探求欲をおこさせるには，両親がこどもたちの知識のレベルで一しょに物を考えることだと結論が出された。（毎日新聞　2月23日）

初の録音図書館

目の見えない人たちのために点字の図書を作り，盲人の家庭，団体へ郵送している東京都新宿区　日本点字図書館（本間一夫館長）では2年前からテープ・レコーダーによる声のライブラリーをはじめたが，手ぜまなため思うような効果があがらなかった。しかし各方面からの寄付が集まったので，わが国では初めての本格的な録音図書館の建設に着手，3月末に完成する。（朝日新聞　2月24日）

高村光太郎賞きまる

第4回高村光太郎賞詩部門の受賞者が25日午後，同賞選考委員会からつぎのとおり発表された。

山本太郎（詩人）詩集「ゴリラ」（ユリイカ刊）ならびに近作をふくむ詩集

手塚富雄（独文学者）「ゲオルゲとリルケの研究」（岩波書店刊）

（朝日新聞，毎日新聞，各2月26日他）

探偵作家クラブ賞きまる

日本探偵作家クラブは昭和36年度日本探偵作家クラブ賞が，つぎの作品にきまったと26日発表　。

笹沢佐保　「人喰い」　光文社

水上　勉　「海の牙」　河出書房新書

なお授賞式は3月11日の予定である。（朝日新聞，毎日新聞，各2月27日他）

80年の歴史を閉じる上野図書館

2,550,000,000円の工費と7年の歳月をかけ，東京都千代田区永田町に建設中の国立国会図書館は第1期工事を7月25日に終る予定で，目下配線設備や書架の備えつけなどを急いでいる。これにともない，学生や文化人に約80年間親しまれてきた上野図書館も歴史を閉じることになった。（毎日新聞　2月27日）

3　月

農民文学賞きまる

第5回農民文学賞はこのほど韮山圭介氏「山影」に授賞と決定した。授賞式は4日，日本出版クラブでおこなわれる。（毎日新聞　3月2日　図書新聞　3月4日他）

ペンクラブ声明

日本ペンクラブでは1日，丸の内東京会館別館で臨時総会をひらき，言論に対する右翼テロなどの最近の風潮について，「表現の自由に対するあらゆる抑圧に反対す

る」旨の声明をおこなった。（週刊読書人　3月6日）

芸術選奨今年の受賞

文部省の昭和35年度（第11回）芸術選奨受賞者が8日きまった。この賞は文学，芸能，評論部門でこの年度に秀れた作品を残し，芸術の発展につくした人に贈られるが，読書関係では今年はつぎの人々が選ばれた。

文学　島尾敏雄　小説集「死の棘」の秀れた文学的達成

評論その他　天野秀延（音楽評論家）　著書「現代イタリア音楽」（音楽の友社刊）での20年をこえる研究の集大成

林屋辰三郎（立命館大学文学部教授）

著者「中世芸能史の研究」（岩波書店刊）での画期的成果

（朝日新聞　3月9日　週刊読書人　3月13日）

昭和36年度宝石賞きまる

昭和36年度（第2回）宝石賞はこのたび，つぎの2作品にきまった。

川辺豊三　「蟻塚」

蒼社廉三　「屍衛兵」

（図書新聞　3月11日　週刊読書人　3月13日）

学士院賞，恩賜賞きまる

昭和36年度日本学士院恩賜賞と学士院賞の受賞者が13日，つぎのとおりきまった。

恩賜賞　沖中重雄　「自律神経に関する研究」

学士院賞　岸辺成雄　「唐代音楽の歴史的研究　楽制篇　上巻」

長沢信寿　「アウグステイーヌス哲学の研究」

福原満洲雄　「微分方程式の研究」

石橋雅義　「海洋化学に関する研究」

佐藤知雄　「鉄鋼中の炭化物に関する研究」

磯　永吉　「亜熱帯における稲の育体に関する研究」

市原　硬　須田正巳　「2・3アミノサンの中間代謝およびこれに関する酵素の研究

（朝日新聞　3月13日　読売新聞　3月14日）

英国新刊学術図書展ひらく

英国文化振興会，出版文化国際会議共催，文部省，外務省後援，日本書籍出版協会，洋書輸入協会，週刊読書人協賛「英国学術図書展」が7日から12日まで，白木屋でひらかれた。（週刊読書人　3月13日）

盗作詩？　を入選に　児童雑誌投稿欄が問題化

こども雑誌の投稿欄に盗作詩らしい作品が入選，関係者をあわてさせている。問題になったのは小学館発行の「小学5年生＝進級お祝い号」の「キャッチ・ボール」という詩であり，岐阜県の小学4年生の投稿で，特選，入選各1点の中の入選になっている。ところが東京，三田の学校図書株式会社が出している「小学国語」4年下の教科書に，これとそっくりの詩が収められていることから問題となったものである。（朝日新聞　3月17日）

「宴のあと」三島氏らを有田氏が告訴

元外相有田八郎氏は15日，「三島由紀夫氏の小説〈宴のあと〉（新潮社刊）はあきらかに私をモデルにしたもので，これによって私のプライバシーの権利をひどく場つけられた。これは憲法の保証する幸福追求権を侵害するものだ」と作者の三島氏，出版社の新潮社々長　佐藤義夫氏，同社副社長兼出版部長　佐藤亮一氏を相手に損害賠償1,000,000円，謝罪広告請求の訴えを東京地検に提出した。（図書新聞　3月18日）

こども読書週間きまる

今年のこどもの読書週間は読書推進運動協議会主催で例年どおり5月1日から14日まで2週間にわたってひらかれる。標語は「ぼくもわたしもたのしい読書」ときまった。行事プランは同会読書週間委員会で検討中である。（日本読書新聞　週刊読書人　各3月20日）

「群像」新人文学賞きまる

第4回「群像」新人文学賞は20日夜，成相夏男氏の評論「斎藤茂吉論」に授賞ときまった。小説部門は該当なしであるが，最優秀作は「逆縁」で，同じ成相氏の作品で，どちらも「群像」5月号に掲載される。（朝日新聞　毎日新聞　各3月22日）

フランス出版界の現状

1959年フランスで出版された書籍は11,359種で世界第3位を占めた。そのうち52%が新刊書で，48%が重版である。新刊書は重版にくらべ，法律および医学で75%，文学　65%，技術書で60%それぞれ多いが，教育書，百科全書，美術書，児童向き書籍では，新刊書より重版のほうが多い。平均して新刊書の発行部数は5,000〜6,000部ぐらいである。フランスには約450の出版社があるがそのうち全国出版組合に加入しているのは387社，その従業員総数は6,869名，したがって1出版社あたり18名弱で，日本と同じく小企業の域を出ていない。（日本読書新聞　3月27日）

あすへの教育—教科書をみる—

六・三制教育は転換期にあるが，今年は小学校では新学期から教科書や授業の進めかたがかわり，来年は中学校がかわる。教科書についての現在の問題点は文部省検定教科書が幾種類もあって統一がない。そこで今年から音楽科の教科書には各学年3曲ずつ全国共通の歌をのせることになった。またこの新学期から1年生から6年生までの音楽の教科書に「君が代」が入り，うたうかうたわないかで文部省と日教組の間で長い間論争が続いたが結局16年ぶりにうたうことが義務づけられたわけである。にもかかわらず1年生に「君が代」を教えることは困難であり，問題があるようである。（朝日新聞　3月30，31日）

あとがき

この「読書時潮」編さんにあたって，秋元洋子，栗原昭子，古賀富士子（いずれも文部省図書館職員養成所学生）の3嬢の協力を得たことを附記し，謝意を表する次第である。

会　　報

常任理事会（6月9日）

報　告

1．読書科学18号の出版が遅れた。
2．本誌発行に関する財政事情が悪化した。
3．文部省科学研究費は採択されなかった。

審　議

1．第5回研究大会の開催について協議。
2．民間大会社で公募する科学研究費を受けることについて協議。
3．会員名簿を作成し，機関誌に掲載する。
4．東販出版科学研究所の読書調査を後援することを承認。
5．読書科学は，19，20号を合併号として刊行する。

常任理事会（7月14日）

審　議

1．第5回研究大会開催について，細目決定。

第5回研究大会実行委員会（8月1日）

1．第5回研究大会，読書指導講習会の準備。

第5回研究大会・読書指導講習会

主　催　日本読書学会
後　援　文部省・東京都教育委員会
　　全国学校図書館協議会・日本図書館協会
　　よい本をすすめる会・読書指導研究会
と　き　昭和36年8月3・4・5・6日
ところ　伊勢丹ホール

8月3日（研究大会）

午　前　司会　佐藤宏之助・清水正男
10.20　あいさつ　日本読書学会会長　阪本　一郎
10.30　読書過程の実験的研究
　（第4特別委員会第1研究部会報告）
　1．読後における記憶と再体制化
　　東京教育大学　佐藤　泰正
　2．PGR実験を中心に　東京教育大学　阪本　敬彦
　3．読書材料と心搏，脈波，呼吸，
　　PGRとの関係　東京教育大学　原野広太郎
　4．モノログを中心に　立正学園女子短期大学　岡本　奎六
11.45　読書における眼球運動〔英文の場合〕
　　東京教育大学　永沢　幸七
　　東京教育大学　阪本　敬彦

午　後　司会　佐藤泰正・尾原淳夫
0.10　理事会
1.00　農村における児童の読書生活と心理
　　川口市山田小学校　楮本　良平
1.25　テレビ図書館の視聴と読書指導
　　秋田県高梨小学校　渡辺　正己
1.50　カナ文字の識別に関する研究
　（第7特別委員会報告）　国立国語研究所　村石　昭三
　　東京教育大学　加賀　秀夫
　　東京教育大学　阪本　敬彦
2.15　読書による態度変容の実験的研究
　（第4特別委員会第2研究部会報告）
　1．Fiction「真実一路」の場合

国立国語研究所 村石 昭三

2．Non-Fiction「動物となかよしになるには」の場合東京都田園調布小学校 岡田 明

2.40 勤労青少年の読書実態調査

（第4特別委員会第3研究部会報告）

1．調査方法 文部省図書館職員養成所 服部金太郎

2．素集計の分析

文部省図書館職員養成所 北島 武彦

3．中小企業体の青少年の読書実態

都立青年の家 安井 辰雄

4.20 理事会

4.45 総 会

8月4日（講習会）

午 前 司会 岡本奎六

10.20 人格形成の読書指導 東京学芸大学教授 阪本 一郎

11.40 読書財と視聴覚財 東京教育大学講師 大内 茂男

午 後 司会 滑川道夫

2.00 読書と言葉の問題 評論家 亀井勝一郎

3.30 マスコミと読書 家お茶の水女子大学教授 松村 康平

5.00 懇親会

8月5日（講習会）

午 前 司会 村石昭三

10.20 読書感想文の指導 東京学芸大学助教授 望月 久貴

11.40 児童読み物の現状 東京教育大学講師 滑川 道夫

午 後 司会 望月久貴

2.00 読書実態調査の方法 岡本 奎六

3.00 カリキュラムと読書指導

東京学芸大学助教授 深川 恒喜

8月6日（見学・観光）

理事会（8月3日）

1．昭和35年度決算の承認

2．昭和36年度予算案の承認

3．昭和36年度総会に提出すべき議題の決定

4．会員増加に協力することの申合せ

総 会（8月3日）

報 告 議長 望月 理事

1．会務報告 （深川理事）

2．昭和35年度決算報告 （村石理事）

同監査報告 （森田理事）

議 事

1．議長選出

2．昭和36年度事業計画

a．総合研究――本年度は行なわず

b．特別研究――標準読み物の研究

c．公開研究会――年度内に5回開催

d．支部設置――地方会員において促進

e．研究助成――9月末日までの申込により決定する

f．「読書科学講座」の編集出版を促進する

g．研究協力学校を設けること

h．地方の研究活動への協力を図る

3．昭和36年度予算の承認

4．役員異動 会員増加のこと

5．来年度大会 東京にて夏季休暇中に開催すること

常任理事会（11月13日）

報 告

1．文部省より昭和36年度教育研究団体等教育研究費国庫補助金として5万円が交付された。

審 議

1．「標準読みものの研究」をテーマとする第八特別委員会を発足（委員長阪本会長）。国庫補助金を研究費にあてる。

2．機関誌発行が遅れているので，この対策について協議。牧書店に協力を求め本年度は合併号を2回刊行する。

3．送金手数料・バックナンバー送料など従来学会負担であったものを会員負担とする。

4．専任事務職員をおき，事務の円滑をはかるようにつとめる。

編集委員会（12月8日）

1．読書科学19・20合併号の編集

昭和35年度決算報告

収 入	891,940	
くりこし金		77,080
会 費		124,000
賛助会費		665,000
第4回大会参会費		4,800
寄付・広告料		15,000
売 上 金		4,601
利 子		1,459
支 出	832,129	
機関誌買上15.16号		210,000
機関誌作成費		90.993
人 件 費		84,200

消耗品費		72,416
連絡費		18,183
送　料		133,236
会議費		50,100
雑　費		12,290
庶務理事会費		6,500
地方研究費		10,000
第4回研究大会関係		123,711
公開研究会関係		20,500
残　高	59,811	

昭和36年度予算

収　入	1,119,811	
前年度くりこし金		59,811
会　費		300,000
賛助会費		700,000
第5回研究大会参会費		10,000
国庫補助金		50,000
支　出	1,119,811	
機関誌出版費		410,000
運営費		250,000
研究調査費		350,000
第5回研究大会開催費		100,000
雑　費		9,811
差　引	0	

《『動物となかよしになるには』の態度の調査のための問題》

岡　田　　明

第Ⅰ部（注…○は正答）

つぎの動物についてのもんだいに答えなさい。（それぞれの4つの答の中から，自分はこう思うというのを一つえらんで○をつけなさい。

(1) トラやライオンのような猛獣を飼いならすのには？

1) 愛情だけでじゅうぶんだ。

○2) 愛情もだいじだが，せいしつ（習性）を知ることもだいじだ。

3) 愛情がなくても，せいしつ（習性）を知ればわけはない。

4) 人間はこわいものだと思わせればよい。

(2) 新しく生けどった猛獣を手なづけるには？

1) すきなえさをたくさん食べさせるのがよい。

○2) やさしい声をかけて，えさをやるのがよい。

3) 大ぜいの人がとりかこんで，人間になれさせるのがよい。

4) 痛いめにあわせて人間をこわがらせるのがよい。

(3) 動物園で飼われているトラやライオンは？

1) すきがあったら，おりから逃げ出そうとしている。

○2) おりの中がいちばん，安全なすまいだと思っている。

3) 見物にくる人間をおそうことができないので怒っている。

4) おりの戸をあけても，けっして外には出ない。

(4) 動物のあかちゃんを人間がだくと，母親の動物は？

1) かわいがられていると思ってよろこぶ。

○2) 子どもを取られると思って心配する。

3) 人間のにおいがうつるので，子どもをかわいがらなくなる。

4) やきもちをやく。

(5) 野生のアザラシやカルガモは，猛獣が近づくと？

○1) 子どもをおきざりにしてにげる。

2) 子どもをにがして自分が猛獣に食われる。

3) 子どもをはげましていっしょににげる。

○4) 子どもをかばって猛獣におそいかかる。

(6) 動物が人間におそいかかるのは？

1) 長いあいだ人間にいじめられたしかえしだ。

2) 人間が弱そうだと思うからだ。

3) 人間がえさをやらないからだ。

4) 人間が動物の気に入らないことをするからだ。

(7) カバをとらえるには塩をえさにする。そのわけは？

○1) カバは草を食べる動物だから。

2) カバは肉を食べる動物だから。

3) カバは川の中に住んでいるから。

4) カバは歯にはさまった物がくさらないように塩を食べる習性があるから。

(8) 飼っている動物がわるいことをしたときは？

1) しらないで見のがしてやるのがよい。

2) えさをやるのをやめて，こらしめるのがよい。

○3) きびしくしかるのがよい。

4) いっそうやさしくしてやるのがよい。

(9) キジやクジャクのように猛獣にねらわれやすい鳥はひるまは？

1) 高い木の上で木の実を食べている。

2) 見とおしのきくみじかい草のはらっぱで草の実を食べている。

○3) 草のしげみの中にかくれて草の実を食べている。

4) 巣(す)の中にとじこもって，じっとしている。

(10) においに敏感(びんかん)で角をもっているサイは，ねるとき，ライオンに気をつけてて？

1) 頭を風上(かざかみ)にしてねる。

○2) 頭を風下(かざしも)にしてねる。

3) 風のとおらない場所でねる。

4) ほらあなから頭を出してねる。

第 II 部

つぎの問は，ライオンとサルとイヌについての問題です。答のしかたは「ひじょうに　そう思うときには 1.　かなりそう思うときには 2.　ふつうであるか，またはわからないときには 3.　そう思わないときには 4.　ぜったいにそう思わないときには 5.」に○をつけるのです。

〔1. ライオン〕

1) 私はライオンがすきだ。　1　2　3　4　5

2) 若い元気のよい野生のライオンは，けっして家畜(かちく)をおそわない。

3) ライオンの母おやは，子どもよりも先にえさを食べる。

4) 動物園のライオンは，いつもえさをくれる人にはぜったいにおそいかからない。

5) ライオンの子は，一度に一ぴしか生まれない。

6) 犬の乳でそだったライオンは，大きくなってもその犬を覚えている。

7) ライオンの親は，すこしも子どもの遊びあいてにならない。

8) 野生のライオンでも，人間が自分に危害を加えないとわかればふつうはおそってこない。

9) 私はライオンの子をそだててみたい。

〔2. サ　ル〕

1) 私はサルがすきだ。　1　2　3　4　5

2) サルが芸(げい)をするのは，ごほうびのえさがほしいからだ。

3) サルはなにもしない人間をひっかく。

4) サルのめすは，ほかのめすが生んだ子をいじめる。

5) サルの母おやは，自分の子が死ぬと食べてしまう。

6) サルのボスは，けらいをかわいがる。

7) ヒョウは木にのぼれるからサルがこわがる。

8) サルはむれをなして生活しているので，なかまどうしはけんかをしない。

9) 人間がサルをかわいがれば，サルはなかまのボスより人間になつくようになる。

10) 私はサルを飼(か)ってみたい。

〔3. イ　ヌ〕

1) 私はイヌがすきだ。

2) イヌは主人の客と悪者とを，見わけることができる。

3) こわいイヌに近づくときは，棒(ぼう)を持っているのがよい。

4) イヌはごほうびを考えないで，主人の敵に向かっていく。

5) イヌとサルとは，なかよしにさせることができない。

6) イヌは自分のにおいと同じにおいがすれば，猛獣の子どものそばへでもよっていく。

7) イヌは訓練(くんれん)すれば，主人の家の赤ちゃんの番をすることができるようになる。

8) イヌは人間の声の調子で，それが自分に呼びかけているのかどうかがわかる。

9) イヌは音やにおいよりも目のほうが敏感だ。

10) 私はイヌに芸をしこんでみたい。

第Ⅲ部

□のわくの中にあるような場面に，もしもあなたが出あったなら，あなたはどうしますか。（問1）の答の中から，こうするにちがいないと思うものを一つえらんで○をつけなさい。また，そうするわけを（問2）の答の中から一つえらんで○をつけなさい。

(1) このあいだ，おばさんの家へおつかいにいきました。とちゅうで見たこともないこわい犬が私にほえかかり，いまにもとびつきそうにしました。

（問1） このようなときには，あなたはどうしますか。

1) かけ足で，その場からにげだす。

2) 犬に石をぶっつけるか，そのまねをする。

○3) 犬にやさしい声をかける。

4) 大きな声で「だれか来てえ。」と呼ぶ。

5) しらん顔をして，じっと立っている。

（問2） あなたが問1の答のようにするわけはどれですか。

1) 犬は人間のほうが強いと思うとかかってこない。

2) 犬は人間のほうが弱いと思うとかかってこない。

○3) 犬はこちらが攻撃しなければ，かかってこない。

4) 犬は知っている人のいうことでなければきかない。

○5) 犬は人間が味方だと思えばかかってこない。

6) あぶないところからは，にげるのが，いちばんよい。

(2) 私は野原で犬をつなから放して運動させていました。すると木のかげから，ひょっこり小さな子どもがとびだしてきました。犬はおどろいて怒ったようにうなりました。この犬は人にかみつくくせがあります。

（問1） このようなときには，あなたならどうしますか。

1) 家の人をよんでくる。

2) 小さい子に「はやくにげろ。」とどなる。

3) かけて行って子どもをだきあげる。

4) 犬をしかる。

5) 子どもをつれてきた人を大声でよぶ。

（問2） あなたが問1の答のようにするわけは，どれですか。

1) 犬の足は人間よりも速い。

○2) 犬は飼い主がしかればおとなしくなる。

3) 犬が怒ったら飼い主の言うことまできかない。

4) 犬は相手が大ぜいなら，かかっていかない。

5) 犬がかみついたら，おとなでなければならない。

6) 犬は飼い主のしたしい者には，かかっていかない。

(3) 私は，サルが放し飼いにしてある山の公園へ行きました。小さいサルにナンキン豆をやっているうちに，すっかりなかよしになりました。すると大きい強そうなサルがやってきてじっと私のほうを見ています。

（問1） このようなときには，あなたならどうしますか。

1) 大きいサルをよんでえさをやる。

2) 大きいサルにも小さいサルにもえさをやる。

3) 大きいサルはほうっておいて，小さいサルにえさをやる。

○4) 小さいサルにえさをやるのをやめて立ち去る。

5) 小さいサルをつれてほかの場所へ行く。

（問2） あなたが問1の答のようにするわけは，どれですか。

1) 大きいサルが人間にかかってくるかもしれない。

2) 大きいサルが，小さいサルをいじめるかもしれない。

○3) 小さいサルが人間にかかってくるかもしれない。

4) 人間になれたサルは，人間に危害を加えない。

5) 小さいサルが人間にかわいがられているのを見れば，大きいサルは満足している。

6) サルはえさをもらえば人間になれる。

(4) 私は山小屋へ薬をとどけなければなりません。とちゅうにはクマが出るさみしいところがあります。

(問1) このようなときには，あなたはどうしますか。

1) クマが出たら死んだまねをする。

2) 鉄砲を持っていく。

○3) ゆったりした歌を歌いながら行く。

4) ときどき，たいこをたたきながら行く。

5) 音を立てないようにこっそりと歩いて行く。

(問2)

1) クマは死んだ人間には何もしない。

○2) クマは害を加えない人間が近づいたと気づけばさきに逃げる。

3) クマは人間を見るとかならずおそいかかる。

4) クマは大きい音をこわがる。

5) クマはおとなしい動物だから危険はない。

6) クマを退治(たいじ)すればみんなにほめられる。

(5) 私のおじさんは，クマの子を家の中でそだてています。とてもよく人間になれておじさんにだかれて寝ます。おじさんは旅に出るので，そのクマの子を一か月ほど私にあずかってくれと言いました。

(問1) このようなときには，あなたならどうしますか。

○1) 父母が反対しても，ぜひあずかれるように努力すると答える。

2) 父母がゆるしてくれればあずかると答える。

3) すぐにはどうとも答えられない。

4) とてもせわができそうにないと答える。

5) きっぱりとことわる。

(問2) あなたが問1の答のようにするわけはどれですか。

○1) 私は動物を飼(か)うのがだいすきだ。

2) しばらくの間なら，ぜひ飼ってみたい。

3) 私にも動物を飼えるような気がする。

4) 私には動物を飼う自信がない。

5) 動物を飼ったってつまらない。

6) 私は動物を飼うのがだいすきだ。

教育基本語彙
阪本一郎 ¥780
実践講座・国語教育
全9巻 ¥300～¥480
新・仮名づかい論
江湖山恒明 ¥1,200
読書による人格形成
日本読書学会 ¥580
読書とマスコミュニケーション
石山脩平 波多野完治 阪本一郎 ¥290
読書指導
滑川道夫 ¥780
学校の図書館（ファーゴ）
阪本一郎訳 ¥750
マンガと子ども
滑川道夫 ¥270
テレビと子ども
滑川道夫 ¥380
ティーチングマシン
村井実 沼野一男 稲垣友美 ¥300

牧書店

Vol. VI, No. 1・2 April, 1962

THE SCIENCE OF READING

Edited by The Japanese Society for the Science of Reading
President : Ichiro Sakamoto
c/o The Faculty of Education, Tokyo University of Education, Japan

CONTENTS

Original Articles

The Analytical Study of the Reading Process *Keiroku Okamoto* ····· 1
A Study of Psycho-physical Responses in Reading Process *Hirotaro Harano* ····· 9
Psychogalvanic Responses in Reading *Takahiko Sakamoto* ····· 13
An Experimental Study for Attitude Changing by Reading *Akira Okada* ····· 17
A Study for Letter (Katakana)—Discrimination (I) *Shozo Muraishi, Takahiko Sakamoto, Hideo Kaga* ····· 23
Experimental Studies on the Phonetic Symbolism and the Emotional Tone of Words *Shusuke Fukuzawa* ····· 28
Assessing the Vocabulary Weight of Sentences *Ichiro Sakamoto* ····· 37
Children's Environment and their Reading *Norio Kawakita* ····· 45
The Present Reading Activities of the Youth in the Public Libraries *Takehiko Kitajima* ····· 49
Children's Reading Activities in the Rural Area *Ryohei Kazumoto* ····· 54
The Life and Reading of the Working Youth *The 3rd Study Group, JSSR.* ····· 59
A Survey of Reading in rural areas of Niigata Prefecture *Masai Watanabe* ····· 74
The Characteristic of the Cultural-Educational Expenses in Rural Districts *Tetsuji Nakano* ····· 86
"Television Library" and Reading Guidance *Masami Watanabe* ····· 93

Materials

Bibliographies on the Science of Reading ····· 102
The Map of the Current Reading World ····· 104

Official Notes ····· 109

第6巻 第1・2号
〈通巻第19・20号〉
昭和37年4月5日 印刷
昭和37年4月10日 発行

定価 400円

編者 日本読書学会
東京都文京区大塚窪町24
東京教育大学教育学研究室内
振替東京3213番
代表 阪本一郎

発行者 東京都新宿区揚場町1
牧 義雄

発行所 株式会社 牧書店
東京都新宿区(牛込局区内)揚場町1

IBM 6655

印刷・塚田印刷株式会社

昭和三十七年四月十日発行〈年四回発行〉
昭和三十一年十二月二十七日国鉄特別扱雑誌 第三三七三号